NATIONAL SOCIALISM
SELECTED WRITINGS

国家社会主義

選集

ナショナル社会主義ネットワーク
出版
2020

目次

国家社会主義

哲学的評価

コリン•ジョーダン

ボルシェビキと民主主義の同盟によって集められた圧倒的な兵力と物資に対する英雄的な闘争の結果、国家社会主義ドイツが物理的に敗北してから数十年後、この再評価の出現は、当時の特徴である国家社会主義の復活を反映しています。

数十年にわたり、世界が経験したことのないほどの誹謗中傷にさらされた後も、この信条が今のように生き続け、その姿を現していることは、その信条が今もなお有効で、人々に訴えかけ、未来にも価値のあるものであることの証左である。この信条が戦火と中傷の嵐を生き延びてきたのは、戦争が最悪の事態を招き、中傷が限りなく蔓延した時でさえ、国家社会主義は最終的に、人間の高次の生存意志、健康と強さへの本能、そして人生における美への欲求と同義であり続けたからである。そして、その意志、その本能、そしてその欲求がこの地球上に残る限り、国家社会主義の信条は不滅であり続けるであろう。

国家社会主義は、政治的実施のあらゆる細部や、時代や場所の特殊性を超えて、正しく理解すれば、精神の方向性に他なりません。その支配的な衝動は、組織化された人民の共同体の中で、自然な競争と淘汰、協力との調和という条件下で、個人の潜在能力の開発と個人の欲求の充足を通じて、完全に生きることです。

その根源は、プラトンのギリシャ時代と、出身社会における政府の支援力を通じて人間の本質を完全に実現するという彼の自然生活の概念に遡ります。

これはローマの義務を負う市民権の概念を反映している。
善良で高貴な人生とは、国家に対する禁欲的な奉仕にあるということ。

それは、古代ヨーロッパの北欧部族の血の感情と共同体意識を復活させます。つまり、人間は本質的に民族の一員であり、民族のすべてのメンバーは相互の義務と責任によって密接に結びついているという感覚です。

このように国家社会主義は、自由主義と民主主義の思想構造全体、その金銭的結びつき、その過度の個人主義、人間を民族のない存在とみなすその考え方に反抗して、古くて健全な有機的な生活の価値に立ち戻るのである。

世界人口という交換可能な単位、より小さな損害を避けるためならより大きな損害も容認する病的な「人道主義」を奉じる堕落したキリスト教におけるその精神的正当化、そして人工的に誘導され数値的に決定された大衆の願望が極めて重要な基準であるというその欺瞞的な主張。

歴史は社会の衰退と再生の物語である。国家社会主義は、資本主義と産業革命の発展によって中世の安定秩序が崩壊し、崩壊し、堕落し、去勢する思想と実践によって近代社会が大きく堕落した状況に対する、20世紀の再生の治療法である。国家社会主義は18世紀と19世紀の自由放任主義的自由主義の下で繁栄し、19世紀と20世紀の民主主義の下で頂点に達した。そして、国家社会主義が時宜を得て地球上の十分な地域で権力を握らない限り、20世紀末までに共産主義の世界的勝利をもたらすであろう。

したがって、国家社会主義は、単なる一時的な政治構想をはるかに超えるものである。それは再生の歴史的潮流、すなわち現代におけるルネサンス運動であり、その範囲と精神において革命的な運動であり、現体制、その有害な慣行、そしてその誤った価値観との妥協を求めるのではなく、それらを完全に置き換えることを目指すものである。

したがって、それは世界的であり、人生全体に浸透している。それが世界的であるのは、その本質において普遍的に有効で活力に満ちているからであり、その起源と伝統においてアーリア人であり、アーリア人に最もよく見られる資質を支持し、それに依存しているという点においてのみ限定される。

それは人生全体に関わるものであり、人生のある側面ではなく、一つの側面から見た人生全体である。それは、事実上あらゆるものに対して表現できる心構えである。国家社会主義は、政治経済の領域はもちろんのこと、文化や精神の領域におけるあらゆる不健康、醜悪、退廃の兆候に容赦なく反対する。実際、それは一つの生き方を構成する。人は、単に知的な支持を示すラベルとして自らを国家社会主義者と呼ぶのではない。人は生まれながらに国家社会主義への性向を持ち、その心は健全な生活様式の識別と充足感を美的に渇望している。そして、彼はそうではない。

彼はただ考え、感じるだけで、もし本当に完全に国家社会主義者であるならば、国家社会主義者として行動する。

国家社会主義は、その範囲と思想において総合的であり、哲学と信仰に等しい。善悪、正邪を、民衆にとって有益か有害かという基準で評価する。そして、民主主義精神の感傷的な弱点に代えて、手段が目的と矛盾しない限り、目的は手段を正当化するという考えを受け入れる。

それは、子宮の中で民族の血統が発芽し、墓が変態して宇宙に物理的に再分配されるまでの間、民族の継続と発展の中で、個人の達成として人生に宇宙的次元の意味と目的を設定します。

国家社会主義の基本的な基準と主要な価値は、他のすべてのものの源泉であり、アドルフ•ヒトラーが『我が闘争』で明らかにしているように、人間の本質的な環境であり、人格の延長であると見なされる「民族」の概念である。

フォーク（民族)の意義は、第一に、人種的共同体としての意義である。それは家族の民族的拡大である。人間は、自由主義や民主主義の賢人が主張するように、自己完結した単位ではなく、自己完結的な目的を持つ存在でもない。人間は自らのフォークに属する。その一部である彼の人生は、現在だけでなく、過去と未来を含む全体の人生と織り合わされている。なぜなら、人間は生まれては消えていくが、フォークは、その構成員がフォークに対する義務を果たす限り、連続的に、永遠に生き続けるからである。このように、自らのフォークと一体となることで、人間は祖先と子孫の多様性を通して自らを存続させ、それによって不滅を獲得する。

フォークは、家族、氏族、部族、あるいは地域社会、そして国民、そして人種へと、大小さまざまな形で存在しています。近代において、フォークの概念は、現代国家の国民とあまりにも大きく同一視されてしまいました。部族や小王国から近代国民国家へと正しく拡大してきた親族意識や共同体意識は、しかしながら、このレベルにあまりにも集中しすぎてしまいました。国民国家内の、より下位でより小規模でありながら、同様に重要な共同体は分裂し、活力を奪われ、国民国家レベルから全人種レベルへのフォーク意識の拡大は阻害されてきました。しかし、フォーク意識が健全な力を持つためには、その根源から地方や地方へと流れ出なければなりません。

共同体を人種の限界まで押し広げるのは、部分の完全な安全と繁栄は全体の中にのみ見出せるからである。

今日、そして将来、国家社会主義は、親族意識と共同体意識のこの本質的な拡張を、現代の国民国家と従来のナショナリズムの境界を超えて体現しなければならない。それによって、国民国家は民族構造の中間単位となり、そのナショナリズムと人種主義は全人種のナショナリズムに完全に従属することになる。

同時に、地域社会を復活させ、地方の小国家を承認し尊重し、望ましくない異質な支配下に置かれた人々に分離による民族的自由を与える必要がある。

国家社会主義の、人民を基本的価値として信じること、およびその全体的な見解は、比喩的に言えば、すべての問題に対して血を流して考えることにつながる。

これによって直ちに、そして必然的に、人種の問題としての市民権の定義が生まれる。つまり、アドルフ•ヒトラーの国家社会主義ドイツ労働者党の25ヶ条の4番目の原則を言い換えると、国民の一員であるのは国民の一員であり、国民の一員であるのは国家の市民である、ということになる。

それはまた、単に民族の民族的特徴を保存するだけでなく、優生学的手段によって民族の質を向上させることが必要であるという信念を生み出す。真の進歩への道は、より優れた人間を育成することにあるというのが、国家社会主義の革命的主張である。

すべての国民は同一の人種に属するため、あらゆる地域や階級の違い、そして個人的な区別を超えて、血の繋がった兄弟として結ばれる超越的な血縁関係を持つ。国民的統一、すなわち左翼と右翼の階級闘争に代わる結束と共同生活は、国家社会主義の偉大な副次的原則の一つである。あらゆる職業、あらゆる活動、あらゆる人々、あらゆる活動分野は、共同体という共同生活に統合されなければならない。

社会的な一体感は、社会経済的正義に対する真摯で深い関心によって実践的に表現され、ひいては刺激されなければならない。親族意識と国民全体の利益への配慮は、すべての市民が自らの才能と能力を伸ばし、発揮する平等な機会を持つことを要求する。

功績に応じて昇進し、すべての国民が社会への貢献に対して正当な報酬を受け、最も単純な労働者であっても生活必需品を保証されなければならない。

こうして、国家社会主義における社会主義的要素に到達します。

これは、生産手段と分配手段を国有化するマルクス主義社会主義ではない。これは蟻塚のような経済的過剰統治であり、資本主義体制の略奪的個人主義、つまりジャングルのような経済的劣悪、あるいは無政府状態と同じくらい忌まわしい。これはフォーク•ソーシャリズム、すなわち公正な条件の下での私企業の成果の公正な分配のための私企業の規制である。資本主義の経済的不公正と社会悪は、有害な経済の公的統制を伴うマルクス主義を育んできた。そして、これら両方に代わるものは国家社会主義である。

民族の防衛、国家の統一、そして人民の福祉を包含する民族理想は、これらの目的に奉仕する指導者とエリートという国家社会主義の原理を生み出した。その自然秩序観は、人間が民族の中で生きるために民族の中に生まれることを規定するだけでなく、共同体に奉仕する能力の遺伝的差異も有することを規定するものである。

したがって、すべての人々の最大の利益のためには、上位者が下位者を率いなければなりません。生まれながらのリーダーは選抜され、最高指導者の下にある階層的なエリートとして確立され、その機能を遂行する権限を与えられなければなりません。

自由主義とは異なり、国家社会主義は国家の指揮権を本質的に抑圧的なものとみなすのではなく、指導と調停、奨励と保護という偉大で有益な力とみなす。「すべては人民のために、人民は万人のために」という格言を掲げる。社会を構成するすべての人々、すべてのものがこの格言に調和するよう、あらゆる分野において必要なあらゆる手段を容認する。

国家社会主義政府の義務は民衆の意志の代表であり、民主的な暴徒の一時的な気まぐれとしてではなく、歴史的観点から目的の継続として見られるコミュニティのより高い利益として考えられ、現在の一般的な利益だけでなく、過去の遺産と将来のニーズも包含します。

ホワイトパワー

第15章
国家社会主義

ジョージ•リンカーン•ロックウェル

これまでのところ、この本は主に批判的な内容となっている。
今こそ、構築と創造のための建設的な計画を提示するときです。

私は、西洋文明がローマ文明の終焉、すなわち忘却からわずか数年以内に差し掛かっていることを読者に理解してもらうために、1年間の研究と数百ページに及ぶ執筆を費やしてきました。そして、敵から逃げるのをやめて、白人革命で攻撃するという意志と知恵をなんとかして見つけ出さなければ、読者自身も、西洋文明の宿敵であるユダヤ人の手に落ちた何百万人もの人々と同じ運命、すなわち奴隷化、あるいは、おそらくは殺害を経験することになるだろうということを読者に理解してもらうために、1年間の研究と数百ページにわたる執筆を費やしてきました。

革命を起こすにはどうすればいいのでしょうか?
私たち全員が髭を生やし、通りに出て叫び、腕を振り回し、爆弾を投げつけ、ステレオタイプの「革命家」を演じるべきなのでしょうか ?いいえ !もちろん違います。私たちの革命はすべて私たちのために用意されているのです。

ヒトラーは比較的平和的な革命を鼓舞し、組織し、成し遂げた。その革命で失われた命はアメリカ独立戦争よりもはるかに少なく、ユダヤ人ボルシェビキが成し遂げたどの革命と比べても微々たる数だった。

それだけでなく、ヒトラーの革命は、『我が闘争』で約束した通り、100%「合法」――正統――であり、ドイツ国民の大多数の正式な意思表明であり、ドイツの最高責任者であるヒンデンブルクと、ドイツの「議会」である国会の両方によって承認されたものでした。ヒトラーには武力で権力を掌握する機会が幾度となくあり、1931年には容易にそれを実行できたはずです。しかしヒトラーは、民意に反する革命、武力によってのみ権力を獲得する革命は長くは続かないと考えていました。

ヒトラーは私と同じように、指導者は文明の敵であると信じていた
国民の意志が彼を支持しない限りは。
では、どうすれば「革命」を訴えることができるのでしょうか ?どうすれば書けるのでしょうか ?
「殺し、殺される」ということ ?革命の本質は暴力ではないのか ?

必ずしもそうではない
確かに暴力的な要素はあるかもしれません。殺人犯に襲われ、死ぬか、あるいは相手と戦うかという選択を迫られたとき、

自分自身が死ぬなら、暴力しか選択肢はない。そして西洋の
実際、文明は、歴史上のどの集団よりも残酷な殺人と虐殺を政策として定期的に行う敵の攻撃を受けている。

だから我々は共産主義を止めるほどの暴力を行使しなければならない
敵を殺し、その権力を粉砕するほど冷酷です。

1923年、赤軍がバイエルンで権力を掌握しようとしたとき、国民党、保守派、そしてルーデンドルフ将軍はヒトラーにミュンヘンで「クーデター」、つまり反乱を起こすよう要請した。そして弱虫は
指導者たちは土壇場で彼を裏切った。「プッチ」は鎮圧され、ヒトラーは投獄された。しかし、後の出来事が証明するように、これは民衆の意志に反する革命ではなかった。しかし、真の革命の本質は、流血と大混乱だけではない。真に永続的な革命において、暴力と殺戮は、社会の根本的な変化を実現するための一つの手段に過ぎない。

全体的な精神的展望 - 内なる理想に従って物質的な事柄の新しい取り決めを確立しようとする人間の至高の意志の外的な表明。

今日の権力者のほとんどが行使する権威は、偽善的に「民主主義」を装っているものの、紛れもない専制政治である。それは、建国の父たちが白人の利益のために確立した秩序と正義を維持する、慈悲深く知的な権威ではない。

我々の革命は、暴君の違法な権力を破壊し、国民から直接もたらされる確固たる権威に基づく公正な社会秩序を回復するという理想にしっかりと基づいていなければなりません。
リーダーには自由に付与されます。

信じられないかもしれないが、それはまさにアドルフ•ヒトラーがドイツに対して行ったことであり、私たちがアメリカに対して行わなければならないことなのだ。

要するに、我々の革命の原動力と目標は、敵に対する憎悪と破壊だけではなく、我々の偉大な白人種の成功、幸福、生産的な一員として各人が最大限の潜在能力を発揮できる公正な社会秩序を確立するという絶対的な決意に満ちていなければならない。

そのような公正な社会秩序とは何でしょうか?
科学的な理解は必要ない
健康な人々のグループ生活を成功させるための原則

自然な本能が損なわれていない社会。例えば動物は秩序があり、成功した「社会」を築いています。なぜなら、自然はあらゆる社会的な生き物に、集団生活で成功するために必要な本能をすべて与えているからです。

例えば、オオカミ、アリ、ハチ、そして類人猿は、
組織化され、完全に健全で秩序ある社会。

初期の人類は健全な社会を築いていました。しかし、自然に対する支配力が強まるにつれ、人間は自然環境から逃れ、人工物と贅沢に身を包み、堕落し、傲慢な自尊心——今日では「リベラリズム」と呼ばれるもの——に満ちた存在へと変貌しました。

思考力も文明化もされていない動物界のより単純で原始的な生活状況に立ち戻り、創造主から与えられた本能の働きを観察することによってのみ、

私たちに与えられ、そして私たちが捨ててきたものの素晴らしさを垣間見ることができるでしょうか。

自然は「品種」を創造し、優れた農民と同じように、実験を重ね、常により良い品種を探求してきました。創造主は、いかなる人間よりも限りなく賢明な農民であり、それぞれの集団の純粋さ、神聖さ、つまり生物学的完全性を絶対的に求めています。

しかし、自然は、牛を飼育する農家のように、より優れた品種の繁殖を促進し、劣った品種を排除することによってのみ、品種を改良することができる。自然は、この作業を最も効率的に行う。

私たちに与えられた強力な本能 :自分自身への愛、そして侵入者、つまり「部外者」への憎しみ。

これら 2 つの本能は同様に重要です。愛は「善」ではなく、憎しみは「悪」です。これは、ユダヤ人、リベラル派、ヒッピー、クィア、愚か者たちが大好物の作り話です。

愛は、自然なものである時、実に信じられないほど力強く、素晴らしいものです。自然で健全な愛こそが、世界を動かす原動力であり、この地球上で私たちが目にする最も美しく、神聖な奇跡なのです。

しかし、それに対する致命的な憎しみがなければ
愛するものを脅かす、愛は空虚なもの
言葉、それはヒッピー、クィア、臆病者のためのキャッチフレーズ。

私はこの社会生活の特別な法則についてもっと詳しく書きたいと思う。なぜなら、これから見るように、生物学的完全性は、アーリア社会に当てはめた場合の国家社会主義の真髄であり、すべてであり、そして実際、これまで存在したあらゆる健全な人間社会の本質だからである。

しかし、このテーマだけで書けるほどの紙幅は、この著作には到底ありません。要約すると、社会的な生き物による集団生活の第一法則は生物学的完全性、つまり、自らの人種集団に対する絶対的で妥協のない忠誠心であり、それは「自己の種族的完全性」に基づくものである、としか言えません。 合計

燃えるような愛情、そして、自分のグループの女性たちの遺伝子と混ざると脅かして侵入してくる部外者に対する絶対的で妥協のない憎悪。

この法則が日常的に表れるのは、自分と同じ種族への愛と、攻撃的な侵入者への憎しみである（健康な白人のほとんどが「ニガー」やユダヤ人、その他の「異邦人」に対して本能的な嫌悪感を抱いているのはそのためである）。

2番目に重要な法律は領土に関する法律です。
たとえば、「ソードテール」と呼ばれる小さな熱帯魚のオス10匹から20匹は、水槽に入れるとすぐに水槽の一角を占領し、他のオスが侵入すると攻撃します。

水槽にメスを入れると、予想通りオス同士がメスをめぐって争う。しかし、科学者にとって驚きだったのは、これらの小魚にとって性欲が生活の最大の動機ではないということだ。
水槽の水を冷やし始めると、水が冷たくなりすぎて、メスを入れてもオスは気にしなくなることがあります。水が冷たくなりすぎると、

小魚が死にそうなほど寒いので、メスには全く注意を払いません。しかし、凍え死にそうな状況でも、彼らは自分たちの縄張り、つまり自分たちの私有地を守るために、猛然と姿を現すのです！

国家社会主義は、とりわけこの私有財産の概念に基づいています。領土法は、人間社会における「ナショナリズム」と私有財産として現れます。

動物界全体を通して、リーダーは投票によって選ばれるのではなく、常に自然が確立した自然淘汰によって選ばれる。これは、グループが最良のリーダーによって率いられることを保証する唯一の確実な方法である。

— 戦闘。私はこれをリーダーシップの法則と呼んでいます。

動物社会の各メンバーが、強靭さ、知恵、そして賢さという自然の生物学的秩序の中で自分の位置を学ぶと、それぞれのニッチに落ち着き、群れは比較的平和で秩序立った状態になります。若いオスが成熟し始め、序列を上下に争わなければならなくなると、ようやく本格的な争いが始まります。そして、各オスは自分が誰を鞭打てるか、そして誰が自分を鞭打てるかを学ぶと、すぐに落ち着き、自分が見つけた場所に平和に、そして満ち足りて暮らします。

こうして、あらゆる集団生活におけるさらに 2 つの基本原則または法則が確立されます。それは、最善者によるリーダーシップと、集団の他のすべてのメンバーによる自然な階層またはリーダーシップのスケール、つまりステータスです。

最後に、動物界の研究から、メスはオスのことに干渉せず、健全な家族を組織することで子育てと子育てに特化していることが明らかになっています。まとめると、あらゆる集団生活には5つの基本法則があり、私はこれを「部族の法則」と呼んでいます。

（１)生物学的完全性の法則（愛
内側は憎しみ、外側は憎しみ）

（２)領土法（私有財産）

（３)リーダーシップの法則（最善のものによる）

（４)地位の法則（集団内の各個人の自然な地位）

（５)女性の場合、母性。

こうした自然の原理が社会的な動物の世界全体に浸透して機能しているため、集団内には比較的平和と秩序が保たれています。

グループが何らかの理由で不自然な状況に追い込まれた場合にのみ、自然の鉄則に従うという神から与えられた本能は機能しなくなります。

これらすべてを自分の心の中で評価する際に、
少年犯罪の「狂った」パターン。息子たちがいて

最も「恵まれた」裕福な家庭の娘たちが、突如として発狂し、老人を殴り、無分別に物を破壊し、毒薬を服用し、傲慢で反社会的な犯罪者へと変貌する。一方で、社会で最も貧しい層の子供たちからは、ほとんど非行少年が生まれていない。

たとえば、ごく最近まで、中国の若者は決して非行を犯すことはなかった（そして、彼らの非行率は今でも他のグループよりはるかに低い）。非常に貧しくても、緊密に結びついたグループの若者は、現代の少年非行の狂気に巻き込まれていないことが多い。

なぜでしょうか？ 裕福な少年少女は、考えられる限りのあらゆる利点があるにもかかわらず、泥棒や破壊者、暴力的な反社会性を持つ一方で、アメリカで最も貧しい人々の子供たちは社会に適応し、建設的な行動をとるのでしょうか？

答えは、自然な集団生活の法則（「部族の法則」)をある程度維持してきた集団で育てられ、部族に忠誠心があると感じている子供たちである。

集団、つまり「部族」の一員として、自分たちが何か価値のあるものに「所属」しているという意識を持ち、それゆえ集団生活における5つの基本法則を理解している人は、挫折したり、迷ったり、
空の。

ユダヤ人は、自由主義と共産主義を広めることで、人類の集団を健康で幸せで平和にすることができる唯一のものである神聖な「部族の掟」の記憶をすべて私たちの人々の魂から消し去るプロセスを意識的かつ科学的に進めてきました。

人間は平和と生産的な幸福の中で生きることはできない
彼が属するある種の「部族」の外では
非常に忠誠心があり、それが彼を支持する
精神的に。

ユダヤ人は、人種も国籍もなく、分断された個人の集団である「普遍主義」「世界統一主義」という、言語に絶するほど破壊的な思想を、人類の至高の理念として広めてきた。保守派でさえ、この不自然で断片的で超個人主義的なユダヤ的社会病に、口先だけで賛同するように仕向けられてきた。

ユダヤ人は、生物学的完全性の法則（内なる愛、外なる憎しみ)は「人種差別」であり、史上最悪の「悪」だと教え込んでいる !黄色人種、黒人、そして特にユダヤ人を、私たち自身の同胞と同じくらい愛さないなら、私たちは邪悪で、堕落していて、破滅する運命にある、つまり「人種差別主義者」だと教え込まれている。何百万もの哀れな白人が、ユダヤ人の嘘を信じているのだ！

領土（私有財産)の法則は不自然な貪欲であり、良識ある人間はすべてを共有したいと望み、私有財産への欲求を持たないべきだと教えられています。彼らはこれを「マルクス主義社会主義」「共産主義」など、社会や共同体への関心を示す様々な呼び名で呼んでいますが、どれも生物が持つ最も強力で唯一の、建設し、創造し、生産するという動機の核心を突いています。何百万もの人々が、このユダヤ人の嘘つきを信じているのです。

ユダヤ人は、リーダーシップの法則（最善の支配)は「独裁」であり、我々は「民主主義」（暴徒による支配)を目指して努力しなければならないと教えている。何百万もの白人アーリア人が騙されて
この「民主主義」という魅惑的な歌を信じて、今や人間のゴミの群れが国全体を恐怖に陥れている。

ユダヤ人は、地位の法則（
ユダヤ人が言うように、各人がそれぞれの適材適所で能力を発揮できる自然な秩序を確立することは「階級搾取」であり、社会の自然な指導者、つまり成功した者たちは、成功しなかった者たちによって打ちのめされ、殺害されなければならない。善良な白人アーリア人で溢れる国々全体が、階級闘争を通じて我々の民族を分断し征服するという、この卑劣なユダヤ人のやり方に騙されてきたのだ。

最後に、これらの愛情深いユダヤ人たちは、女性を育児に特化させることは女性を野蛮に奴隷化することであり、女性は裁判官、機関士、陸軍将校、企業の幹部になるべきだと教え込んでいる。当然のことながら、その結果は、あらゆる健全な文明にとって神聖で美しい制度である母性、そしてそれに伴う家庭と家族の破壊が進むことである。西洋世界全体がこの「民主的」ユダヤ人の欺瞞に陥り、女性をユダヤ病の最も哀れな犠牲者に仕立て上げている。何百万人もの「現代」女性は、拡声器やテレビを通して「権利」の拡大を叫びながらも、絶望的に迷い、挫折し、ひどく惨めになっている。

騒動を起こす好戦的な政治組織の一員として行進する。
その一方で、何百万もの家族が温かく素晴らしい母親を失い、家庭は1世紀前の家庭のような愛と温かさの奇跡ではなく、豪華な監獄のようになってきています。

なぜこれほど多くの少年犯罪者がギャングに集まるのか、不思議に思ったことはありませんか？ 私も長年、多くの人と同じように、これは「不良」少年の不自然な性癖だと思い込んでいました。なぜなら、私はブルジョワ階級の「繭」のような環境で育ち、人生の残酷な現実をほとんど知らなかったからです。

しかし、すべての生き物の社会生活の法則、つまり「部族の法則」に従って生きるという人間の必要性を理解すると、
「ギャング」がよりわかりやすくなります。

これは、全く不健康な都会の環境によって子供たちに課せられた不自然な状況の結果として、これらの本能の外的な表現が凶暴かつ反社会的であるにもかかわらず、少なくとも私たちの子供たちは依然として健全な本能を持っていることを示しています。

ギャングの一番最初の特徴は「排他性」であることに注意してください。
彼らは熱狂的に「団結」している。一人を攻撃すれば、全員があなたを攻撃する。ギャングの女の一人にでも手を出せば、あなたは死ぬ。彼らは
彼らは互いに情熱的に忠誠を誓い合います。そして、部外者や攻撃者に対しては、さらに情熱的に憎悪を抱きます。

彼らは自然の神聖な生物学的法則を再主張した。
誠実さ、集団への忠誠心、理由は分からないが。

ギャングが次にやることは、「縄張り」——つまり領土を確保することだ。その「縄張り」を侵害する者は、ギャングの「私有財産」を侵害することになる。これ以上のことは考えられない。
明らかに領土法を例示しているのでしょうか?

ギャングは決して「民主的な」選挙によって率いられるのではなく、最もタフで、（ギャングの基準で）最も優秀な者によって率いられる。これはリーダーシップの法則の典型的な例である。

ギャングのメンバーがそれぞれ、ギャング内での自分の立場、つまり誰が自分より上で、誰が下かをはっきりと認識している様子を観察します。
誰かが彼に近づこうとすれば、彼は打ちのめされる。
一歩でも上を目指したら、上の人に打ち負かされる。これがステータスの法則だ —
自然界と全く同じだ。

最後に、ギャングの女性たちを観察してみましょう。彼女たちは何か

リーダーに命令する ?そんなことはない !走り回って「権利」を要求する ?とんでもない !彼らは他の動物界のメスと同じように行動し、オスのように振る舞おうとはしない。メスとしての役割、つまり力強いオスに「属する」こと、そして誇りを持ってオスを助けることに誇りを持っている。そして、これこそが健全で幸福な社会におけるメスの役割なのだ。

（興味深いのは、ユダヤ人のフロイト派精神科医の偽者が、薬物中毒者やアルコール中毒者の「治療」を行うために、集団の法則、部族の法則に戻ることを強いられていることだ。彼らは
集団を形成し、その集団への強い忠誠本能を持つ
時には孤独や個人的な弱点を克服できる）
黒人もまた、盲目的で愚かな闘いの中で同じことをしており、本能的に黒人としての忠誠心を形成し、「ブラックパワー」と叫び、お互いを「魂の兄弟」と呼び合っている。
ユダヤ人移民初期、ニューヨーク市ローワー•イースト•サイドは極度の貧困に見舞われていたにもかかわらず、ヨーロッパから来たこの哀れなユダヤ人の群れでさえ、狂信的な集団忠誠心で結束し、「部族の掟」を全て遵守していたため、彼らの間には非行や犯罪はほとんど見られなかった。実際、これらのユダヤ人の集団忠誠心は、おそらく世界史上最も素晴らしいと言えるだろう。それが彼らを全世界をほぼ支配するに至らしめたのだ。それは彼らが私たちよりも勇敢で、勤勉で、賢く、あるいは高潔だからではなく、自然の基本法則を遵守し、集団忠誠心を維持しているからである。私たち全員が彼らの腐った「一つの世界」「私たちは皆兄弟」という戯言に騙され、社会を崩壊させている一方で、ユダヤ人は歴史上かつてないほどの集団忠誠心で社会を維持し、こうして次々と勝利を収めている。

50年前、アドルフ•ヒトラーがこれらすべてを直感的に新しい世界観、国家社会主義の世界観として理解し始めて初めて、非ユダヤ人は台頭しつつある世界について初めて洞察を得た。
人間の集団生活の科学。私たちが何世紀にもわたって本能的に行ってきたこと、そしてユダヤ人が今も本能的に行っていることを、アドルフ•ヒトラーは直感的に理解し始めた。
国家社会主義の本質は人種差別であり、簡単に言えば、人間の優秀さはそれぞれ異なるという信念である。

人種は他のすべての生物と全く同じであり、白人は今のところ最も優れた種族であり、黒人は最も低い種族である。読者の皆様もご記憶のとおり、これが集団生活の第一の法則、私が「生物学的完全性」と名付けた法則なのです。

ユダヤ人（と「保守派」)の忌まわしい嘘とは裏腹に、私有財産はアドルフ•ヒトラーによって強力に保護され、クルップをはじめとする大小さまざまな財産所有者や実業家はヒトラーの支配下で一銭も損をすることはなかった。ドイツ諸侯も同様であった。（かつて、ヒトラーの党内の過激な「左翼」たちがドイツ諸侯の財産を奪おうとしたため、ヒトラーは

ヒトラーは自らの勢力内で反乱を起こし、彼らの財産権を守りました。そして、彼はそれを成し遂げました。ヒトラーは国家主義者であり、領土と私有財産の信奉者でした。

言うまでもなく、ヒトラーは国民にリーダーシップを与えた。
甘い言葉や扇動的な言動ではなく、人々は彼を愛していました。幸せで成功し、健全な社会集団の人々が皆そうするように、彼らは愛情を込めて、そして喜んで彼に従いました。

ヒトラーの国民の間には平和と秩序がありました。なぜなら、彼は、優れた溝掘り人であること（それが国民に奉仕する能力の限界であったとしても)は、新しく素晴らしい機械を発明したり、政治指導者となることができる人と同じくらい尊敬されるべきであり、尊敬されなければならないと教えたからです。

ヒトラーのドイツでは、各人が社会における自分の地位を全力で果たす限り、尊重されていた。彼らは（我々のユダヤ人がユダヤ人に)永遠に煽動されて要求することはなかった。
そうした特別な才能を持って生まれていない人がいるにもかかわらず、社長や取締役会長、役員などの職に就く人がいます。

できることに失敗しながら、できないことを目指して大騒ぎするのは、秩序ある幸福な社会を乱すだけでなく、それを拒む個人を絶望的に苛立たせることになる。
世界における彼の自然な立場を認識する。

こうしてヒトラーの国家は地位の法則を認めた。農民、戦士、労働者、工場労働者など、誰であっても、忠誠心と最善の努力をもって尽くした者は皆、尊敬された。

最終的にヒトラーは女性たちが

女性は古代から受け継がれてきた生得権を持ち、妻として、そして幸福で健全な家庭を築く者として、善良な人々の創造者として尊敬されてきた。

ヒトラー時代に関する嘘は今やあまりにも大きく、強力であるため、疑うことはほとんど不可能だ。しかし、もしあなたが、この偉大な時代を生き抜いた正直で勇敢なドイツ人に会えば（そして、真実を語る勇気のある人々に対する今日の恐怖にもかかわらず、彼は喜んで語ってくれるだろう）、ドイツ国民が良き指導者と自然な行動が何を意味するのかを悟ったことを知るだろう。

健全な状態とは、ヒトラー政権下の状態のようなものです。

その知識と社会の自然な状態が広まるのを防ぐために（そしてそれによってユダヤ人の寄生的な存在を破壊するために）、ユダヤ人の悪魔たちは残りの私たちを扇動して

この白人アーリア人復興の奇跡を虐殺し、粉砕するのだ。

しかし、自然法則は破壊できません。2足す2は4であるという事実を「破壊」できないのと同じです。人々を恐怖に陥れてそれを言わせないようにし、「2足す2は

「17」だが、2足す2はやはり4であり、真実を主張するためにテロリストや嘘つきどもを倒す勇気と知恵を持った誰かが遅かれ早かれ必ず現れるだろう。

すでに世界中でこのようなことが起こっています。

私が言及した若者の「ギャング」は、実際に起こっていることの一つの兆候に過ぎません。人々はいずれ、自然な「部族の掟」へと回帰していくでしょう。

ヒトラーが国家社会主義として世界に与えたものは、ある意味では、偉大なる精神が人間を含むすべての生き物に与えた幸福で健康的な集団生活の処方箋である古代の自然の「部族法」の現代版にすぎない。

国家社会主義とは、自然秩序に他ならない（ある意味では「国家社会主義」よりも現実をよく表している名称である）。ヒトラーは特定の政治状況で成功を収めるために自らの運動の名称を考案する必要があり、したがって自らの目的を達成できる名称と用語を使わざるを得なかった。ドイツには、自らを「社会主義者」と考えるドイツ人が何百万といた。

しかし、彼らはユダヤ人の支配下にあった。ヒトラーは、必要以上に戦うよりも、事実上、この数百万人の人々に向かってこう言った。「もし『社会主義者』である必要があるなら、ユダヤ人であることはやめよう」

「『社会主義者』――マルクス主義者――『国家社会主義者』、つまり国民社会主義者になろう。ユダヤ人のためではなく、ドイツのために『社会主義者』になろう。」

そしてそれは功を奏した !ユダヤ人によって共産主義に誘惑された何百万、何百万もの善良な男女が、ヒトラーの手法によって、自らの民族と健全な集団生活という自然の秩序へと引き戻されたのだ。

私が知っている自然秩序の基本的な要素を超えて
上で述べたように、国家社会主義は、単なる規則や原則の集合よりもはるかに高尚で崇高な何かを体現しています。
国家社会主義は、哲学として、すべての生物、つまりすべての被造物の中に見られる、より高いレベルの存在、完璧さ、神に向かう永遠の衝動を体現しています。

この「貴族的」な国家社会主義の考え方、つまり
自然界全体において、より高く、より複雑で、より完璧な存在を目指して絶え間なく努力することこそが、私たちの理想の形而上学的、超自然的な側面です。

言い換えれば、社会正義と自然秩序の概念は国家社会主義の器官であり神経であるが、その個性、その「宗教的」側面、つまり国家社会主義をあらゆる厳密な政治哲学よりも優れたものにするもの、すなわち自然に対する崇拝的な態度と、未知の創造主からの偉大な贈り物に対する宗教的な愛は国家社会主義の器官であり神経なのである。

例えば、キリスト教は、その儀式や祈りの言葉、あるいはいかなる信条よりもはるかに崇高なものです。それは、信者の霊的完成という理想へと向かう、霊的な努力なのです。
国家社会主義は、この地球上でますます高いレベルを目指す同様の努力ですが、キリスト教は、この地球以外の未来とその後の人生を目指しています。

我々の「軍隊」の普通の「兵士」は、自然秩序、つまり国家社会主義を築き、それのために戦っていますが、我々の哲学の崇高な理想によって確立された法と教義を、その理想に対する本能的な愛だけで尊重し、従うだけで十分であり、我々の哲学の最高の形態を完全に理解している必要はないかもしれません。

しかし、偉大なキリスト教指導者は、細部や規則にとらわれるのではなく、「神」を重んじる人々であったように、

宗教の至高の理想に「陶酔」する我々の国家社会主義エリートの指導者たちは、この根本的に宗教的なアプローチを共有しなければならない。彼らにとって、我々の人種教義の真の意味は、彼らの理想主義的な「神への探求」の一部でなければならないのだ。

我々の偉大な民族との完全な一体感を通して、我々は過去と未来の栄光にあずかる。私たちが何らかの形で貢献する時、特に自己犠牲を払って人類がより高い存在へと向かう道を助ける時、私たちはマスター•レースの創造主である神へと近づくことができる。

要するに、ここに成文化され提示された国家社会主義の仕組みと規則は、我々の大半、そして国民のために自らの命を犠牲にする覚悟と意志を持つ少数の理想主義者にとっては十分であるが、国家社会主義は真に現実的な宗教的理想、すなわち神への希求でなければならない。国家社会主義は、リベラルな人為性と近視眼性から脱却し、自然の永遠の叡智へと向かうこの運動を理解できるだけの自己認識と洞察力を獲得した唯一の運動である。我々の人種への徹底的な信仰、社会、経済、そして人間活動のあらゆる分野における自然法則へのこだわりは、いずれの場合も、自然の鉄則を意識的かつ科学的に適用したものであって、傲慢で愚かなリベラル派やマルクス主義者が主張するような、うぬぼれと近視眼による法則の歪曲ではない。

私たちのリベラル派やマルクス主義者の反対者たちも、自分たちが何をしているのかに気づいていない。しかし、いずれにせよ、彼らは基本的に自然の法則を憎み、うぬぼれ屋で、高等教育を受けているだけであることがわかるだろう。
「知識人」たちは、「ちょっとした知識」は「危険」だという自明の理に囚われている。コンゴの黒人に詩を暗唱させたり、弁護士や医者のように振る舞わせたりできると知った彼らは、自然を自分たちの都合に合わせてねじ曲げられる能力にうぬぼれ、どんなホッテントット族からでも自立した西洋白人に変えられると妄想している。自然が黒人を黒人の姿に既に作り上げており、いかなる人間も「豚の耳から絹の財布」を作ることはできないという事実を、彼らはただ認めようとしない。

国家社会主義は愛と
自然への敬意、そして愛情深く、意識的で、科学的な

永遠で公正で美しい自然の法則を、人間存在のあらゆる瞬間に適用すること。同時に、国家社会主義は、人間がジャングルの無思慮な動物よりも高度な文化を必要としていることを認識しており、例えば動物界のむき出しの、歯と牙をむき出しにした競争から、公正なルールの下での、統制され秩序ある競争へと自然法則の適用を高めている。

反対派は競争を完全に排除したいと考えている。
まったく不自然な考えです。
国家社会主義は、人間は生命の自然法則を人間の利益のために洗練し豊かに適用できると主張するが、同時に、人間は自然法則から逃れたり、それに逆らったりすることはできないとも主張する。社会の健全な状態（「国家社会主義」あるいは自然秩序）と社会の病んだ状態（ユダヤ•マルクス主義)の間には、無の「無人地帯」、つまり人間が死んでもいない、あるいは真に滅びてもいない場所が存在する。

生きている。

民主主義、「リベラリズム」、「保守主義」は、純粋で混じりけのない虚無の状態です。そこには人生に対する根本的で根本的な見方も、理解も、心の奥底に宿る生命力もありません。それらは、美しい言葉やフレーズを並べた、何の意味もない、お洒落なトリックに過ぎません。それらはただ混乱をもたらし、ユダヤ人とその忌まわしく不自然な共産主義への道を準備するだけです。

このユダヤ人の詐欺行為を止め、我々の人々の心と精神を掴む唯一の方法は、我々の人々に自然の秩序、つまり部族の法則を取り戻すことです。

我々の白人種の自然で生物学的な優位性を再び主張し、西洋文明を救うための力と意志を我々に与えてください。
いかなる集団においても、自然秩序の結合力を破壊すると、その集団は混沌とし、希望を失い、挫折し、迷い、空虚になり、悪意に満ち、そして最終的には団結した他の集団に対して無力になる。
そして部族の法律に従います。
だからこそ、黒人たちは多くの場合、都市全体を恐怖に陥れるのです。
彼らは団結している。一人を殴れば、百万人の黒人があなたに向かって怒鳴り声をあげる。
だからこそ、警察は彼らを逮捕することをためらうことが多い。
最もひどい犯罪行為。
そしてユダヤ人は我々の中でさらに強力であり、同じ

理由。彼らは固く結束する。

第 9 章で検討した人種の法則に部族の法則を追加すると、現代社会の新しい法則、つまり集団支配の法則を総合することができます。

自然の状態では、生物学的に優れた動物または原始的な人間のグループ、つまり最良の遺伝子と染色体を持つ最良の個体で構成されたグループが、すべての劣ったグループを支配することになります。なぜなら、自然界のすべてのグループ（優劣を問わず）は、部族の法に平等に従うからです。

したがって、動物界で競争力を発揮する唯一の要素は、生物学的な繁殖の優秀さである。しかし、科学技術、贅沢、そしてユダヤの「リベラリズム」は、この競争を大きく破壊した。

現代の文明化された白人は、自然の「部族の法」を感じ従う能力を失い、集団としての結束力を失い、社会的な動物として「バラバラ」になり、断片化され、原子化している。

数百万の孤立した個人と数十万の利己的な「圧力団体」、階級などに分裂しています。

白人男性の偉大な「部族」のこのほぼ完全な分裂により、私たちは集団として無力になっています。

人間の間での集団支配の法則とは、部族の自然法に熱狂的に固執する集団は、その法に従う「部族」がいかに劣っているとしても、その法に従わない集団を支配できるという規則である。

白人が築き、所有するアメリカにおいて、黒人とユダヤ人が白人を威圧するのはそのためだ。だからこそ、私たちは「少数派」による暴政に苦しむのだ。組織化された少数派のクズや人間は、

ゴミが権力を持っている一方で、非ユダヤ人である白人の大多数は、無力で麻痺した巨大な存在となっている。

したがって、私たちの国家社会主義革命の目標は、部族の法を私たちの人々に回復し、繁殖における自然な生物学的優位性を再び利用して、白人が築き、支配すべきものを白人が支配できるようにすることです。

これはまさに、絶望と混乱の深淵に沈んでいた、ばらばらにされ、細分化された何百万もの人々に対してヒトラーと国家社会主義がドイツで行ったことと同じである。

ヒトラーは国民からこれほどの驚異的な支持を得られなかった

彼が「タフガイ」だったから、彼が大規模で刺激的な集会を開いたから、ドイツ人が生まれながらの「野獣」だったから、あるいは、嘘つきのユダヤ人と彼らに媚びへつらうリベラル派や保守派の同盟者たちが主張する他のいかなる理由も、ドイツ人を非難する理由にはならない。

ヒトラーがドイツで社会的な奇跡を成し遂げることができたのは、ヒトラーが私が書いたことすべてを直感的に理解し、国民を自然な社会秩序に回復させたからです。

ヒトラーは国民に、孤立し、孤独で、怯えた個人として互いを憎むのをやめるように教え、国民意識、つまり「部族」という神聖な感覚を取り戻させました。そう、真の兄弟愛（

（ユダヤ人が売りつける人工的なもの）。（自分の民族との「兄弟愛」には何ら問題はなく、全てが正しい。ユダヤ人が狡猾かつ偽りの手段で「兄弟愛」を拡大解釈し、「兄弟」を覆い隠し、ズールー族、ピグミー族、中国人、ブッシュマン族、そしてユダヤ人を「兄弟」に仕立て上げようとする時、「兄弟愛」は人種間の大惨事の代名詞となるのだ。）

ヒトラーは、国民に家族と国民（大きな「家族」)への温かい愛という同じ犠牲の精神を与え、それがあらゆる自然の社会集団の生き物を結びつけ祝福する。

創造。

何度も指摘してきたように、孤独で苦悩を抱え、仲間と争うような人間では、幸福で成功し、生産的に生きることはできません。私たちは皆、自分の集団、つまり血の繋がった家族からの温かさと愛情を深く求めています。現代人はこうした集団の温かさ、忠誠心、そして愛情という感覚を失ってしまいました。その結果、崩壊しつつある西洋社会において、私たちを取り巻くあらゆる場所に見られる混沌と精神的な空虚感が生まれているのです。

本書の第一章で描かれている惨劇は、アメリカが部族の掟をほぼ完全に無視したことの直接的な結果である。たとえすべてのユダヤ人と

ヒトラーがやったように、我々が黒人に自然の秩序、「部族の掟」を取り戻さない限り、黒人は一夜にして消え去ることになるだろう。

したがって、私たちの革命は物質的、物理的なものではなく、
国民の感情における根本的な精神的変化：
利己的な原子論と貪欲で偏狭な「個人主義」の排除。それが「自由主義」と呼ばれるかどうかは関係ない。

「保守主義」や「民主主義」といった言葉は、西洋の白人男性の心に、同族への深い満足感を蘇らせることにつながっています。この集団への愛は、家族のために、そして人種という大きな家族のために、犠牲を払い、惜しみなく与えるという意志として現れます。

イン•ホック•シグ ノ•ヴィンセス

ジョージ•リンカーン•ロックウェル

人間のあらゆる努力における永続的な成功は、決して単なる幸運の結果ではありません。明確に定義された目標の達成は、それが「X」地点から「Y」地点まで歩く行為であれ、家を建てることであれ、あるいは事業を立ち上げることであれ、常に以下の3つの要素の産物です。

1. 関連する問題、予想される反対、そしてその反対を克服して目標に到達する最善の方法を認識する知的能力。

2. 反対意見にかかわらず、望ましい目標を達成するために必要なことは何でも行う意志と決意。

3. 心で考え、意志で決定した計画や戦いを強制し遂行するための肉体的な手段、強さ、勇気。

これらの3つの要素のいずれかが欠けていると、失敗に終わります。
それは避けられない、予測可能な結果です。

蛇や危険な肉食動物、熱病が蔓延するジャングルを通り抜ける「X」地点から「Y」地点まで歩くことに関わる様々な要素を理解できないほど愚かな男は、武器や地図、薬などの装備を身につけず、どれほど強い決意でどれほど筋力があっても「Y」地点にたどり着くことはできない。同じ旅を試みる別の男は、危険をはっきりと認識し、備え、どれほど筋力があっても、決断力がなく意志が弱く、闘いを諦めず、必要なあらゆる力を容赦なく行使しなければ、「Y」地点にたどり着くことはできないだろう。

敵対勢力を粉砕し、滅ぼす。そして、危険を察知し、それに備える知性と、最大限の英雄的行為をもってしても戦い抜く意志と決意を持ちながら、肉体的に脆弱な第三の人物。

彼は心の命令を実行できず、出会うであろうより強い敵に彼の意志は屈服せざるを得ないほど弱い。

文明も、個人の闘争も同じです。生存競争に必要なこれら三つの要素のうち、一つ、あるいは複数の要素が欠如したために、数多くの偉大な文明が滅亡しました。

野蛮な社会が滅亡するのは、強い意志や体力の欠如というよりも、むしろ現実を認識できない能力の欠如によるものである。迷信に溺れ、無知の闇に躓き、より文明化された社会が対処法を学んだ激しい自然現象、大災害、疫病といった物理的な力に圧倒されるのだ。

克服する。

一方、文明は、その知的成果や科学にもかかわらず、意志の喪失、つまり社会を創り出した野蛮で冷酷な生存と支配への衝動の衰退によって滅亡することが多い。文明は「人道主義的」になり、利己的で軟弱になる。肉体的に弱体化し、戦闘を有給の軍隊や警察に依存するようになる。

彼らの祖先が持っていた名誉と自己犠牲と英雄的行為の闘志は、安楽と贅沢と「人道主義」を装った臆病への愛着に取って代わられた。

文明が衰退のこの衰退段階に達すると、退廃が日に日に顕著になる中で、社会の最終的な崩壊を食い止めることができるのは、極めて稀な歴史的出来事だけです。死にゆく社会が、人々の古代の英雄的行為を神のような形で蘇らせ、文明に衝撃を与え、その自然な状態から追い出すことができる精神的な巨人を生み出すだけの生命力を持っている場合にのみ、

眠りと死の歴史的な夜、ただ「平和」と死の眠りだけを望む死にゆく人々の自殺的な抵抗にもかかわらず、社会はしばらくの間、再び立ち上がることができるのです。

西洋のアーリア文明は、シュペングラー、チェンバレン、その他によって適切に指摘されたように、19世紀に宙ぶらりんの道程において、歴史的に後戻りできない地点を通過しました。最後の瞬間にアドルフ•ヒトラーが信じられないほど奇跡的に現れなければ、

最悪の場合、不快で自殺志願の文明に囲まれた知的で洞察力があり感受性の強い人間にとって唯一耐えられる道は、「人道主義」の名の下にジャングルに逆戻りしようとしているユダヤ化され人食いで乳房化された文明の魂を押しつぶすような現実からの逃避として、一時的な快楽を甘んじて楽しむことだっただろう。

しかし、アドルフ•ヒトラーが歴史に現れたことは、白人の西洋文明の中に、おそらくあと千年ほど白人が生き延びるのに十分な、自己犠牲的で創造的な活力の火花がまだ残っていることの証拠である。しかしながら、この限りなく貴重な火花は、ヒトラーの行いを見抜く知恵を持つ人類のごく少数のエリート層が、あまりにも利己的で臆病で近視眼的であるため、手遅れになる前に歴史の教訓を適用し、ヒトラーが私たちに与えた火花を創造の燃え盛る炎へと燃え上がらせようとしない限り、すぐに闇に消え去ってしまうだろう。

私たちの勇敢な先祖によって築かれた文明。

これまでのところ、アドルフ•ヒトラーの戦う文明の英雄たちにユダヤの衰退と破壊の勢力によって与えられた恐ろしい罰は、世界を非常に動揺させ、恐怖させたため、アドルフ•ヒトラーによって示された人類の危機と救済への道を理解している人々でさえ、自分たちの生活と自由と快適さに哀れなほど執着しており、白人の生存の神聖な火花を拾い上げて、自分の命の息でそれを煽ろうとはしない。それはすぐに起こるか、あるいは永遠に消えてしまうだろう。

アーリア人、白人の人類は闇と忘却の淵に立たされている。永遠の闇の下にある岩山には、他の物知りで傲慢な文明の骨が散らばっている。

帝国の外的な力と壮麗さに囲まれていたまさにその時、彼らは自らの滅亡を想像することができなかったに違いない。彼らは、増大する弱さと「人道主義」の完全な脅威を認識し、それに立ち向かうことができず、死と忘却への歴史的行進を逆転させるために必要な完全な意志を奮い立たせることができなかった。彼らは怠惰で利己的で、貪欲で臆病で、火刑に処され、十字架にかけられ、石打ちにされ、ライオンの餌食となり、あるいは神の杯を渡されたごく少数の人々に耳を傾けることができなかった。

ヘムロック。

1000年後に歴史が存在し、それを研究できる人々がいるとしたら、彼らは何よりも、白人が圧倒的な力、知識、そしてアドルフ•ヒトラーの指導力という神の恵みを用いて、比較的小さな、不快で病的に不安定で、身体的に弱く、卑怯で、傲慢で、暴君的なユダヤ人集団の手による最も信じ難く、そして悲惨な奴隷状態から自らを救うことを頑なに拒否したことに、信じられない思いで驚嘆するだろう。

私たちが今抱えている問題は、「アメリカ」の問題でも、「イギリス」の問題でも、「フランス」の問題でも、「ドイツ」の問題でも、「ヨーロッパ」の問題でも、「アフリカ」の問題でもありません。それは、すべての白人の生存の問題なのです。

最も基本的な理由として、バーソロミュー•バッキンガムがテムズ川の近くで生まれ、ハンス•シュミットがライン川で生まれ、ピエール•デュボアが

セーヌ川のペール•オラフソン、ストックホルムのエリック•エラスムス、オハイオ州ポダンクのジョー•ドークス、ニュージーランドのオークランドのジョン•スミスといった人々が、「これ以上のものは存在するだろうか」という問いと比べて、

バーソロミュー、ハンセス、ピエール、パース、エリック、ジョー、それともジョンでしょうか？

私たちの惑星には、私たちより4倍も多くの有色人種の生き物が生息しています。そして、私たちの国々では、これらの劣等な生き物は私たちと「同等」であり、私たちのお金を投票で奪い取ることができると言われています。

我々の自由、我々の生命、そして我々の名誉。古風なナショナリズムと民主主義の観念によれば、私、リンカーン•ロックウェルは、最下層の者たちを大切にし、世話をし、忠誠を尽くすべきだ。

ジャングルの、黒人の母がアメリカの溝や汚い小屋で彼らを世界に送り出したというだけの条件で。そうであれば、もちろん彼らは「アメリカ人」であり、私たちは皆「アメリカ」のために尽力しているのではないだろうか。

それとも、ハリウッドのユダヤ人の一団がアメリカ人はドイツ人を憎まなければならないと教えているからといって、自分の人種の最も優れた生物学的標本を何百万も虐殺することで、これらの惨めで哀れな半動物である「同胞のアメリカ人」のために忠誠を尽くし、命を捨てるべきなのでしょうか？

それとも、私が属する特定の地理的領域なのか
忠誠心のために私は自分の民を殺し、おそらく死ぬことになる

自分自身？この地理の塊に対する私の忠誠心は
カナダ国境？

しかし、もしかしたら私が忠誠を誓い、そのためにドイツの男女、子供たちに戦いを挑まなければならないのは、「アメリカ主義」なのかもしれません。しかし、彼らが私に言う「アメリカ主義」とは何かを検証してみると、それは主に、私の文化、政治、宗教、娯楽、そして性生活に至るまで、ユダヤ人の指導に素直に従うことにあることに気づきます。

いいえ、これはすべてナンセンスです。

私が深い確信を持って忠誠を誓える唯一のもの、そして唯一意味のある忠誠心は、人種的、そして文化的な、我が同胞との兄弟愛です。彼らがどこで生まれたかは関係ありません！その忠誠心が脅かされ、同胞が危険にさらされている時、架空の地理的境界線を越えて暮らしているというだけで互いに疑念を抱かなければならない、そして国際的なユダヤ人集団による適切な準備と煽動のもと、我々白人は「貿易ライバル」だから、あるいは「アメリカ民主主義」や「大英帝国」、あるいは世界の他の何かのために、互いに殺し合い、爆撃し合い、永遠に憎み合うために行進しなければならない、などと偽るのは、とんでもないことです。

私は白人であり、他のすべての白人の兄弟であり、彼ら全員と共に立ち、必要とあらば彼らを率いて、白人に対する虐殺と略奪に立ち上がる、陰謀を企むユダヤ人に率いられた地球上の有色人種による言語に絶する脅威から生き残るための戦いに臨むつもりです。

しかし、蛇のいるジャングルを歩くという例えの最初の男のように、私たちの白人の「リーダー」の多くは、問題の宇宙的規模を認識できず、それが「自分たちの」国で解決できるものであり、半分は

対策。

白人の置かれた状況の恐ろしく切迫した状況を理解しているごく少数の人々は、我々が現場に現れるまでは、生き残るための全面的な戦いに必要な武器よりも少ない武器で戦おうとしてきた。優れた指導者のほとんどは、窮地に陥った白人の小集団が小さな集団に集結し、

想像上の線の背後に地理的に集まって、勇敢にさまざまな色の布切れをそよ風になびかせている白人たちは、自分たちだけで生き残ることができる。そして、さまざまな色の布切れを持っている他の白人たちはどうでもいいのだ。

ユダヤ人は、こうした偽りの地理的「チーム」に真剣に分裂するという過ちを決して犯していません。それどころか、ユダヤ人はボルシェビズム、シオニズム、そして雑種主義を掲げ、あらゆる場所で、そして常に、あらゆる白人を攻撃しています。彼らは、国境や国旗、言語や文化など全く考慮することなく、世界の白人エリートに対する総攻撃として、黒人軍団をあらゆる国々に送り込んでいます。人種によるこの国際的な絶滅の脅威に直面して、既に危険を察知している何百万もの人々が、「ヤンキー帝国主義」「大英帝国」「汚いカトリック」「不道徳な無神論者」「共和党員」「労働党員」「忌々しいヤンキー」「ドイツ第一主義」などなど、うんざりするほど暗い言葉を口にしています。

誘拐犯や殺人犯の群れに包囲された小さな男の子のように、彼らは一時的には忘れ去る命の危険に直面しても、誰が一番多くのビー玉を持っているかという口論に抗えない。現代の戦いは——もし戦いがあるとすれば——白人種の生存のための戦いなのだ！

そして生き残るためには、白人はかつて祖先が幾多の血を流して征服し文明化した地球を再び征服しなければならない。国際ユダヤ人の旗の下、有色人種の大衆は文明を野蛮な状態に戻そうと脅かしている。

アドルフ•ヒトラーのスワスティカの旗の下、世界中の白人が地球を支配し、文明を救うだろう。

ユダヤ人の文明に対する戦争は、実際には世界規模の巨大な革命であり、その過程で彼らは何百万人もの我々を「民主主義！」「仲間を作れ！」「奴隷を解放しろ！」「自由、平等、友愛！」と叫びながら互いに殺し合うように仕向けました。そして今、彼らは最後の流血沙汰を準備しており、その際には我々がそれぞれ「資本主義！」と「共産主義！」と叫ぶことになるでしょう。ユダヤ人が資金提供する水素爆弾で、二組の白人が互いを虐殺するのです。

これらの兄弟殺しと自殺的な戦争の過程で、ユダヤ人は、最後の残忍な虐殺の時のように、悪魔的な目的のために何千人もの同胞を犠牲にすることを恐れなかった。

1940年代。ユダヤ人は、私たちが認識しなければならないことを認識している。それは、彼らが人類の知識という最大の賭けに賭けているということだ。
地球全体を支配し、その利害を熟知した彼らは、戦略と戦術の避けられない結論にひるむことなく立ち向かう。もし我々が生き残るためには、状況の致命的な事実を直視し、冷酷に、迅速に、そして効果的に行動するための知恵と精神力を備えなければならない。

ユダヤ人は4000年にわたる革命の最終段階、すなわち世界権力の確立をほぼ達成した。彼らは今や、世界のあらゆる活動を操作•統制する完全な秘密の権力を手にしており、世界支配を公認された正式な権力とするためには、あと少しで大衆の洗脳と意志の破壊が不可欠だ。彼らは40世紀にもわたって、比類なき決意と鉄の意志によって戦い、この驚異的な権力への道を勝ち抜いてきた。このような狂信的な戦士たちの最終的な勝利を阻止できるのは奇跡だけである。そのような勝利は人類にとって悲劇的で残酷な誤りとなるだろう。

無神論者のユダヤ人（彼らのほとんど)でさえも、「律法がシオンの丘とエルサレムから発せられる時、ユダヤ人の千年王国が到来し、彼らが地球を所有し、支配する」という古代ユダヤの予言を不可解に信じている。

彼らは今エルサレムにおり、完全占領するにはあと数ブロックを残すのみだ ![注 :ロックウェル司令官は、ユダヤ人がエルサレムの残りの部分を占領した1967年の戦争以前に執筆していた。] 彼らは、我々が彼らに与えようとしている完全な勝利を既に予感しており、世界中で熱狂を巻き起こしている。そして今、テルアビブで勝利の犠牲の狂乱を準備しているのだ！

全世界と私たち全員が、犯罪的妄想集団の暴政に屈するという、この言語に絶する脅威に直面して、ほとんどの右翼指導者の偏狭な愛国主義、保守主義、地域主義は、この上ない愚行である！

雑種であるユダヤ人が、何百万人もの野蛮人を率いて、文明の担い手である白人エリートに対し世界中で攻撃を仕掛け、歴史上その終わりが間近に迫っている今、最も近視眼的な指導者だけが、アメリカ人、州議会支持者、カトリック教徒、ドイツ人、ヤンキー、無神論者、オランダ人、保守派、アイルランド人など、哀れで悲痛なリスト全体に分かれて無力なままの子供たちを維持し続けることができるのだ。

ユダヤ人はこれらすべてであるかもしれないが、まず第一に彼はユダヤ人である！

文明を救おうとする者――つまり白人を救うことを必要とする者――の第一の務めは、白人に他のあらゆる忠誠心よりも人種を至高かつ完全に意識させることである。我々の国民は、もし彼らが望むなら、そしてそれが彼らの目的にかなうなら、民主党員でもドイツ人でもカトリック教徒でもイギリス人でも構わない。しかし、まず第一に彼らは白人でなければならない！さもなければ、ユダヤ人は我々を分裂させ、無力にし、人種的結束と強さを意識させないようにするだろう。そして彼らは、全てが終わるまで、どこにいようとユダヤ人として狂信的に戦うだろう。

テレビ、ロケット、ジェット機の世界はあまりにも狭くなってしまったため、プロパガンダでどんな理由が掲げられようとも、白人の集団がユダヤ人のために互いに戦うという自殺行為ともいえる贅沢を再び楽しむことは、もはや許されない。マルクス主義、シオニストのユダヤ人のような狂信的で悪魔のような敵に率いられた、終わりのない大群による圧倒的かつ致命的な攻撃を受けている今、互いに戦う余裕などない。そもそも白人が長きにわたり敗北を喫してきたのは、彼らが自らの問題の重大さと切迫した緊急性を見ることができなかった、あるいは見ようとしなかったからである。白人は些細なことで無数の小さな口論に気を取られ、その間に自らの人種はほぼ絶滅に追いやられてきた。

たとえ話の最初の男のように、我々は道筋も、障害の本質も理解していない。そして最悪なことに、我々が勝ち取らなければならない目標、さもなければ死ぬ目標さえも認識していない。その目標とは、白人による地球の支配であり、またそうでなければならない。なぜなら、文明はこうした白人の支配にのみ依存しているからだ。それ以下の目標は全く無価値である。絞首刑に処される予定の男がビタミン剤を服用して完璧な健康を得ることなど無価値であるのと同じように。

そして、世界という途方もなく困難で宇宙的な目標は支配は、運、陰険さ、中途半端な策、祈り、希望、美辞麗句、パンフレット、あるいは散発的な暴力によって得られるものではない。私たちが目指し、達成しなければならないのは、ユダヤ•マルクス•シオニスト革命に対する世界反革命である。

そして革命は決して、決して、決して、決して、自然発生的で偶発的な蜂起の結果ではなく、常に、社会の大変動の不変の法則に基づいた、冷酷で科学的な計画と闘争の産物である。ピッチフォークとバリケードの背後には、常に計画者たちによるろうそくに照らされた陰謀の物語がある。そうでなければ、革命は瞬く間に終わっていただろう。

これまで、私たちの数少ない指導者たちは、私たちが目指すべき前代未聞の目標の大きさを理解できなかっただけでなく、計画における恐るべき責任に真正面から向き合うことも怠ってきました。幾度となく、指導者志望者たちが現れ、虎の尻尾の先を摘み取ろうとする哀れな努力に私たちを導いてきました。しかし、その努力は実りのない闘争に私たちの財産と血と英雄的精神を浪費し、獣の爪による強烈な一撃で打ち砕かれるばかりでした。

ユダヤ人の世界革命は、
反世界革命。

いかなる革命も、大衆における人間の行動を律する鉄則に従い、注意深く緻密に計画されなければならない。ユダヤ人の国際的で圧倒的な力に直面する世界革命は、世界史上比類なき輝きと冷酷さをもって計画され、実行されなければならない。

革命のような、このような破滅的な社会的激変の最も基本的なルールは、「殉教者の血は教会の種である！」です。残酷で野蛮に聞こえるかもしれませんが、それでも、目指す人間的激変の割合が大きければ大きいほど、その目的を達成するために大量の血と涙を流さなければならないというのは真実です。

西洋世界の自殺的な傾向を逆転させ、白人がさらに千年も生き延びる道を開くことができるような、前例のない巨大な運動は、決して

安全で、痛みがなく、簡単な方法で開始することはおろか、勝つこともできません。
普通の苦しみや殉教でさえ、私たちが生き残るために燃え上がらせなければならない運動にとっては、あまりにも小さなものです。世界の覇権をめぐる現在の死闘のすべては、そしてそうあるべきです。
オリンピック選手です。勝利を望むなら、オリンピック選手の苦悩から逃げることはできません。

強力な運動は常に、大義への自己犠牲的な献身という情熱に身を捧げる、何百万もの民衆を必要とする。そして、こうした膨大な数の民衆は、「有利な貿易収支！」「州の権利！」といった叫び声で革命の炎に身を投じることは決してできない。人間の精神の奥底から湧き出る根源的な衝動だけが、動きの鈍い民衆を無知な無関心から、革命の波に完全に飲み込まれる激しい感情へと引き上げることができる。ヒロイズムほど民衆の根源的な感情に訴えるものはなく、究極のヒロイズムだけが、白人を無気力とユダヤ人への麻痺させるような恐怖から救うことができるのだ。

そして、迫害と、それに伴う英雄的行為を生み出すのにこれほど見事に計算されたシンボルは、スワスティカ以外になく、アドルフ•ヒトラーの名前以外にはありません。こうしたシンボルだけが、白人を団結させ、反ユダヤ主義マルクス•シオニスト革命の抗しがたい波へと駆り立てることができるのです。アドルフ•ヒトラーの出現まで、世界の白人には共通の大義、共通の英雄、共通の殉教者、聖地、名前、そしてシンボルなど、全く何もありませんでした。しかし今、何百万人もの若いドイツ系白人男性が、白人エリートのために歴史上初めての真の戦いで英雄的に尊い命を捧げた今、私たちはついに、革命の最も基本的な要素である血まみれの聖地、シンボル、そして殉教者を手に入れたのです。

悪魔のような共産主義シオニストのユダヤ人のために戦っている、反対側にいる何百万人もの同じように貴重な若い白人男性は、私たちがこれを受け入れない限り、まったく無駄に命を失うことになるだろう。
膨大な血の犠牲を払って、二度とユダヤ人と黒人のために戦うことで白人の貴重な血が流されることのないようにするのです。

それにもかかわらず、信じられないことに、こうした自己犠牲と英雄的行為の幸運な継承者、つまり、これらの貴重な血まみれの旗と神聖な名前の受け手たちは、自分たちの遺産を「非現実的」として拒否しているのです。

「ナチズムとスワスティカを公然と信奉していては、決して勝利は望めない」と、この紳士たちは弱々しく説明する。「ユダヤ人は人々に自分たちを憎むように教えすぎている」と彼らは付け加える。「スワスティカを掲げ、ヒトラーを公然と称賛すれば、投獄されるか殺されるだろう！」そして、彼らはすべての製造業者を投獄したのではないだろうか？
赤い革命を起こしたユダヤ人を含む革命の担い手を投獄し、場合によっては殺害するなどと？ 我々国家社会主義者は、ユダヤ人の一団よりも恐ろしく臆病であるべきなのか？ こうした優柔不断な連中が避けようとする迫害と流血こそが、我々の勝利に不可欠な条件なのだ！

これは空虚な言葉ではありません。世界のユダヤ人の権力中心地であるアメリカで、私は自らその真実を証明してきました。殴打され、刑務所や精神病院に行き、愛する家族を失い、獣のような生活を送りました。今日から12日後、これを書いている今も、私は再び刑務所行きの危機に直面しています。こうしたことは不快で、胸が張り裂ける思いですらありますが、それでも、そうあるべきです！

私は、他の何百万もの人々と同じように、無一文で無名の、援助のない一人の人間としてスタートしましたが、2年で白人のための世界的戦いにおいて指揮を執る立場にまで上り詰めました。それはただ、スワスティカと指導者アドルフ•ヒトラーの名前という、血と涙の海に浸された貴重な名前とシンボルを、感謝と愛情を込めて使ってきたからです。

一時的で派手な政治的成功はいつでも容易だ。何ヶ月、あるいは何年も汗水垂らしてコートを膨らませる筋肉を鍛えるよりも、ジャケットにパッドを入れる方がずっと簡単で早い。ここ50年、パッドだけで成り立つ「右翼」や白人運動が、着実に興亡を繰り返してきた。

母性や美徳、愛国心などを支持し、そのような組織の真の目的（必然的に、

人類の敵である共産主義シオニスト——臆病な「愛国者」「保守主義者」、そして少数の「強硬派」反ユダヤ主義者でさえ、大群を囲い込むことは可能だろう。しかし、彼らがそのような運動に惹かれるのは、革命への熱意に燃えるあまり、街頭で自分たちを苦しめる者たちを攻撃せずにはいられないからではない。むしろ彼らは「愛国者」社会に加わり、ユダヤ人とその反逆とテロと戦うふりをすることで、罪悪感を晴らすのだ。彼らは、ユダヤ人と黒人の暴政に対する鬱積したフラストレーションを、週に一度の「集会」（もちろん私的な）で解消し、その後は幸せそうに家路に急ぎ、また一週間、金儲けとパーティーとテレビを楽しむのだ。

街頭でパンフレットを配ったり、ユダヤ共産主義の傲慢さを露呈するとんでもないピケを張ったりすべきだと示唆されると、こうした勇敢な連中は戦慄する。そして、ユダヤ人の本質を暴くだけでなく、真の闘争のための支持とエネルギーを吸い上げている政治的怠け者たちをも暴こうものなら、彼らは、自分たちをナチスの磔刑に処そうとする扇動者だと吠えて反撃する。いや、彼らの忌まわしい臆病ささえなければ、彼らはナチス一味に磔刑に処せられていたかもしれないのだ。

世界反ユダヤ革命の使命は、これらの卑劣な卑劣漢たちを誘致し組織化することではなく、彼らを道から追い出し、活動の場から追放することである。そうすれば、彼らは長年続けてきたように、運動からわずかな資金を搾り取って、無益な「プロジェクト」に利用することができなくなる。この使命をスワスティカほどに達成するものはない。政治的な無能者、不当利得者、売春婦、そして臆病者たちは、悪魔が聖水から逃げるように、この鉤十字から尻尾を巻いて逃げ出す。

一方、スワスティカは、私たちが必要としているような、大胆で勇敢、そして何事にも臆することなく闘う若い男性にとって、抗えない魅力を持っています。アメリカでは、彼らのほとんどは、純粋な白人本能から生まれた、単なるニガー憎悪の信者です。しかし、彼らが黒人の不名誉な状況におけるユダヤ人の役割を知ると、たちまちナチスになってしまいます。
それから、彼らが理解するまでには、わずか数ヶ月かかります。

運動のより深い意義、理想主義、そして真の目的。

しかし、これらの利点よりもさらに重要なのは、血に染まったスワスティカがユダヤ人に超自然的な効果をもたらすことだ。それは結局のところ、ほんの数本の黒い線に過ぎない。しかし、それはユダヤ人を普段の狡猾で打算的な精神状態から引き離し、ヒステリックで愚かな行動へと駆り立てる。彼らにとって重要なのは線だけではない。冷酷な暴露、迅速な裁き、そして罪悪感に苛まれた良心が告げる、恐るべき復讐という恐ろしい脅威なのだ。それはまるで、追われる殺人者に電気椅子で処刑される光景のようだ。

冷静で計算高いユダヤ人は、地上で最も危険な獣だ。悪魔的で歪んだ、しかし明晰な理性を駆使することで、ユダヤ人は私たち全員をほぼ支配している。しかし、憎しみと罪への罰への恐怖で正気を失い、ヒステリックに叫び声を上げるユダヤ人は、計算高い国家社会主義者の手中にある無力な粘土のようなものだ。

私たちは何度もこのことを証明してきました。ユダヤ人評議会が何百万ドルも費やし、ユダヤ人たちに私たちを無視するよう呼びかけてきた時です。しかし、罪深い小さな罪人たちの大群にはそれができないのです！
彼らがそのスワスティカを見て、私たちがアドルフ•ヒトラーを称賛し、裏切り者のためのガス室について語るのを聞くと、彼らは、狂気の憎悪と復讐の情熱によって、最後の瞬間に勝利を永遠に吹き飛ばしてきた、叫び声を上げる野蛮なゲットーのユダヤ人になります。

その結果、政治運動の生命線である「宣伝力」が生まれた。ユダヤ人があらゆる公共情報メディアを支配しているにもかかわらず、街頭でのスワスティカや国家社会主義者の行進は、隠したり無視したりすれば、その真意が露呈してしまう。彼らは確かにニュースを抑圧できる。

しかし、多くの人が報道力に気づき、
検閲はもはや存在し得ない。そして、この若い運動が巨大な国営テレビ局、雑誌、新聞などで自らの存在を公表できるようになった時、それは、そのような運動を求める何百万もの不満を抱えた人々への警鐘となる。こうして初めて、私たちは世界中の何千人もの人々とコンタクトを取ることができた。彼らはこれまで「愛国者」の組織に属したことはなかったが、アメリカ•ナチ党と世界反体制連合に抵抗できなかったのだ。

国家社会主義者。[注: ロックウェル司令官は、1967年6月に行われた最後の全国スタッフ会議において、組織名を正式に国家社会主義白人党に変更した。]

スワスティカとヒトラーは、重荷になるどころか、実は右翼の永遠の課題である「お金」に対する答えなのです。
紙や集会所などにお金がない時——私たちの側には決してそんなお金はない——街頭に出てデモ行進し、手製のビラを配り、ピケを張ることができる——しかも、何の報酬もない。ユダヤ人が暴れ回り、襲撃してくる——すると、ユダヤ人が所有する何百万ドルもの価値があるテレビ、新聞、雑誌などを自由に使えるようになる。もちろん、血まみれになり、療養のためにしばらく刑務所に留まらなければならないこともあるだろう。しかし、驚くべき結果を得るには、それは小さな代償だ。

ナチスとして公然と活動すれば、当然ながら宣伝効果も得られる。それに加え、その大胆さ自体が、あなたが必要とする若い戦士たちを惹きつける。彼らは何も知らず、業界の政治など気にも留めない。彼らは生来の勇気と大胆さに感銘を受ける。後に、事実をもう少し深く理解するようになれば、理想と白人のために戦うだろう。しかしそれまでは、言論の自由を守るこの貴重な守護者たちは、ただの楽しみのために戦うだろう。

何よりも、スワスティカは右翼の根本的な誤りからあなたを救うでしょう。その甘い理性が世界を変え、ユダヤ人の暴君から私たちを救うでしょう。

理性は人間社会において未だ幼子であり、ごく少数のホモ•サピエンスの突然変異的な脳に見られる貴重で稀有な発達である。そして、真に独立した理性を行使できる少数の天才でさえ、その理性の命令に従って行動することはほとんど不可能である。これが、彼らや彼らの理性を評価しない世界において、彼らの多くが失敗者として終わる理由の一つである。

潮の満ち引きから、隣人がロータリークラブに入会するという決断に至るまで、世界を支配しているのは力、権力、強さです。優れた議論に説得されて考えを変えるのは、ごくわずかな少数の変わり者だけです。圧倒的多数、つまり大衆は、

今日の「知識人」は、世間の流れに合わせるためだけに考えを変えます。言い換えれば、大多数の人々の心は常に最も強い意見、つまり報酬をもたらし罰を回避してくれる意見に屈するのです。

右翼は自らの主張や議論、事実を吟味し、それらが真実で良いものだと認める——それが真実であるとしても。そして、隣に住むろくでなしが理解できず、その正しさを認められないことに憤慨し、おそらく「憎悪」を説いているとして家から追い出すだろう。しかし、これは現実だ。ろくでなしは、最も力強く、権力への意志を露わにするような意見を信奉する。彼らは理性へのアプローチにおいて完全に、どうしようもなく女性的で、常に、常に「正しさ」よりも力強さを優先する。

彼女たちが私たちの卍と国家社会主義に「ノー」と言う時、彼女たちはただ永遠の女として「ノー」を言っているだけであり、その意味は「もし私のノーを受け入れるなら、あなたは弱虫で、私の好意を受ける権利はない。私にイエスと言わせるだけの男らしさと強さがあるかどうか、見せてあげよう！」ということだ。

彼らが今、私たちを憎んでいるのは、私たちが弱く無力だからです。どんなに甘い言葉で彼らを甘く包み込もうとも、どんな形であれ、私たちや私たちの考えを彼らに愛させることは不可能です。私たちの意志、勇気、力に対する彼らの尊敬と称賛を勝ち得るまでは！彼らはどれほど愚かであっても、力と強さを嗅ぎ分ける本能は依然として純粋であり、「愛国者連盟」やその他の安全で健全な団体を装って国家社会主義の思想をこっそり持ち込もうとする試みは、卑怯者と卑劣な行為として、彼らを当然のことながら拒絶します。

卑劣で安全なアプローチなんてクソくらえ !直接的で公然としたアプローチと同じくらい迫害され、毎回惨めで卑劣な失敗へと追いやられる。もし私たちが世界を征服した最後の白人となるのなら、もし最終的にネズミの群れに圧倒されるのなら、せめて祖先が死に直面したように、私たち人類の死だけでも受け入れよう。人間として。

ネズミの間に潜り込んで慈悲を乞うたり、ネズミを出し抜いて自分たちもネズミのふりをしたりするのはやめましょう。

歴史の足場に立ってみよう — たとえ吊るされなければならないとしても —

イン•ホック•シグノ•ヴィンセス

ニュルンベルクの殉教者たちよ、背が高く誇り高き者たちよ！人生はこんなに甘美で、安楽はこんなに貴重で、ユダヤ人の会計事務所の仕事はこんなに神聖なのに、栄光の過去から私たちに差し伸べられるアドルフ•ヒトラーの力強い手を握ることを恐れるほどなのか？

こっそり潜入して安全を確保するなんて最悪だ！

ユダヤ人は狡猾でずる賢い。我々の民族の真髄は、常に喜びに満ちた力強さ、強靭な力強さ、率直さ、男らしい勇気、そして燃えるような英雄主義にある。ユダヤ人が経済テロ、投獄、威圧、絞首刑執行人を用いて白人を脅迫し、棍棒を降ろさせ、ユダヤ人の圧政を巧みに回避しようと煽動するとき、ユダヤ人はかつて強大だった白人を完全に去勢し、不名誉と敗北へと追いやったのだ。白人は狡猾では絶対に勝利できない！

北欧文明の黎明期、劣等人種たちは粗末な小屋に縮こまり、「主よ、北方の人々の怒りから我らを救ってください！」と祈ったものだ。西洋文明を築いたのは、まさにそのような人間だった。もし今、文明を堕落したユダヤ人の群れ、彼らの人食い共犯者たち、そして言葉では言い表せないほど堕落したリベラルな仲間たちから救うなら、それはまさにそのような人間であり、決してこっそりと忍び寄る者ではない！

白人よ！汝の血には、偉大なる祖先と同じ鉄の血が流れている！アドルフ•ヒトラーの巨大な姿が、汝を世界征服の力へと引き上げようと、巨大な手を差し伸べている！汝はピグミーの前で十分に屈服してきた！今こそ立ち上がれ！足元のネズミや害虫に挑め！ブーツのつま先とかかとで奴らを圧倒せよ！奴らを踏み潰せ！

お前は眠っていた。お前が立ち上がり、民衆が再び力ある男の姿を目にする時、彼らは今お前を憎んでいると想像していたように、お前を愛するだろう。アドルフ•ヒトラーによって叩きつけられた国家社会主義の火花がお前の胸に燃え、お前は不屈の精神だ！IN HOC SIGNO VINCES！スワスティカの印において、お前は勝利するのだ！

アメリカ、イギリス、アイスランド、デンマーク、そして他の白人国家の英雄たちと手を携え、聖なるスワスティカの旗を掲げ、血を流してそれを守った。それは

ベルリンの灰燼に帰せ。二度と取り壊されることはない。アドルフ•ヒトラーと世界を征服する白人種の祭壇の前に、私たちと共に立ち、私たちと同じように、西洋、白人文明の秩序と正義を再び世界へもたらすために、あなたの命を捧げてください。

裏切り者やネズミや小人たちに、もう一度、小屋の中で恐怖に震えながら「主よ、北の人々の怒りから私たちをお救いください」と祈ることを教えましょう。

私の軍団兵のために第8章国家に対する民主主義

コルネリウ•ゼレア•コドレアヌ

議会で

この選挙の結果、私は国会議員になった。私は敵対的な世界のただ中で。私には議会生活の経験も、空虚だが尊大で華麗な言い回し、鏡に映ったような身振り、そしてかなりの無礼さに満ちた民主主義的な演説の才能も欠けていた。成功し、昇進するのに役立つ資質を、神は私に授けなかった。おそらく、私が政治の階段を上ろうとする誘惑に駆られないようにするためだったのだろう。

国会議員として在任中、私は自分より年上の人に対して、たとえそれが最大の敵であっても、礼儀と敬意のルールを破ることはなかった。嘲笑したり、罵倒したり、笑ったりすることはなかった。
誰かを不快にさせることはできなかったので、私はそのような生活の一部となることができませんでした。私は孤立したままでした。それは、私が他の人々と対立しているというだけでなく、そのような生活から完全に孤立しているからでした。
ある晩、かなり遅く、審議も終わりに近づき、議場はほとんど空席になっていた頃、私は発言の機会を得た。私は、我が国がユダヤ人に侵略されたこと、侵略が最も激しい場所で、人々の悲惨さが最も恐ろしいこと、マムレーシにおいて、我が国の地にユダヤ人が住み始めたことはルーマニア人の死を予兆していたこと、ユダヤ人の数が増えるにつれて私たちも死ぬこと、そして最後に、民主主義と政党の世紀の指導者であるルーマニア国民の指導者たちが、この戦いにおいて国民を裏切ったことを示そうとした。

巨大な国家や国際金融に奉仕する。
私は、マルモロシュ•ブランク銀行のポートフォリオには、ユダヤの陰謀と腐敗の巣窟であるこの銀行が「融資」した多くの政治家が含まれていることを示しました。ブランシュ氏、
国務次官 1 1 1,000 レイ。 Mr.のバンカ•タラネアスカ
ダビリア、4,677,000レイ。ルニアンさん 407,000 レイ。マドジャールさん 401,000レイ。フィリペスク氏 1,265,000レイ。ラドゥカヌ氏 3,450,000レイ。ラドゥカヌ銀行 10,000,000 レイ。パンガル氏（ルーマニアのスコティッシュ•ライト•フリーメーソン団長） 3,800,000 レイ。氏
ティトゥレスク 19,000,000 レイ - 全員がルーマニア社会のリーダー

人生。「これらに加えて、他にもたくさんありますが、リストが見つかりませんでした。誰かが私の言葉を遮ってこう言いました。

「これは借りたお金です。返済しなければなりません。」

私は答えました。「これが返済されるかどうかは分かりません。」

しかし、私は一つだけ言いたいことがあります。誰かがそのような金融機関からお金を借りる場合、彼は

権力を満足させるために、あるいは権力を持っていなくても権力を支持するために、いずれにしても、暴露されるべきときにそれを暴露しないようにする。」

そこで私は、否定の余地を一切排除して、戦後ルーマニア国家が「人民による人民の」最も尊厳ある、最も完璧な政治形態である民主主義の下で、いかにして約500億レイを詐取されたかを示したリストを読み上げげた。「民主主義」の指導部は、人民の永続的な「統制」という基本理念を掲げていたが、偉大なる統治者である人民は、15年間の統治の間に、500億レイという途方もない金額を奪われたのだ。そして、民主主義に関するいくつかの批判的な見解を述べた。

最終的に私は7つの要求をしました。

1. 公的資金を不正に操作した者には死刑制度の導入を要求します。この時、神学部教授のイスピル氏が私の発言を遮りました。「コドレアヌさん、あなたはキリスト教徒、キリスト教の理想の伝道者を自称していますね。今あなたが提示された考えは反キリスト教的です。」私はこう答えました。「教授、祖国の死と盗人の死のどちらかを選ぶとしたら、私は盗人の死を選びます。盗人に祖国を破滅させ、滅ぼさせない方が、より良いキリスト教徒になれると思います。」

2. 財産の調査と没収を要求する

私たちの貧しい国に血を流させた者たちの。

3. 我々は、疑わしい私的な投機を支持するなど、いかなる形であれ我が国の利益に反する行為をしたと証明される可能性のあるすべての政治家が、

正義。

4. 今後、政治家が

さまざまな銀行や金融機関の管理委員会

企業。

5. 私たちは、私たちの土地から富を奪い、私たちの手で作られたものを搾取するためにここにやってきた無慈悲な搾取者の大群の追放を要求します。

6. ルーマニアの領土が
ルーマニア国民の譲渡不能かつ破棄不能の財産。

7. 私たちは、すべての運動員が活動に派遣され、ルーマニア国民全体を一つの鼓舞と一つの精神で鼓舞する単一の指揮系統が確立されることを要求します。

これらは、私が最も緊急だと考えたいくつかの政治的措置を公に策定するための最初の試みでした。それは、長々と考えたことやイデオロギー的な探求の結果ではなく、当時のルーマニア国民が何を必要としているかを、ためらうことなく瞬間的に考えた結果でした。

6 か月後、私の当初の 3 つのポイントをプログラムに盛り込んだ、非常に人気のある運動がいくつか現れました。

1. 死刑

2. 富の調査、そして

3. 政治家が行政委員会に参加するのを防ぐこと。これは、他の人々も政治家が必要だと考えていることを意味します。

民主主義に関するいくつかの考察

これからのページで、私の日々の経験から得たいくつかの結論を、若い軍人や労働者にも理解できるような形で提示したいと思います。私たちは
衣服、民主主義の形態。それらは果たして良いものなのだろうか？まだ分からない。しかし、一つ確かなことは、より大きく文明化されたヨーロッパ諸国の一部が、

これらの服を脱ぎ捨て、新しい服を着る。それが良いものだったから脱ぎ捨てたのだろうか ?他の国々も、それを脱ぎ捨て、新しいものに変えようと懸命に努力している。なぜだろうか ?すべての国々がそうではないだろうか ?
気が狂ったのか ?ルーマニアの政治家だけが世界で最も賢い人々であり続けたのか ?どうも信じられないようだ。
確かに、変更した人や変更したい人には、それぞれ理由があるでしょう。

しかし、なぜ他人の理由を気にする必要があるのでしょうか ? ルーマニア人が民主主義の衣を脱ぎ捨てる理由をもっと気にするべきです。

もしそれらを廃棄する理由がなく、私たちにとって適切であるならば、たとえヨーロッパ全体がそれらを廃棄したとしても、私たちはそれらを保持すべきです。しかし、それらは私たちにとっても良いものではありません。なぜなら、

1. 民主主義はルーマニア国民の結束を破壊し、党派に分裂させ、煽動し、分裂させ、歴史の困難な時期にユダヤ勢力の結束した集団に直面させる。この論点だけでも、私たちの存在にとって極めて重大であり、この民主主義を、私たちの結束を保証してくれるもの、すなわち私たちの生命と交換するのに十分な理由となるだろう。なぜなら、私たちの不一致は死を意味するからである。

2. 民主主義は、何百万人ものユダヤ人をルーマニア国民へと変貌させ、彼らをルーマニア人と平等にし、国家において平等な権利を与える。平等 ?何に基づいて ?我々はここで何千年も暮らしてきた。鋤と武器、労働と血と共に。なぜ我々は、ここに100年、10年、あるいは5年しか住んでいない人々と平等であるべきなのか ?

過去において、この国家を創ったのは私たちでした。未来を見据えると、大ルーマニアの存在に対する歴史的責任はすべて私たちルーマニア人にあります。彼らには何の責任もありません。ユダヤ人がどうして
ルーマニア国家の消滅について、歴史に責任を負わされているのか ?要するに、彼らは国家を創り上げた労働、犠牲、そして戦いにおいて平等ではなく、

未来への責任。平等 ?古代の格言によれば、平等とは不平等なものを不平等に扱うことだ。ユダヤ人はどのような根拠で平等な扱いや政治的権利を要求するのか ?

ルーマニア人のものと同等ですか?

3. 民主主義は努力の継続が不可能である。1年、2年、あるいは3年政権を握る政党に分裂し、
長期計画の立案と実行。一方が他方の計画と努力を無にしてしまう。今日ある者が立案し建設したものが、次の者によって破壊される。建設を必要とする国、その歴史的瞬間がまさに建設である国において、民主主義のこの欠点は脅威となる。まるで農場で所有者が毎年変わり、それぞれが異なる計画を持ってやって来て、先代の者が成し遂げたことを破壊し、彼らの仕事は次の所有者によって破壊されるかのようだ。

明日。

4. 民主主義は政治家が国民に対する義務を果たすことを不可能にする。民主主義においては、どんなに善意に満ちた政治家でも支持者の奴隷となる。支持者の要求を満たすか、
政治家は選挙代理人の圧制と絶え間ない脅威にさらされている。生涯の労働を放棄するか、支持者の満足を得るかの選択を迫られる。そして、政治家は支持者の欲望を満たす。自分の懐ではなく、国の懐から。政治家は雇用、地位、任務、委任、閑職を創出する。それらはすべて国家予算を圧迫し、国民の背にますます重荷を背負わせることになる。

5. 民主主義は権威を持つことができない。制裁の力も欠いている。政党は支持者を失うことを恐れて、数百万ドル規模の不正取引や窃盗、横領によって生計を立てている人々に制裁を課さない。同様に、政治的な敵対者にも制裁を課さない。なぜなら、彼ら自身の不正取引や不正行為が暴露されるのを恐れるからだ。

6. 民主主義は莫大な資金を必要とします。高額なシステムと様々なグループ間の競争のため、民主主義は多額の資金を必要とします。当然の帰結として、

ユダヤ人は、補助金によって支配される巨大なユダヤ系国際金融の奴隷となる。こうして、人々の運命は銀行家階級の手に委ねられることになる。

選択、淘汰、遺伝

国民は自らの意志に従って導かれるわけではない（民主主義方式）。また、一個人の意志に従って導かれるわけでもない（独裁方式）。

しかし、それは法律によるものです。ここで私が話しているのは、人間が作った法律のことではありません。
生の規範、自然法則があり、死の規範、自然法則もある。生の法則と死の法則。国家は、これらの法則のどちらを尊重するかによって、生か死かのどちらかに向かう。

答えなければならない疑問が一つ残っている。国家の中で誰がこれらの規範を直感的に理解したり知ったりできるのか？国民？大衆？もしそうだとしたら、私はあまりにも多くの
予想通りだ。大勢の人々は、もっと単純な法則さえ理解できない。理解してもらうためには、何度も繰り返し説明しなければならない。必要であれば、罰を与えることさえある。

人々の生活に絶対に必要な法律の例をいくつか挙げると、大勢の人が理解するのに苦労するだけです。伝染病の場合、病人は

隔離され、一般的な消毒が必要であること、日光が家の中に入ってくることが必要であるため、家には大きな窓が必要であること、牛の餌と世話が良ければ、人間のためにより多くの収穫が得られること
栄養など。もし大衆が生活に直接必要ないくつかの法則を理解していない、あるいは理解するのに苦労しているのなら、

民主主義は自ら主導しなければならない、最も難しい自然法則を理解できる、あるいは人間のリーダーシップの最も微妙で知覚できない規範を直感的に理解できる、

それは、自分自身、その生活、その生活必需品を超えたプロジェクトなのか、それとも、自分自身に直接当てはまるのではなく、より上位の存在である国家に当てはまるプロジェクトなのか？
パン作り、靴作り、鋤作り、農業、路面電車の運転などには専門化が必要ですが、

最も要求の厳しい国家の指導者となると、特定の資質は必要ではないのでしょうか？

結論はこうだ。国民は自らを統治する能力を持たない。国民はエリート層によって統治されるべきである。つまり、国民の懐に生まれ、特定の才能と能力を持つ人々によって統治されるべきである。
専門分野。蜂が「女王蜂」を育てるように、国民もエリートを育てなければならない。同様に、民衆も必要に応じて、エリート、つまり国家の賢者に訴えかける。

このエリート層、つまり大衆を選ぶのは誰なのか？どんな「思想」にも支持者はいるだろうし、公職に立候補する誰にでも票は集まるだろう。しかし、これは人々がそれらの「思想」「法律」「候補者」を理解しているかどうかではなく、全く別の何か、つまり大衆の好意を勝ち取る個人の巧妙さにかかっている。これほど気まぐれで不安定なことはない。

意見は大衆よりも重要だ。戦後、この大衆は、アヴェレスカ派、リベラル派、ナショナリスト派、農民民族派、イオルガン派など、次々と意見を唱え、1年後にはそれぞれを唾で吐き捨て、自らの誤り、方向感覚の喪失、そして無能さを認めるようになった。彼らの選択基準は「他のものを試してみよう」というもので、判断力や知識に基づいてではなく、行き当たりばったりで運任せに選択する。

二つの相反する考えがあります。一方は真実を、もう一方は嘘を含んでいます。真実――それは一つしか存在しない――が求められます。この問題は投票にかけられます。一方の考えは1万票、もう一方の考えは1万50票を獲得しました。
50 票の違いで真実が決まる、あるいは否定されるということはあり得るのでしょうか?
真実は多数派にも少数派にも左右されず、独自の法則を持つ
そして、これまで見てきたように、たとえ圧倒的多数であっても、それはすべての多数派に対して成功します。

真実の発見は多数派に委ねることはできない。幾何学においてピタゴラスの定理の妥当性を決定したり否定したりするために多数派の投票に委ねることはできないのと同様である。化学者も同様である。
アンモニアを作るのに、窒素と水素の量を投票にかけるために大勢の人に頼る必要はない。また、農業とその法律を長年研究してきた農学者は、

大衆は投票によって自らの正当性を確信しようとしている。
国民はエリートを選べるのか？ではなぜ兵士は選べないのか？

最高の将軍を選ぶには？ 選ぶには、陪審員団が以下の点を十分理解している必要がある。

a) 戦略、戦術、組織などの法則と

b) 当該個人が適性や知識を通じてこれらの法則にどの程度従っているか。

この知識なしには、誰も賢明な選択をすることはできない。もし大衆がエリートを選出したいのであれば、国家組織の指導力に関する法則と、その候補者が資格と知識の面でそれらの法則にどの程度従っているかを知らなければならない。しかし、大衆はこれらの法則も候補者も知ることはできない。だからこそ、我々は国家の指導的エリートは

国は多数派によって選ばれるものではない。こうしたエリートを選ぼうとするのは、その国の詩人、作家、機械工、飛行士、あるいはアスリートが誰になるべきかを多数決で決めるようなものだ。

このように、選挙の原理に基づき、自らエリートを選ぶ民主主義は、根本的な誤りを犯しており、そこから私たちの村々における不正、無秩序、そして悲惨な状況全体が生まれている。ここで重要な点に触れておく。なぜなら、他のすべての誤りは、この民主主義の概念の誤りから生じていると言えるからだ。

大衆はエリートを選ぶよう求められても、エリートを発見して選ぶことができないばかりか、ほとんど例外なく、国内で最悪の人材を選んでしまう。

民主主義は国家エリートを排除するだけでなく、国内最悪のエリートに取って代わる。民主主義は良心も道徳心も全くない人間を選出する。

より優れた者たち、つまり腐敗の力を持つ者たち、つまり魔術師、ペテン師、扇動家たちが、選挙戦でそれぞれの分野で成功を収めるだろう。彼らの中には、誠実な政治家でさえ、何人かの善良な人々が紛れ込むだろう。しかし、彼らは前者の奴隷となるだろう。

国家の真のエリートは、その基盤での競争を拒否し、敗北し、排除されるだろう。彼らは退却し、隠れ続けるだろう。したがって、国家にとって致命的な結果となる。国家が

最悪で、最も腐敗し、最も不健全な人々で構成されたいわゆる「エリート」によって率いられているのに、なぜ

国家は破滅に向かっているのか？

ここに、他のあらゆる悪の原因がある…国中に蔓延する不道徳、腐敗、そして欲望。国家の財産における窃盗と略奪。国民への血なまぐさい搾取。貴族階級における貧困と悲惨。あらゆる機能における義務感の欠如。国家における無秩序と混乱。そして、破産した商店の商品をわずかな値段で買い占めようとする外国人の金銭によるあらゆる方向からの侵略。国は競売にかけられている。

「誰がより多く支払うのか？」 結局のところ、民主主義はここに私たちを導くのです。

ルーマニアでは、特に戦争以降、民主主義は選挙制度を通じて、勇気や祖国への愛、あるいは

犠牲ではなく、国家の裏切り、私利私欲の満足、賄賂、権力の行使、搾取と横領による富の蓄積、窃盗、卑怯、そして敵を倒すための陰謀である。

この「国民エリート」が今後もこの国を率い続けるならば、ルーマニア国家は崩壊するだろう。したがって、究極的には、他のすべての人々が依存している今日のルーマニア国民が直面している問題は、この偽のエリートを、美徳、愛国心、祖国への犠牲、正義と国民への愛、誠実さ、勤勉さ、秩序に基づく真の国民エリートに置き換えることにある。

規律、誠実な取引、名誉。

誰がこの交代を行うのか ?誰が真のエリート層を指導者の座に就かせるのか ?私はこう答える。民衆以外なら誰でもいい。ルーマニア国民を滅ぼす「民主主義」以外のあらゆる制度を認める。

ルーマニアの新たなエリート層は、世界の他のエリート層と同様に、社会的淘汰の原理に基づいていなければならない。言い換えれば、特定の資質を備え、それに基づいて選抜される人々の集団である。

そして耕作する人々は、国民全体、すなわち土地と国家に永続的に結びついた農民と労働者という健全な大衆から自然に選抜される。この階層の人々が、我が国を率いる国家エリートとなる。

いつ大衆に相談できるのか、そしていつ相談しなければならないのか。大衆は、その未来を左右する重大な決定を下す前に、その意思を表明するために相談を受けるべきである。大衆は、ある道を進むことができるかできないか、ある道に進むための精神的な準備ができているかどうか、その意思を表明するべきである。大衆の運命を左右する事柄については、相談を受けるべきである。これが人民の協議であり、特定の政党の選挙を意味するのではない。

人民によるエリート。

しかし、私は自分の質問を繰り返します。「エリート層における各人の地位を示すのは誰で、各人を評価するのは誰ですか ?新しいエリート層のメンバーの選抜と任命を行うのは誰ですか？」私はこう答えます。「以前のエリートです。」

後者は、各人を選んだり指名したりするのではなく、能力と道徳的価値によって自らを高めた地位に聖別する。聖別はエリートの長が協議の上行う。

エリート層と共に。したがって、国民エリートは、その地位を継承するエリート層を残すようにしなければならない。ただし、そのエリート層は世襲の原理に基づくのではなく、社会淘汰の原理を厳格に適用したものでなければならない。世襲の原理だけでは十分ではない。国民の深層から絶えず刷新される社会淘汰の原理によれば、

エリートは常に活力を維持する。歴史上最大の誤りは、エリートが

淘汰の原理を放棄した民主主義は、翌日にはまさにその原理を放棄し、世襲の原理に置き換えた。こうして、生まれながらの特権という不当で非難されるべき制度が確立された。この誤りへの抗議として、堕落したエリート層の排除と、生まれながらの特権の廃止を求めて、民主主義が誕生した。淘汰の原理の放棄は、偽りの堕落したエリート層を生み出し、ひいては民主主義の逸脱を招いた。

選択の原理は、選出の原理と遺伝の原理の両方を同じように排除します。両者は互いに打ち消し合います。両者の間には矛盾が生じます。なぜなら、選択の原理が存在するか、

その場合、大衆の意見や投票は重要ではなくなり、あるいは大衆が特定の候補者に投票する場合には、選択はもはや機能しなくなります。

同様に、社会淘汰の原理が採用される場合、遺伝は関与しない。相続人が淘汰の法則に適合しない限り、これら二つの原理は両立しない。

では、もし国家に真のエリートが存在しないとしたら――第一のエリートが第二のエリートを指名するなどということはないだろうか ?私は、議論の余地のない真実を含んだ一言で答える。その場合、真のエリートは堕落したエリート、偽りのエリートとの戦いから生まれる。そして、それも淘汰の原理に基づいている。

したがって、まとめると、エリートの役割は次のようになります。

a) 国民の生活法に従って国家を導くこと。

b) 遺伝の原則ではなく選択の原則に基づいた継承エリートを残す。なぜなら、エリートだけが人生の法則を知っており、人々がどの程度従うかを判断できるからだ。

これらの法則に対する適性と知識。それは、庭師が自分の庭を耕し、死ぬ前に相続人、後継者を確保するのと同じである。なぜなら、その中の誰が後継者になるかは、彼だけが決められるからである。

彼と一緒に働くことが、彼の代わりとなって彼の仕事を続ける最善の方法です。

エリートは何に基づいて設立されるべきでしょうか?

a) 魂の純粋さ。

b) 労働能力および創造力。

c) 勇気。

d) 厳しい生活と国家が直面する困難に対する永続的な戦い、

e) 貧困、すなわち財産を蓄えることを自発的に放棄すること。

f) 神への信仰。

g) 愛。

これまでの私たちの活動はキリスト教会の活動と同じ方向を向いているかと尋ねられることがあります。私はこう答えます。私たちが従う道と、教会の道との間には大きな違いがあります。

キリスト教会。教会は高いところから私たちを支配しています。教会は完璧さと崇高さに達します。私たちは自分の行為を説明するために、この次元を下げることはできません。

私たちは、私たちの行動、すべての行為と思考を通して、この線に向かい、肉の罪と原罪による堕落の重さと同じくらい、私たち自身を高めていきます。

許可してください。私たちがこの世での努力を通して、この目標にどれだけ近づける
かはまだ分かりません。

個人、全国
集団性、国家

「人権」は、他の人間の権利だけでなく、他の権利によっても制限されます。人権には
3つの明確な実体があります。

1. 個人。
2. 現在の国民集団、すなわち、ある特定の瞬間にある国家に居住している同じ国民のすべての個人の全体。
3. 国家は、その歴史上何世紀にもわたる存在であり、そのルーツは時の霧の奥深くに埋め込まれており、無限の未来を持っています。

「人権」に基づく民主主義の新たな大きな誤りは、これら3つの実体のうち、個人だけを認識し関心を示すことであり、後者を無視したり嘲笑したりしている。

3番目を否定します。

彼ら全員には権利と義務があり、生きる権利と、他の 2 人の生存権を侵害しない義務があります。
民主主義は個人の権利のみを保証することに配慮します。
だからこそ、民主主義において私たちは恐るべき混乱を目撃するのです。個人は、無制限の権利をもって集団全体の権利を侵害し、それを踏みにじることができると信じています。
そして奪う。したがって、民主主義においては、この引き裂かれる光景、個人が自分の個人的な利益以外の何ものも認めない無政府状態を目撃することになる。

一方、国家集団は、現在の利益のために未来、つまり国民の権利を犠牲にする傾向を常に示しています。だからこそ、私たちは容赦ない搾取と、

森林、鉱山、石油埋蔵量の剥奪、そして私たちの子孫の何百世代にもわたるルーマニア人が同じように生き、私たちの生活を続けることを期待していることを忘れている。

我が国は、民主主義によってもたらされたこの大混乱、関係の崩壊は、真の無政府状態、つまり自然秩序の崩壊であり、今日の社会における不安の主要な原因の一つとなっています。

調和は、自然秩序の回復によってのみ回復され得る。個人は、上位概念である国家集団に従属し、国家集団は国家に従属しなければならない。「人権」はもはや無制限ではなく、国家集団の権利によって制限され、そしてその権利は国家の権利によって制限される。

最後に、民主主義においては、少なくとも多くの権利を享受する個人は素晴らしい暮らしをしているように見える。しかし現実には、そしてこれが民主主義の究極の悲劇なのだが、個人には権利がない。我が国では集会の自由、執筆の自由、良心の自由はどこにあるのだろうか ?個人は恐怖、包囲、検閲の下で暮らしており、何千人もの人々が

最も暴君的な指導者たちの支配下にあるかのように、信仰ゆえに逮捕され、中には殺害される者もいる。集会が禁じられ、何千人もの人々が投票を阻まれ、虐待され、殺害される時、「主権者たる大衆の権利」はどこにあるのだろうか ?あなたは言うだろう。「そうだ。だが、この人々は憲法を変え、私たちの自由を制限し、別の形態の政府を樹立しようとしているのだ！」

私はこう問います。「民主主義は、国民が自らの運命を自由に決定できず、憲法や政治体制を好きなように変更できず、自由に生きることも、自由に生きることもできない、と主張できるでしょうか ?」

これは究極の悲劇だ。

現実には、民主主義において人間は権利を持たない。人間は国家集団や国民の利益のために権利を失ったのではなく、銀行家や選挙代理人といった政治資金階級のために権利を失ったのだ。そして最後に、個人への最後の恩恵が与えられる。フリーメーソン民主主義は、比類なき背信行為によって、この地上における平和の使徒を装いながら、同時に人間と神の間に戦争を宣言している。

人間の間の平和と神に対する戦争。

背信行為は、救世主の「平和」という言葉を使うことである。

彼らはキリストを「人々の間で」非難し、人類の敵として示しながら、「平和」の使徒に変装しています。さらに、この不誠実さは、人々の命を救いたいと見せかけながら、実際には人々を死に導いていることにもあります。戦争から人々の命を救おうと見せかけながら、悪魔的に永遠の破滅へと彼らを非難しているのです。

ザ•ネイション

ルーマニア国民と言うとき、私たちは同じ領土に住み、同じ過去と未来を共有し、同じ服を着ているすべてのルーマニア人を意味するだけでなく、生きている人も死んだ人も、すべてのルーマニア人を意味します。
歴史の始まりからこの地に住み、そしてこれからも
将来もここに住みます。

対象国は以下のとおりです。

1. 現在生存するすべてのルーマニア人。
2. 亡くなったすべての人々の魂と先祖の墓。
3. ルーマニア人として生まれるすべての人々。国民は、自らの目的だけでなく、この全体の意識を獲得したときに、自らを意識するようになる。

国家は以下を所有している:

1. 物理的、生物学的な財産 — 彼女の肉と血。
2. 物質的な財産 - 祖国の土地とその富。
3. 以下のものを含む精神的財産：

a) 神、世界、そして人生に関する彼女の概念。この概念は一つの領域、つまり霊的な財産を形成している。この領域の境界は、彼女の概念の輝きがどこまで届くかによって決定される。
到達する。そこには国民精神の国、啓示によって、あるいは自らの努力によって得られたビジョンの国が存在する。

b) 国家が歴史を通じて神、世界、人生の概念から生まれた規範に従ってきた程度に応じて、その名誉は輝きます。

c) 彼女の文化、それは芸術と思想の領域における彼女自身の努力から生まれた、彼女の存在の産物である。この文化は国際的なものではなく、国民的才能、国民的血統の表現である。

文化は、その輝きの範囲においては国際的だが、起源は国民的である。ある人が美しい比較をした。パンと小麦はどちらも消費財としては国際的だが、

彼らは、どこにいても、自分たちが育った土地の痕跡を帯びています。
これら三つの遺産はそれぞれに重要性を持っています。国民はこれら三つすべてを守らなければなりません。しかし、最も重要なのは精神的なものです。
遺産は永遠の刻印を持ち、何世紀にもわたって存続する唯一のものである。

古代ギリシャ人が記憶されているのは、彼らの体格のせいではなく（体格は灰しか残っていないし、物質的な富があったとしても、それらも残っていない）、彼らの文化のせいである。

国民は、その考え方、名誉の概念、そして文化を通して永遠に生きる。だからこそ、国家の指導者は、国民の物質的•物質的な利益だけでなく、歴史的な名誉、永遠の利益も考慮に入れながら、判断し行動しなければならない。言い換えれば、パンではなく、いかなる代償を払ってでも名誉を得るのだ。

国家の最終目的

それは人生ですか？

もしそれが生命であるならば、人々が生命を保証するために使う手段は
問題は、最悪のものであっても良いことだ。

だからこそ、次のような疑問が浮かび上がる。国家が他国との関係において指針とする原則とは一体何だろうか？海に棲む魚や森に棲む獣のように、内なる虎のような動物的本能に導かれるべきなのだろうか？

最終的な目的は生命ではなく復活です。救い主イエス•キリストの名のもとに人々が復活することです。創造や文化は、これまで信じられてきたように、目的ではなく、手段に過ぎません。
この復活。これは神が私たちの民に植え付けた才能の結実であり、私たちはその責任を負わなければなりません。地上のすべての民が、すべての死者とともに復活する時が来ます。

そして、すべての王と皇帝、それぞれの民族が神の御座の前にそれぞれの場所を持つ。この最後の瞬間、「死者からの復活」こそが、民族が目指す最も高貴で崇高な瞬間である。

したがって、国家とは、この地上を超えて存在し続ける実体である。人々はこの世だけでなく、冥界においても実在する。

聖ヨハネは、地球の向こう側で見たものを語りながら、こう言っています。

「都は太陽も月も必要とせず、その輝きも必要としない。神の栄光が都を照らし、小羊がその灯火となるからだ。諸国の民はその光の中を歩み、地の王たちは栄光と誉れを都に携えて来る。 」[1]

また、「主よ、誰があなたを畏れず、あなたの御名を讃えずましょうか。あなただけが聖なる方です。あなたの裁きは明らかであるため、すべての国々が来て、あなたの御前に礼拝するでしょう。 」[2]

私たちルーマニア人、私たちの国民、そして世界の他のどの民族にも、神は一つの使命、歴史的な運命を与えました。人が従わなければならない第一の法則は、この運命の道を歩み、託された使命を成し遂げることです。ゴルゴタの道がどれほど困難で長引いたとしても、私たちの国民は武器を手放したり、使命を放棄したりすることはありませんでした。今でさえ、山のように高い障害が私たちの前に立ちはだかっています。私たちは、脅迫の圧力に屈し、ルーマニアの運命の線を手放し、この世界における国民としての使命を放棄するような、弱く臆病な世代なのでしょうか。

君主制と
君主制の法

---

[1] （黙示録、21、23-24）。

[2] （黙示録15章4節）。

国民のトップ、エリートの上に君主制がある。
私は共和国を拒否します。

君主の中には善良な者もいれば、非常に善良な者もいれば、弱々しく悪徳な者もいた。生涯を通じて名誉と民衆の愛を享受した者もいれば、斬首された者もいた。したがって、
すべての君主が善人だったわけではない。しかし、君主制そのものは常に善であった。君主と制度を混同して誤った結論を導き出してはならない。

悪い司祭もいるかもしれない。しかし、だからといって、
教会は廃止され、神は石打ちの刑に処されなければならないと？

確かに弱く悪い君主もいるが、だからといって君主制を放棄することはできない。農業では、豊作の後に凶年が続いたり、豊作の後に凶年が二度続いたりすることもある。それでもなお、農業をやめようなどと考える者はこの世に一人もいなかった。

君主は、偉大であろうと小さかろうと、善であろうと悪であろうと、自分の好きなように行動するのでしょうか？

君主は自分のしたいことをするのではない。自分の好きなことをするときは小さく、やらなければならないことをするときは偉大である。それぞれに
神は運命の線を描きました。君主はその線に沿っている限り偉大で善良であり、その線から逸脱したり、それに抵抗したりする限り、卑劣で悪徳です。これが君主制の法則です。君主を誘惑する線は他にもあります。個人的な利益、特定の階級や集団の利益、そして（国内または海外の)外部の利益の線です。

彼はこれらすべての線を避け、民の線に従わなければならない。ステファン
偉大なる王は500年にわたり歴史に名を刻み、ルーマニア国民が彼を記憶しているのは、彼が自らを国民の運命と完全に一体化していたからです。フェルディナンド王は、外部の利害関係者や影響力からの圧力にも関わらず、自らを国家の運命に捧げました。彼は国民と共に苦しみ、共に犠牲を払い、共に勝利しました。だからこそ、彼は偉大であり、

不滅。

トゥトヴァの戦い、1932年4月17日

ネアムツでの選挙からわずか4ヶ月、若き軍団は新たな戦いに突入した。1932年1月初旬、トゥトヴァ県で議員の議席が空席になったと宣言された。[注: トゥトヴァ県はバルラドを郡庁所在地としていた。]

私は状況を精査しました。前回の総選挙では、私たちはそこでわずか500票しか獲得できませんでした。この郡は弱体でしたが、コヴルルイ、カフル、テクシといったより強力な郡に囲まれていたため、容易に軍団兵を投入することができました。

もしかしたら勝てるかもしれないと思えた。新たな勝利の反響がもたらすであろう影響について考えていたのだ。最年少世代があらゆる政党に2回連続で勝利すれば、国民の目にその威信を著しく高めることになるだろう。父に立候補を決めた。父は議会内外での組織力と宣伝活動において、私にとってこの運動に最も必要不可欠だったからだ。選挙は3月17日に予定されていた。1月9日、私は全県にマニフェストを送った。父は最初の選挙チームを率いて1月10日に到着した。その後、ヤシ、テクチ、ベレスティ、カフルからのチームが続いた。

最初の3週間、小規模な軍団部隊の機敏さと勇敢さは、郡全体に我々への同情の波を起こした。大雪と寒さに見舞われる厳しい冬、政党は外出することができず、天候が回復するのを待った。しかしこの間、軍団兵たちは丘を越え、腰まで積もる雪の中、吹雪の中、村から村へと移動した。

2月初旬、敵との戦いはより困難になり、自由党、国民農民、ルピスト（注：ルプ博士の党員）、クジストの連合が我々と対峙した。

かつて経験したことのない激しさでした。政府はまさにテロ行為に訴え、ユダヤ人の報道機関は私たちを激しく攻撃しました。

新たな増援の必要性を感じ、トトゥ率いる最後の予備軍をヤシから派遣した。ブカレスト以外には予備軍はなく、資金不足のため確保できなかった。そこで私は召集令状を出した。

軍団兵の集会で英雄的な行動を提案した。ブカレストからバリアドまで約200マイルの距離を歩いて出発し、この行軍が彼らにとってより大きな意味を持つことを説明した。

我々の勝利は10万の宣言文よりも重要だ。それだけで、トゥトヴァのルーマニア人たちに向けた軍団兵による偉大な英雄的演説となるだろう。

軍団兵たちは私の提案を熱烈に受け入れた。一週間後、ステレスク、カラタナセ、ドル•ベリマチェに率いられた約25名の部隊がブカレストを出発し、トゥトヴァに向けて徒歩で出発した。嵐の中、10日間の行軍を経て、彼らはバリアドに到着し、住民全員から温かく迎えられた。しかし、迫害は神経をすり減らすほどの緊張へとエスカレートしていた。

内務大臣アルゲトイアヌは、憲兵大佐（イグナト)に大軍を率い、トゥトヴァ県から担架で軍団兵を運び出すよう命じた。少人数の部隊ではこれ以上前進することは不可能だった。そこで私は、ヴィクトル•シラギとステレスクの指揮下で強力な二部隊を編成し、互いに支援し合いながらプエスティ=ドラゴミレスティ線を進軍させ、父を援護させた。さらに小規模な部隊をバカニ方面に派遣した。この二部隊は、まだ捜索隊が派遣されていない唯一のルートであり、県の北東半分を占めていた。

残りの半分、つまり南側は、私の父、郡長の D. ポペスク氏、ビクター•シラギ、テオドール•ティレア、イオン•アントニウら第一陣によって十分に耕作されていました。

北の2部隊は厳しい寒さと戦いながら約30マイル前進し、トクをはじめとする数名の負傷者を出した。郡の北部では、彼らは大規模な

憲兵部隊は廃屋の屋根裏に立てこもり、暖房も食料も水もない中で48時間抵抗した。最終的に撤退に成功した。

厳しい夜行軍を、本当に英雄的な状況で遂行できたのは、疲れ果て、飢え、凍えきった軍団兵たちを勇気づけ続けたヴィクトル•シラギの粘り強さのおかげであった。
最後の抵抗。

この孤児は、1918 年にハンガリー人によって悲惨な状況下で殺害された、カリイ•マリ出身のルーマニア人司祭シラギの息子であり、勇敢に戦いました。

最終的に、これらの部隊は優勢な部隊に包囲され、捕らえられてバリアドに連行されました。父は逮捕され、連隊の刑務所に収監されました。

第三小隊はバカニの戦いで壊滅的な打撃を受けた。夕方、村に入る手前の谷で、憲兵の大部隊に襲撃された。小隊長のラスカル•ポペスク軍団兵はライフルで頭を撃たれ、真っ先に血だまりの中で意識を失った。他の軍団兵たちは撤退を拒否し、裸の胸、手には何も持たずに反撃し、村に入ろうとした。

彼らは一人また一人と意識を失っていった。最後に残った一人が、一人で攻撃を仕掛けた。打撃を受けて膝をついたが、起き上がって再び攻撃を仕掛けた。彼は戦友の近くに倒れた。チーム全員が血の海の中で意識を失っていた。そこから彼らは憲兵に雪の中を引きずられ、村の憲兵駐屯地まで1マイル以上運ばれた。その日の夜中の1時に、騎手がバカニで何が起こったかをバリアドに伝えた。その夜中にバルラドに到着したトトゥ率いるヤシからのチームは、負傷した戦友を救助するためにすぐに徒歩で出発した。午前3時半から5時までの戦闘で憲兵は全火器を発砲した後、軍団兵が憲兵駐屯地を占拠し、バカニの戦いで倒れた戦友がまだ意識を失って地面に横たわっているのを発見した。彼らは彼らをバルラドの病院に運んだ。

しかし、事態はそこで終わらなかった。ユダヤ人たちは巨大な報道キャンペーンを展開し、私たちを忌まわしい皮肉と不正義で攻撃した。嘘、侮辱、中傷の波が押し寄せた。政治的なグループが団結して私たちを戦闘から排除しようとした。

第二の解散
衛兵の1932年3月

憲兵に蹴られ、ユダヤ人報道機関に攻撃され、大臣の単純な決定によって命じられた衛兵隊の新たな解散という事態に、私たちは見舞われました。完全に合法的な枠組みの中にあったにもかかわらず、ロルガ＝アルジェトイアヌ政権は法律と憲法を無視し、衛兵隊を恣意的に解散させました。全国各地の本部は再び占拠され、南京錠をかけられ、ヤシの印刷所は閉鎖されました。報道機関による攻撃を受け、すべての出版物が発行停止となったため、私たちは自衛の不可能な立場に置かれました。議会で発言しようとしましたが、多数派の騒ぎに阻まれ、自衛の機会を与えられませんでした。

しかし、トゥトヴァ県の立候補は阻止できなかった。ブカレストのチームは県から追放された。他のチームも同様に次々と追放された。トトゥ率いるヤシのチーム（約30名)は
同じ撤退作戦のために補給所へ送られる途中、司令部は非常線を突破し、待合室を占拠し、バリケードを築いて24時間抵抗したが、

ガスで消された。結局、列車に積み込まれ、郡外へ運び出された。町に残ったのはイブライレアヌ、ヌトゥ•エサヌ、そして逮捕された父だけだった。その後、迫害は
村々は混乱に陥り、農民、教師、聖職者たちが逮捕され、暴行を受け、家に押し入られた。選挙は1ヶ月延期され、4月17日までとなった。

父は釈放された。その後、高齢の軍団兵たちが戦闘に加わるために町にやって来た。フリスタチェ•ソロモン、カンブレアヌ大佐、ヴェントニック、イフリム、イシヒエ神父、ペチェリ、ポトレアなど。私は彼らを各方面に配置した。それぞれ夜陰に乗じて持ち場へ向かった。近隣の郡から来た我々の部隊は、再びトゥトヴァに数カ所入城した。コステア軍団はバルラド川を渡った。

川沿いの道路はパトロールされていたため、彼らは首まで水に浸かり、びしょ濡れで投票所に到着した。

4月17日朝、投票が始まり、夜まで続いた。4月18日午前5時、軍団派の勝利が発表された。得票数は5,600票。自由党は5,200票。国民農民党は5,200票。

4,000 票、その他のグループ: 2,000 票未満、Cuzists: 500 票。

この二度目の軍団の勝利は、ルーマニアのすべての政治家の連合に対する軍団兵の不屈の精神と鉄の意志、彼らの英雄的行為と血によって勝ち取られたものであり、

妨害、侮辱、打撃、迫害にもかかわらず、国中に言い表せないほどの熱狂が巻き起こった。

新たな総選挙
1932年7月

私の父は国会会期の最終日に承認されました。
しかし、私たちの休息はたった1週間しか続かなかった。ロルガ政権が崩壊したからだ。国民農民政府が樹立され、
ヴァイダさん。

肉体的にも経済的にも疲弊した私たちは、新たな戦いに突入しました。それは1932年6月のことでした。1929年12月15日以来、私たちは絶え間ない戦いを続けてきました。1929年12月から1930年4月まで、
コヴルルイ、カフル、トゥルダ、テクチでの運動、1930年の夏、ベッサラビア行進の準備と阻止、そしてその年の秋まで投獄、10月と11月はマラムレスにいて、その冬は再び投獄、1931年の春、総選挙前の戦闘、1931年の夏、ネアムツでの選挙、1932年の冬、トゥトヴァでの選挙、そして今、再び総選挙を迎えようとしていた。こうしたすべての闘いにもかかわらず、私たちは国の他の地域で組織活動を続け、前年には17の郡で選挙名簿に登録し、今年は36の郡に登録した。

政党は候補者指名をめぐって、陰謀に満ちた同じ争いを繰り返した。それは丸一週間続いた。しかし私は一人で、たった一晩で36郡の候補者名簿をすべて確定させた。軍団兵の中で、名簿の順位を争う者は一人もいない。むしろ、最後尾にしてほしいと頼む者さえいる。

私たちにとって難しいのは資金の問題です。ほとんどの郡は軍団からの寄付金で自費を賄うことができましたが、そうでない郡もありました。選挙税を払うだけで5万レイ必要でした。最後の日まで、まるで茫然としたように歩き続けました。一つ試してみても、また一つ試してみましたが、何もできませんでした。

私は、カレンダウル（「カレンダー」)のディレクターであるニチフォー•クライニック氏に、お金があるかもしれないという期待を抱いて会いに行ったが、無駄だった。
彼は5か月間発行された日記を通じて、私たちの軍団の勇敢な行動を一歩一歩追いながら、私たちの闘争を支援してくれましたが、金銭的な援助はできませんでした。
最後に、私はピフとカラニカから借り入れました。彼らはマケドニア全土に駆けつけ、必要な資金を集めました。いくつかの郡はフォクシャニ郡とイリスタチェ•ソロモン郡によって支援されました。

作戦が始まった。新たな迫害が我々の隊列を襲った。

広大な戦線に分散していたため、我々のわずかな部隊は至る所で激しい攻撃を受けた。ティギナではサヴィン軍団兵とポペスク軍団兵が負傷した。バルラドでは、ジョルジェスク=バルラド氏の命令により、数十人の教師と司祭が地下室に引きずり込まれ、虐待された。ヴァスルイでは、我々の小部隊が負傷した。ポドゥル=イロアイエイとヤシ郡全域でも同様であった。フォクシャニでは、老齢のフリスタチェが

ソロモン、技師ブラナル、その他10人は、弁護士ネアグの命令で、ヴルトゥルル村で武装した民族農民集団に襲撃された。軍団兵は負傷して地面に倒れた。
棍棒とナイフ。山のように立ち上がったのは、フリスタチェ•ソロモンだけだった。当時、誰も彼に近づく勇気はなかった。彼は激しく抵抗したが、ついに道の真ん中に倒れ、殴打に打ちのめされた。地面に倒れた彼は、合法性、文明的な方法、自由など、当時も今も常に問題視するこの野獣たちに頭を棍棒で殴られた。衛兵は7万票を獲得し、前年の2倍となった。カフル郡、ネアムト郡、コヴルルイ郡は、

父が立候補したトゥトヴァが最も強い結果となりました。その後、モタが率いるカンプル•ルング、トゥルダ、フォクシャニ、イスマイル、ティギナが続きました。私たちは5議席を獲得しましたが、今はその議席を埋めるための選挙をしなければなりません。私はヌトゥ•エサヌを議会に送り込むためにカフルに留まりました。父は25歳の学生であるステレスクを議会に送り込むためにバルラドに留まることにしました。そうすることで、この国の若者に勇気と希望を与えたかったのです。
刺激を与えてくれた。しかし、私がこの若者に示した信頼と愛情は、私に返ってこなかった。[注 :著者はここでステレスクの
将来、軍団の仲間を裏切ることになるだろう。

議会で二度目

私は議会でずっと、ルーマニア国民の幸福に反すると考える政府とその政策に反対してきました。実際、私は以前のすべての

政権が交代で国家の舵取りを担う。国はこれらの政府に何も期待できなかった。国民の未来にとって健全なことは何もそこでは築かれていなかった。

施策や法律は、我が国の苦しく悲しい生活を日々延長させる、単なる一時しのぎの手段に過ぎなかった。

グリヴィタでルーマニア人労働者が内務省の命令により銃撃されたとき、政府の措置を称賛する国民農民党内の親共産主義者たちの態度に心底うんざりし、私は演壇に立ち、次のように発言することが自分の義務だと考えた。「不幸な労働者たちが街頭に出たことは悪いことだが、彼らと我々国民が、天に向かって叫ぶような不正義に直面しながら、外に出ることなく、あきらめて軛の下に頭を垂れ、国を搾取する政治家たちの手に委ねるならば、それはもっと悪いことだ。」[注 :著者はここで、

1933年2月4日、国家農民政権下のブカレストにあるグリヴィタ•ラフィウェイ工場。

このセッションの公式議事録から引用します。

コルネリウ•ゼレア•コドレアヌ議員…議長、議員の皆様 !私が所属する会派を代表して、通常は管轄当局が行う調査に加え、本議会における様々な政治グループの代表者からなる議会調査の実施を要求します。私がこれを要求するのは、内務大臣の発言の信憑性に疑問を抱いているからです。そして、それには十分な理由があります。1月24日、ルーマニアの学生たち、民族主義者とキリスト教徒が無名戦士の墓に十字架を捧げに行った際、国家セクリタテ（国家保安省)はブカレストの新聞社に、この行為はモスクワによって画策され、資金提供されていたという情報をリークしたのです。

「もしあなたがグリヴィタ事件に関して持っている情報もそのような情報源から得たものであるならば、あなたが昨日、今日とこのような措置を講じたことがいかに正しいことか、私はよく理解しています。」

（「鉄の衛兵」の観客席と
ルプ博士の農民党）。

第二に、私だけでなく、この国の良識あるすべての人々は、共産主義やボルシェビズムを恐れているわけではないことを申し上げたいと思います。私たちが恐れているのは別のことです。労働者たちが食べるものがない、飢えているという事実です。

（「鉄の衛兵」の観客席と
ルプ博士の農民党）。

「労働者の中には、月に1,100レイしか稼げず、5人、6人、7人の子供がいる人もいます。」

V. ルプ博士: 「それは本当です。」

コルネリウ•ゼレア•コドレアヌ氏：「私には5人、6人、7人の子どもがいます。このような賃金では、子どもたちの毎日のパンを買うことさえできません。その一方で、私は別のことをも恐れています。それは、子どもたちの正義への渇望です。」

N. Liipu 博士: 非常に良いですね!

コルネリウ•ゼレア•コドレアヌ：「したがって、飢えと正義への渇望という2つの欲求を満たさなければなりません。」

(「鉄衛団」議員とルプ博士の農民党議員から拍手)「そしてこの国は完全な秩序を享受するだろう。」

(1933年2月16日木曜日の会議。1933年2月23日の公式モニター41)

議会活動にブレーキをかけている困難の一つは、省庁に対する何千もの何らかの仲介要請である。これは我々選挙区からの真の罰である。

(1)議員たちはこれらの要求を満たすためにほとんどの時間を無駄にしなければならないからです。このシステムは組織の存続にとって危険です。組織の活動全体を麻痺させ、戦いに敗北しかねないからです。支持者に奉仕するためには、国の運命を放棄しなければなりません。しばらくして、私は、このような要求を私に持ちかけてくる人々の中に、軍団兵が一人もいないことに気づきました。彼らは皆、プロの物乞いか、私たちを麻痺させようと特別に送り込まれた敵対者でした。

(2)この制度は、我々が戦う相手に近づき、好意を求めるという微妙な立場に我々を置きました。こうした理由から、私は個人的に誰のためにも介入することを拒否しました。国会議員として在職中、私はいかなる大臣にも何も求めませんでした。

もう一つのカテゴリーは、私たちに金銭を乞う人々でした。毎日何百人もの人が私たちのドアをノックしていましたが、軍団兵は一人もいませんでした。中には病気や不幸に見舞われた人もいましたが、この制度を真の職業にしている人もいました。

最終的に、我々の部隊は小さな組織となり、隊列を組み、移動し、絶えず戦闘を繰り広げていた。これは特に私に、敵のあらゆる動きに絶え間なく注意を払うことを要求した。それは敵の計画を暴き、それをかわし、新たな陣地を確保し、組織化する作業、言い換えれば、全国の戦場を昼夜問わず常に監視することだった。しかし何よりもまず、軍団教育の監督が重要だった。目覚めた途端、道徳的感染という政治的カテゴリーに徐々に変貌し、そこから抜け出すことができなくなり、軍団精神が死滅してしまうことがないようにするためだった。

議会は、私がリーダーシップを発揮するために本当に必要としていた時間を奪いました。

の状態
レジオネラ組織
1932年から1933年

1932年の秋から1933年の冬にかけて、軍団兵たちは息を吹き返した。3年半の戦闘は終わり、若者たちは今や休息に値する。私がブカレストに居を構えてから、ほぼ2年が経っていた。

私の代わりとして、ヤシでは、トトゥ、クランガヌ、タスカ、ステリアン•テオドレスクの助けを借りて、バネアが滞在し、学生、印刷所、私たちの家などに関する質問に回答しました。軍団の学生グループ
増加し、現在では過激派学生の半数以上を占めています。
クルージュでは、バニツァ•ドブレが組織化に向けて健全なスタートを切った。同様に、チェルナウティでもラウリックが軍団を率いて
トッパ教授をはじめとする人々が集まったトライアン•ブライレアヌ教授の精神的な指導のもと、生活は順調に芽生えていた。ブコヴィナ全域で、軍団の勢力と
組織は、ベテランで著名な民族主義者ヴァシーレ•ラシンシの有能な指揮の下で成長していた。キシナウではトゥドラッチェとセルギー•フロレセウが働いていた。オラデア•マーレではロシフ•ボザンタン。

十字架の兄弟団で育った若者たちは、大学入学までに準備が整っていました。ブカレストでは、ニキフォル•クライニッチ氏の編集の下、ドラゴス•プロトポペスク教授率いる少数の知識人の協力を得て、勇気と優れた指導力を持つ民族主義新聞『カレンダール』(「カレンダー」)が創刊されました。この新聞は、ルーマニアの知識人社会において、キリスト教の伝統に沿って、勇敢に新たな道を切り開いていました。

そして民族主義路線。特にクレイニック氏の記事は、敵陣に壊滅的な打撃を与えた本物の大砲の射撃のようだった。首都の学生運動では、軍団兵が最前線を占拠した。トライアン•コティガは学生センターの会長を務め、軍団兵委員会を有していた。

首都の知識階級の若者の間では、変化が感じられた。
彼らの良心は、我が国の生活に影響を与える大きな問題に心を奪われていた。才能ある人々が
新しいレビュー「アクサ」(「軸」)を中心に、ポリクロニアデ、ヴォイエン、コンスタントが軍団に加わり、ヴァスデ•クリステスク教授、ヴァスフィエ•マリン教授、
ヴィアディミール•ドゥルニトレスク、技師のヴィルグド•イオネスク、教授のラドゥ•ギル、弁護士のポポフ、画家のバサラブとズロテスクは、皆非常に才能があり熱心で、軍団の理念に沿って活動しました。

涙のように純粋で勇敢な健やかなマケドニアの若者たちは、ますます私たちの近くにやって来た。しかし、四辺形地帯（注：いくつかの郡)のマケドニア人の大群が、
1913年のバルカン戦争の終わりにルーマニアに併合された南ドブロジャの出身者を衛兵として受け入れることはできない。なぜなら、この国に移住したばかりなので、
迫害は続きましたが、マケドニアの大学の青年たちは全員、軍団運動に参加しました。このマケドニアの青年たちを率いたのは、3人の著名な文化人でした。
パパナーチェ、カラニカ、ステリエ•シウメティ。

最初の二人とは頻繁に相談しましたが、二人とも非の打ちどころのない純粋さと誠実さ、そして大いなる愛と勇気に支えられた素晴らしい判断力を持っていました。

1931年以来、彼らと会わない日はないと思う。迫害の時代、私たちは何時間も、次から次へと続く打撃、次から次へと続く不正、裏切りについて議論した。軍団兵の新たな拷問のニュースは、

私たちの心を突き刺すナイフ。

虐待を受けたすべての軍団兵のために私たちが受けた苦痛は、私たちの魂を苦しめました。そして特に、正義が実現する希望を将来にわたって見出すことが不可能であることは、私たちの心を苦しめました。

ステリエ•チュメティは昼も夜も私と共に暮らしていた。彼は非常に正義感にあふれ、犬のように忠実な若者だった。彼は衛兵隊の会計係長となった。生涯——これから先も——衛兵隊のことだけを考え、衛兵隊のために尽力し、衛兵隊のためだけに生き、衛兵隊のためだけに人生を捧げるだろう。

この国のさまざまな場所に、他の貴重な要素が現れました。パンテリモン博士、イオネスク•ドゥミニカ神父、シビウのオーギュスティン•ビディアン博士。学生たちの霊的告白者であるゲオルゲスク•エディンティ神父、退役軍人であるバカウのチウレイ大尉、同じく退役軍人でラムニクル•サラートで指揮を執ったアリストテル•ゲオルギュウ。イオン•イリエスクのブラダにて。セイタンのコンスタンツァにて。ヴァルセアのドアラ神父とビクトル•バルブレスク。ティミショアラのヴィンタン教授、ゲナディ教授、ドゥマ教授。そしてベテランの軍団兵、ニコラエ•ペトラスク教授、ホリア•シマ教授、弁護士ヨシフ•コステア氏、コルホン氏らは現在国内各地に指揮所を置いている。

ブカレストはセクターに分かれており（注 :5つの大きなセクターはそれぞれ色の名前が付けられています :緑、黄、赤、青、黒）。私たちはその中で組織化を始めました。緑と青のセクターには、ニコラエ•コンスタンティネスクとドル•ベリマスという二人の優秀な人物がいました。二人とも強い個性と確かな頭脳を持っており、ドル•ベリマスはブカレストで最も優秀な学生の一人でした。
文学部 :ニコラエ•コンスタンティネスクは、優れた経済学の経歴を持ち、商業アカデミーの学生でした。二人はすぐに、軍団の信仰と勇敢さという、堂々とした資質を備えていることを証明することになります。

この時期には、最初の軍団兵の階級も創設されました。
1932年12月10日の以下の命令:

A) 軍団司令官と呼ばれる最上級の階級が、軍団の階級制度において確立される。犠牲、勤勉さ、英雄的行為、信仰、能力、そして年功を鑑み、以下の軍団兵がアルファベット順に昇進する。バネア•イオン（医学博士候補）、ベルジェア•イオン、ブラナル•イオン（技師）、

ドゥミトレスク•イオン司祭。イヨネスク•アンドレイ。シラギ•ビクター、弁護士。ステレセウ•ミハイル、下院議員。トトゥ•ニコラエ、学生。トライアン•コティガ、学生。棚瀬アントヒ、職人。

B) 1927 年および 1928 年のシリーズの軍団員で誓願を立て、現在も軍団の現役隊員である者は全員、ここに軍団司令官補佐に昇進する。

署名: コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ。

年齢が上の他の子どもたちは、
軍団の上院と軍団上級評議会。

政治兵士パートIIとIIIデレク•ホランド

第2部:政治兵士の必要性

国家が自由のために戦うために立ち上がると、
名誉のために言うが、群衆を本当に刺激するのは常に少数派である。
西洋の没落（オズヴァルト•シュペングラー）
地球全体を汚物、腐敗、そして反逆の海に沈めている悪の勢力との戦いの最前線に立っているのは、ヨーロッパの様々な民族主義運動です。英国で唯一組織化された勢力は国民戦線ですが、70年代にはこの党でさえ、祖国を救うために何が必要かについて、極めて根本的な誤りを犯しました。議論は常に、ここでデモを行うべきか、あそこで戦うべきか、この選挙で戦うべきか、それともあの選挙で戦うべきか、私たちの「イメージ」を向上させるために何かできることはないか、といったものでした。こうした議論は、タイタニック号で誰がどのデッキチェアを使えるかを議論するのと同じくらい役に立たないものでした。確かに私たちの名前は広く知られるようになりましたが、他の方法でも同じことはできたでしょう。私たちが費やした時間、資金、エネルギーのすべては、一人の移民の到来を阻止することはできず、一つの工場の閉鎖を阻止することもできず、祖国に対する肉体的かつ精神的な強姦を阻止することもできませんでした。

私たちの失敗は単純だが、決定的なものだった。私たちに必要なのは、政策や教義や活動ではなく——これらは政治全体の枠組みの中では重要ではあるが——ナショナリストとして日々を生き、私たちの状況に絶望する周囲の英国人にとって、道標となり、鼓舞するような、新しいタイプの人間なのだ。他の信用を失った政党は、これまでもずっと、国民に政策や教義を提供してきた。

世代を超えて、NFは存在してきたが、その効果はどれほどだったのだろうか？平均的な英国人にとって、NFが他の組織と異なるはずはなかった。成功するためには、問題の核心を突かなければならない。国民には、自らが説くことを実践する模範となる人物が必要だ。その模範を私たちは「政治戦士」と呼ぶ。
政治兵士とは何でしょうか?
ヨーロッパの歴史の最も輝かしい時代を見れば、その精神を体現したり表現したりするタイプの人々を容易に特定できる。

それは我が国が切実に必要としているものです。

古代ギリシャには、厳格な規律を重んじるスパルタ人がいました。彼らはテルモピュライの戦いでの英雄的な活躍によって歴史に名を残しました。

戦士王レオニダス率いる300人のスパルタ軍は、ダレイオス帝率いる10万のペルシア軍と激戦を繰り広げた。スパルタ軍は、圧倒的な戦果に怯むどころか、誇り高く軍歌「カストルの歌」を歌い上げ、血と炎の炉で滅びた。スパルタ軍は敗北したが、歴史に名を残すのは彼らである。

古代ローマでは、ローマの百人隊長が、その軍事的才能と永遠のローマ、すなわちローマの平和への献身によって、世界史上最も立派で秩序ある帝国の一つを築き、その結果、私たちに大切にしたい多くの遺産を残しました。

中世ヨーロッパには、キリスト教の十字軍がいました。禁欲主義と騎士道の理想への献身は、東西ヨーロッパを体現するほどで、今日でも「騎士道的行為」は高い賛辞とみなされています。一つの文化から生まれた超国家的な共同体であったこれらの騎士たちは、教皇ウルバヌス2世によって「戦争が勃発する所にはどこへでも駆けつけ、名誉と正義を守るために武力を振り絞る覚悟の者たち」と評されました。

今世紀において、おそらく最も顕著な政治兵の例は、コルネリウ•コドレアヌの天才によって創設され、形成されたルーマニア鉄衛兵、すなわち軍団運動であろう。

この運動が生み出した精神は非常に強力で、非常に広範であったため、わずか 15 年間の存続期間の間に国民全体に感染しました。

今日でも共産党当局はレジオネラを非難している。彼らはその精神的、啓発的な力に非常に恐れているからだ。その力は、東欧のマルクス主義の苦役が触れるものすべてを殺していくにつれて増大している。

しかし、ヨーロッパだけが政治兵士を独占しているわけではなく、あらゆる民族や文化が、それぞれの固有の状況に適した、この種の人材を生み出す可能性を秘めている。例えば、

イランのイスラム革命防衛隊は、ムッラーの教えを体現しています。彼らの勇気を評価し、尊敬するためには、彼らの目的の一部またはすべてに賛同する必要はありません。彼らは自らの大義への強い信念から、敵を攻撃するために地雷原を素手で駆け抜けるのです。

彼らの理想はあまりにも強大で、死が彼らの命取りになることを十分に承知の上で、敵陣にトラック爆弾を突っ込むだろう。
避けられない。それが正しいか間違っているかは問題ではないが、この力、死への軽蔑こそが勝利の源であることは明らかだ。この力がヤンキー戦争の原動力となったのだ。
レバノンから機械を追い出す - 米軍が雇用保障、賃金、年金を求めて戦っている間に、革命防衛隊の敵は理想、独立した、

イランのイラン。理想主義の力は計り知れないということを私たちは学ばなければなりません。

私が挙げたいくつかの例を見れば、ほとんどの読者にとって一つのことがすぐに明らかになるだろう。すなわち、彼らは皆戦士であり軍人であるということだ。しかし、それは全く
軍事という側面が最も重要な側面、あるいは最も重要な側面の一つであると信じるのは間違いだ。これらの人々全員が軍事力の行使を許す共通項は、
明らかな違いがあるにもかかわらず、同じカテゴリーに属する二人の共通点は、彼らの人生を完全に支配する精神的•宗教的理想に触発されていたという点です。彼らと理想の間には何も介在するものがありませんでした。
彼らは理想の勝利のためなら、どんな犠牲も厭わなかった。もし何らかの理由で彼らの大義が認められなかったら、彼らの人生は意味を失い、

彼らが立派な戦士だったのは、内に燃える炎があったからだ。その炎は、最後の息をひきとるまでは消えることはない。

敵はしばしばそれを所有しておらず、理解もしていなかったが、彼らはそれを恐れ、尊敬していた。私たちの文化が歴史にふさわしい未来を築くためには、この炎、この燃える精神を再び燃え上がらせなければならないのだ。
もしこれが私たちの能力を超えていることが判明すれば、私たちの物質的な成果、科学技術、知的偉大さはすべて、ほとんど役に立たないものとして明らかにされるだろう。
人生で大切なのは生きる意志です。もし私たちの中にこの意志がなければ、どんな科学者もどんな機械も私たちを救うことはできません。

政治兵士の任務は、人生の本質を明らかにすることによって生きる意志を促進することである。これは、今世紀の「人生」と誤って解釈されている唯物論的な悪夢とは対照的である。
そしてこの人生を生きることによって。そのためには、政治兵士は精神革命、すなわち自らの人生を導き、方向づけ、貫く内なる革命を経験する必要がある。これが達成されたとき、

本質的に、政治兵士は自らの行動を、それが大義の達成に繋がるかどうかで判断する。彼は「自分に何の得がある？」と問うのではなく、「私は何ができるだろうか？」と自問する。この種の人間にとって、人生そのものの意味を解き明かす鍵となる言葉がある。名誉、正義、自尊心、誠実さ、信仰、謙虚さ、慈悲、愛。

彼は自身の名誉や国家の名誉が攻撃されることを許さないだろう
あるいは価値のない者によって弱められたり、国民が搾取されているのを黙って見ているのではなく、
正義のために戦う。薬物や酒といった外的なものに依存して自尊心や価値を失うことはない。なぜなら、生命を支える内なる強さがあれば、

そうすれば、彼は無敵となるだろう。彼は、大小を問わず、あらゆる取引において誠実であろう。なぜなら、ナショナリスト•ミリタリーは模範を示して先導するからだ。彼は、

彼は自分の大義の正しさを貫き、国民と国家の福祉を増進するために自分の能力の限界まで努力する人物であるが、賞賛や尊敬を一切考えずにこれを実行するだろう。

彼は、自分の行動が高潔な生き方に触発された義務であることを自覚し、謙虚であり続けるだろう。私たちの美しい国と、

豊かな文化の破壊をも許さない神の慈悲は、国の弱者や困窮者をその圧倒的な力で包み込むほどである。神の愛は純粋で清らかで、生き返らせ、

関わるすべての人や物にインスピレーションを与えます。
政治兵士とは、永遠の理想に支えられ、いかなる状況においても正義、善、真実を守るために積極的に行動する人物である。ヨーロッパの歴史において、政治兵士の大隊がこれほど切実かつ不可欠に求められたことはかつてなかった。

私たちの敵は膨大です。銀行、共産主義者、フリーメイソン、シオニスト、資本主義者。彼らは金と権力を持ち、メディアを支配し、政府を掌握することで軍隊全体を操り、国民の血流に腐敗した思想を注入し、私たちを弱体化させ、無関心にし、言いなりにさせています。

では、これに対抗するには何が必要だろうか ?西ヨーロッパ各国に数千人の愛国者がいるだけだ。金も権力も影響力もメディアもない。我々はスパルタ人だ。

少数。彼らはペルシャ人であり、多数だ。この恐ろしい現実に直面し、我が同胞は勝算を見極めた後、事態の「必然性」を主張しながら、群れをなして戦場を去っていく。「勝てない」と彼らは言う。「事態は行き過ぎだ」と彼らは言う。「もしかしたら共産主義もそれほど悪くないかもしれない」と彼らは言う。19世紀のウェールズ民族主義者、エムリス•アプ•イワンが「避けられないものは賢者の高塔ではなく、臆病者の聖域に過ぎない」と述べたのは、実に正しかった。

政治兵士は理想主義者であると同時に現実主義者でもあるため、この厳しい現実を全く異なる視点から見るだろう。理想は我々の闘争の目標であり、現実主義はその目標をいかにして達成できるかを決定づける資質である。政治兵士は双方の武器を比較検討し、我々があらゆる点で劣勢であることを認めるだろう。しかし、一つだけ例外がある。それは我々の信仰、我々の理想である。我々はそれを生命よりも大切にし、脅迫したり、買収したり、拷問したりしても消滅させることはできない。この信仰は、我々の国民のほとんどにとって、かすかな記憶、燃えさしに過ぎない。政治兵士の任務は、この燃えさしを煽り、燃え上がらせ、その揺らめきがさらに強く、より激しくなり、我々の国民と我々の国を、我々の探求の中で燃え盛る業火へと変貌させるまで、燃え盛る火を燃やし続けることである。

国家の自由、社会正義、そして真に自由なヨーロッパ。政治戦士は、その存在そのものが人々の熱意、友情、そして献身を鼓舞するでしょう。彼は闇の境界を押し戻す光となるでしょう。人々は彼の助言を求め、彼の助言に耳を傾け、気を引き締め、最も硬い鋼鉄よりも強くなって戦いに戻るでしょう。

日々、ヨーロッパ諸国の傷ついた体から血が滲み出るのを目の当たりにする。皮肉屋か無関心な者だけが、深い同情と聖なる怒りに心を動かされずにこの光景を目にすることができる。かつてその知性と威厳、そして快活さで世界を魅了した美しい女性は、今や、血を吸う者によって蹴り飛ばされ、溝に横たわっている。

超大国の野蛮な大群。政治兵士の軍隊だけが、猛烈な打撃の奔流から彼女を守ろうとしている。その軍隊は小規模だが、任務は膨大だ。それでも彼らは戦い続ける。多数派の臆病さによって、私たちの遺産、文化、伝統、そして高貴な価値観が粉々に砕かれ、永遠に失われることを彼らは許さない。この軍隊は勝利のために戦うが、もし敗北が判決となるならば

運命の人ならば、最後の一人まで剣を手に戦うことになるだろう。
私たちの最も素晴らしい先祖にふさわしい敬意です。

そして、もし臆病な「可能なことの芸術」の説教者たちがあなたたちを「狂信的」と非難して攻撃するならば、ウェールズが当然誇りに思うべき息子、ジョン•ジェンキンスの言葉を思い出してください。

> 「狂信について3つのことを述べます。第一に、狂信者が
>
> 10人の男がいるなら、他の9人は気にしないので、それは必要なことだ。第二に、狂信者が行動の代償を計算に入れないというのは必ずしも真実ではない。私が狂信者になったのは、行動を起こさないことの結果を受け入れる覚悟がなかったからだ。最後に、ウェールズが生き残り、その文化と遺産が繁栄するためには、何よりもウェールズへの熱烈で揺るぎない献身によってのみ可能となるだろう。「他のすべて」
>
> 家族、将来、キャリア、健康、自由、そして人生そのものが含まれます。私は信じています、実際私は知っています。
> ウェールズはこのような熱狂を呼び起こすことができ、この熱狂こそが大多数の人々を動かすのに必要な重要な触媒なのです。」

ジェンキンス氏がウェールズについて述べていることは、他の英国諸国やヨーロッパの同族諸国にも同様に当てはまる。

パート 3:政治兵士の道。

「あなたは、あらゆる場所、あらゆる行動、外的な仕事において、内面的に自由で、自分自身を主人として、すべてのものがあなたの下にあり、あなたがそれらに支配されないことを、熱心に目標としなければなりません。」[3]

1965年、スイスのローザンヌでマルセル•デ•コルテは次のような観察がある。「私はよく、

[3] キリストに倣う（トマス•ア•ケンピス）

そのようなものは、善でも悪でもない。正直に言うと、この主張には困惑させられる。なぜなら、純粋に手段である手段は、同じように不活性で、使えず、存在しない、あるいはヒース•ロビンソンの奇妙なガジェットに似ているのではなく、一体どこに見つけられるのだろうかと自問するからだ。手段は、純粋に心の中でのみ、手段であるとみなされる。手段は常に目的との関係において考えられるのだ。

「目的は手段を正当化する」というのは近代において頻繁に主張される主張であり、あまりにも多くのナショナリストが無意識のうちにこの主張に賛同している。マルセル•デ•コルテの発言が明らかにしているように、手段と目的は一体であり、実践的な政治においては有機的に結びつき、相互に依存している。愛国者にとって、我々が目指す目的は、愛国者の目的とは全く相容れない。

体制が違うので、当然手段も違ってきます。

赤軍や大企業のドローンがテロ政権を樹立するために使用する方法は、コドレアヌが運動の基盤とした闘士とその大義の両方に多大な損害を与えることなく、民族主義者が正当に使用することはできない。

例えば、テロリズムの戦術を考えてみましょう。これは単なる政治的暴力や暗殺とは区別されなければなりません。

これはナショナリストの伝統とは全く相容れない。なぜなら、その理論的かつ実践的な目的は、一般市民を銃弾や爆弾で無差別に殺害することで、広く国民に恐怖を植え付けることだからだ。我々はこの方法を拒否する。なぜなら、人々の生活改善のためには彼らの支持が必要だが、それは彼らを根絶やしにすることでは到底達成できないからだ !また、この方法を用いる「ナショナリスト」集団が、

IRA、シュテルン•ギャングとイルグン•ギャング、ETA、ラテンアメリカの反動的な軍事独裁政権といったアプローチは、まさにその「民族主義的」資質に極めて疑問を抱く集団である。我々が自国の民族と文化を愛していると宣言するならば、恐怖と憎悪を煽るような手段が民族主義政治においてどのような役割を担うことができるだろうか ?我々が絶対的真理こそが我々の心の最も大切なものだと宣言するならば、我々が守り進めようとしている真理そのものを歪めることなく、嘘やごまかしを行動で示すことができるだろうか ?国民戦線が終結した後、状況は変わるなどと誰も言うべきではない。

革命だ。なぜなら、無力で失うものが何もないときに自分の信念を貫くことができない人間は、権力を握り、失うものがすべてあるときにも、その信念を貫くことはほとんどできないからだ。

練習を重ねれば完璧になると言われますが、これは私たちが国家主義的な生活を送る中で毎日心に留めておかなければならないことです。
私たちの反対者が歩んだ道は彼らをソ連とアメリカの奴隷国家へと導きました。私たちは民族革命国家を求めるため、異なる道を歩みます。

これは、私たちが行動において慎重になったり、機敏な精神に頼ったりすることができないという意味ではありません。実際はその逆です。
私たちの原則は、私たちの存在のあらゆる筋肉を活用することです
肉体的にも、精神的にも、霊的にも、大義を推し進めるために自らを限界まで追い込むと同時に、精神の純粋さを保ち続ける。状況の圧力に屈して、自らの信条や価値観を放棄するのはあまりにも容易である。安易な道を選ぼうとする敵の腐敗した思想に抵抗するには、強い精神力、不屈の精神、そして粘り強さが求められる。一度妥協すれば、裏切りへと続く危険な坂道を転がり落ちることになる。我々の道は決して容易ではない。それは困難で、禁欲的で、血と汗と涙の道である。これらが失われる日こそ、革命的ナショナリズムが裏切られる日である。

さて、手段と目的の関係を理解することは、単なる学問的な演習ではなく、政治コンサルタントの採用を決定するだけでなく、

兵士たちをいかにして国民革命戦士へと育成するかという問題である。これは、なぜ特定の方法が我々にとって決して受け入れられないのかを理解する条件となる。では、次の点を見てみよう。
徴兵。かつては戦士エリートは日常生活の一部であり、晴れた日や緑の牧草地と同じくらい自然なものでしたが、今日ではせいぜいロマンチックな思い出に過ぎません。したがって、私たちが直面しなければならない厳しい結論は、このパンフレットの読者である皆さんのような人々こそが、勝利を可能にする政治兵士となるために、道を切り開かなければならないということです。
この考えに、くすくす笑う人もいるだろう。恐怖に駆られて尻込みする人もいるだろう。自分には必要な資質がないと告白する人もいるだろう。残念ながら、神か、運命か、何と呼ぼうとも、私たちがこの困難な任務を引き受けなければならないと定めたのだ。私たちの祖先も同様の状況に直面した。私たちは、彼らの精神に励まされ、その力を得なければならない。彼らの精神の礎の上にこそ、ケルト十字の旗を掲げ、この国の怒りを招き寄せる愚かな者たちすべてに抗わなければならないのだ。

そしてもしあなたがその戦士になることを拒否するなら、国は誰のために

方向転換する人 ?ビールや接着剤袋に頭を突っ込んでいる人 ?SF映画やヘロインに「リアリティ」を求める人 ?大声で話す人
長髪で「神々の黄昏」を脅かしながら、資金の数ポンドや会議の数時間を惜しむような人 ?短い髪と脇毛、安いビール、ダイアナ妃の新しい帽子こそがナショナリズムの真髄だと思っている街の愚か者 ?「イングランドの緑豊かで心地よい牧草地」に心酔しているものの、隣人や友人から与えられる「世間体」が脅かされるなら「愛国心」を犠牲にしないような、偽りの愛国者、ブルジョワ階級の無頼漢 ?誰もこの戦いを望んでいないが、義務が呼びかけている。拒否する者は単なる臆病者だ。政治戦士は敵を尊重できるが、裏切り者や脱走兵を軽蔑することしかできない。そして、子供たちの生得権が奪われ、分割された時、

敵に対抗するために、彼らの目を見て、できる限りのことをしたと言えるでしょうか ?

必要な勇気と決意を持っているとして、どうすれば国民革命家になれるのでしょうか ? 政治兵士は二人とも全く同じというわけではありませんが、当然ながら、

共通点はたくさんあります。違いは、私たちがそれぞれ長所と短所の両方を持っているために存在するでしょう。
こうした違いは、必ずしも問題を引き起こすものではありません。むしろ、我々にとって有利に働くはずです。なぜなら、効果的な軍隊は、異なるタイプの兵士たちで構成されるからです。インディアンばかりで酋長がいないのは、インディアンばかりで酋長がいないのと同じくらい無意味です。皆さんの中には指導者として、また戦士として台頭する者もいるでしょう。しかし、全員が我々の国家使命にとって不可欠な存在となるでしょう。

政治兵士の誕生に至る成長の道、訓練プログラムは、私たちの背負う十字架です。この重荷を背負い、苦闘することで、私たちはゆっくりと、本当にゆっくりと、必要な資質を身につけていくのです。人生における最高の目標として肉体的な卓越性を目指す人々がいます。彼らは、この卓越性はガソリン1ガロンごとに無償で与えられるものではなく、努力と多くの苦痛を必要とするものであることを認めるでしょう。同様に、政治兵士になることは活動家の問題であり、机上の独裁者や自称運命の人の問題ではありません。

そうは言っても、発展の道筋は単純かつ論理的である

構造上、最初は小さな目標のみを達成しようとしますが、それが達成されれば自信が湧いてきます。
より野心的な目標に挑戦するためのスキルとスキルを身につけましょう。この段階で最も重要なのは、自分自身に正直であることです。そうできなければ、同僚にも正直でいられないからです。一人でじっくり考え、じっくりと考えた上で、自分の長所と短所をリストアップしましょう。過度な批判や自己満足といった極端な行動は避けましょう。これが終わったら、

伸ばして改善できる長所と、なくした方が良い短所を一つずつ見極めましょう。言葉で言うと驚くほど簡単なように聞こえますが、実際には非常に大きな戦いになります。うまくいっていると思っても、突然昔の習慣に戻って失敗してしまうこともあるでしょう。しかし、失敗しても諦めたり、落胆したりしないでください。

膝から立ち上がり、再び挑戦することこそが、自制心と、どんな困難にも負けずに成功する意志を養うのです。それは、チャールズ•アトラスがダンベルが肉体にもたらす効果と同じ効果を、霊的にもたらすプロセスです。悲しみを理解して初めて幸福を理解し、失敗の苦い味を味わって初めて成功の真価を理解することができます。些細なことで自分を克服できなければ、危機的状況において全く役に立たないことになります。これから先、事態が本当に厳しくなり、暴力的、組織的、徹底的な抑圧が敷かれたとき、あなたは闘争仲間を頼りにできることを知りたいと思うでしょうし、彼らもあなたを頼りにできることを知りたいと思うでしょう。他者への信頼がもたらす心の平安は、計り知れないほどです。

どこから始めればよいかについて、いくつかの実用的なアイデアを述べたいと思いますが、これらは正しい方向に沿って考えてもらうための一般的な例にすぎないことを覚えておいてください。

毎晩テレビを見ますか ?もしそうなら、時間を減らしましょう
あなたがそうするから
ドキュメンタリーを見るにしても、メロドラマを見るにしても、敵のプロパガンダに不必要にさらされることになります。時間をもっと建設的に、そして国民の闘争を支援する方法で使いましょう。
政治に関する本や雑誌を読んだり、田舎や公園を散歩して自然の恵みを楽しんだり、チラシ配りや新聞販売に少し力を入れたり、自宅で友人数名とディスカッショングループを開いたり、地域の活動に参加したりしてみましょう。

テナント協会や地球の友などの地域団体と協力し、地域の正義のために戦います。

夜出かけるときに4、5、6パイント、あるいはそれ以上のビールを飲んでいませんか ?2、3パイントに減らしましょう。そうすれば、より多くのビールを楽しめるだけでなく、大義のために使えるお金は減りますが、健康状態は格段に良くなります。それに、十字軍はビール腹で知られていたわけではありません!

タバコをたくさん吸いますか ?もしそうなら、減らすか、できれば完全にやめましょう。大企業の存続を危うくしているのは、自分の健康を害しているだけだ。迅速に行動しなければならない時が来るだろう。その時、喘鳴する恐竜のような姿を貫こうとする者は、その代償を払うことになるだろう!

NFの行事に参加するよりも、サッカーやパーティーに行くことを優先していませんか ?もしそうなら、優先順位を正しく理解しましょう。もちろん、誰もが闘いの息抜きは必要ですが、NFが会員の中途半端な姿勢で失敗すれば、それは国家の終焉を告げるだけでなく、あなたがとても重要だと思っていた雑事そのものの終焉をも告げることになるということを忘れないでください。

読書の習慣がないなら、習慣にして、常に自分をより高いレベルへと押し上げましょう。知識は力であり、知識が深まるほど、システムにとって脅威となるのです。

党のセミナーにぜひお越しください。そこでは、地域社会で民族主義的な考えを推進するのに役立つ地元のチラシの作成方法を指導します。また、ポスターやTシャツのシルクスクリーン印刷も教えます。講師が私たちの革命的な理想を分かりやすく説明し、説得を通じて人々を改心させる能力を向上させます。

これらをはじめとする多くのことを党は教えてくれますが、個人の創意工夫の余地は大いにあります。特にアイルランド、スコットランド、ウェールズ、コーンウォールの血を引く方は、新しい言語を学ぶことをお勧めします。運転、タイピング、人前でのスピーチの仕方を学ぶのも良いでしょう。夜間クラスに通って電子工学、機械工学、速記、ジャーナリズムを学ぶのも良いでしょう。あるいは、ウェイトリフティングや格闘技といった体を動かす趣味を始めるのも良いでしょう。自己啓発のためにできること、満足感を与え、大義の勝利に貢献できることは、山ほどあります。何を始めるにせよ、最後までやり遂げると決意してください。何もせずにただ座っているのは、議会の気難しい連中があなたに期待していることです。なぜなら、あなたは彼らの仕事をはるかに楽にしているからです。

必要な犠牲を払ってでも
政治兵士であるあなたは、特定の美徳を身につける必要があります。

忍耐 :政治兵士への移行には時間と真剣な努力が必要であり、1週間や数ヶ月で達成できるものではありません。完璧を目指すなら、一生を費やすことになるでしょう。

冷静さ:国家による弾圧が強まるにつれ、パニックに陥った素人ではなく、冷静沈着な人々が生き残るだろう。

自己規律:自分自身をコントロールできる人は、自分の状況もコントロールできるからです。
目には見えないが、仲間にも敵にも感じられる強さを持つ。

ユーモアのセンス :人生はバラ色ではないけれど、長く続く苦役でもない。
どちらも少しずつ。自分自身と状況を笑い飛ばす能力を身につければ、あなたは敵を悩ませる幽霊のような戦士へと変貌するでしょう。

笑いの力は、最近イタリアで行われた、平均年齢20歳の民族主義過激派30人の裁判で実証された。立証されれば死刑判決につながるような犯罪で裁判にかけられている。
神と人の前で無実のこれらの過激派は、多くのケースで終身刑に処せられたが、最高のナショナリストの伝統を擁護した。イタリアのメディアと司法は、これらの若者たちが裁判にかけられることを十分に予想していた。
被告席にいたのは、無表情で、真剣で、心配そうな表情だった。同志たちが裁判の進行を無視してトランプをしたり、笑ったり冗談を言い合ったりしているのを見て、どれほどがっかりしたことだろう。
気にも留めなかった。なぜ気にするだろうか ?裁判を待つ4年間、スーパーグラスに転向する者には早期釈放の申し出がある。
しかし、彼らは信仰を少しも譲りませんでした。裁判官は真剣に受け止めるよう要求し、大笑いで迎えられました。これこそ真の強さです。死さえも力を持たないことを宣言するのです。これは私たちを不屈のものにしてくれる強さです。敵はこれ以上何ができるでしょうか ?古代ケルト人はこれを刻みました。

強さをことわざに変える。「祖国のために戦い、必要とあらば死を受け入れよ。死は勝利であり、魂の解放であるからだ。」

我々は、ウィリアム•バードとトーマス•タラスのイングランドのために、コーンウォールの荒々しい美しさと湖水地方の静寂のために戦う。我々は、同志の地ウェールズのために、その魂のこもった文学と音楽だけでなく、オウェイン•グリンドゥールの英雄的精神のために戦う。我々は、スコットランドのために、そのハイランドと島々、そしてバラードと詩のために戦う。我々は、悲劇と喜劇、ユーモアと短気といった矛盾に満ちた地アイルランドのために、そしてG•K•チェスタトンが述べた「ダブリンとベルファストの嘘は、ウェストミンスターの自明の理よりも真実である」という純粋さのために戦う。

究極の選択を迫られた今、言うべきことはほとんど残っていません。国家の自由のために戦う革命戦士になるのか、それとも腐敗した体制の汚れたブーツにキスするために屈する臆病者になるのか?

臆病者は恥じて頭を垂れなさい。

戦士に、その報酬は

来る！

国家社会主義生物学的世界観ポウル

•H•リース=クヌーセン

「いかなる瞬間にも、正統派、つまり正しい考えを持つ人なら誰もが疑問なく受け入れると想定される一連の思想が存在する。あれこれ言うことは厳密には禁じられていないが、『してはいけない』ことなのだ。」
支配的な正統性に異議を唱える者は、驚くほど効果的に沈黙させられる。真に時代遅れの意見は、大衆紙でも高尚な雑誌でも、ほとんど公平に耳を傾けられることはない。—
ジョージ•オーウェル

国家社会主義者であるあなたは、非国家社会主義者と有意義な会話を続けることの難しさを常に経験しています。そのような対話は全く不可能であり、全く異なる二つの世界に生きていると感じてしまうことも少なくありません。もちろん、この嘆かわしい状況の原因の一部は、国家社会主義を人間の悪意の極致と捉える、敵が人々の心に植え付けたプロパガンダイメージにあります。しかし、若い世代にとって、70年以上前に起こったことはもはやそれほど重要ではありません。彼らは幼い頃から、1945年の「ヒューマニズムの勝利」以来世界を荒廃させてきた悪意と残酷さを、テレビを通して生々しく映し出されてきました。そして、若い世代の間には、人生とその様々な問題に対する、以前の世代よりも偏見の少ない態度を示す、非常に心強い傾向が見られます。

国家社会主義者であるあなたは、非国家社会主義者と有意義な会話を続けることの難しさを常に経験しています。そのような対話は全く不可能であり、全く異なる二つの世界に生きていると感じることがしばしばあります。もちろん、この嘆かわしい状況の原因の一部は、国家社会主義を人間の悪意の極みと捉えるプロパガンダイメージ、すなわち敵が人々の心に植え付けたイメージにあります。しかし、若い人々にとって、70年以上前に起こったことはもはやそれほど重要ではありません。彼らは幼少期から、1945年の「ヒューマニズムの勝利」以来世界を荒廃させてきた悪意と残酷さを、テレビを通して生々しく映し出され、見てきました。

若い世代には非常に心強い傾向がある
前の世代よりも、人生とそのさまざまな問題に対して偏見の少ない態度を持つこと。

しかし、これは若者が国家社会主義の本質を全く理解していない、あるいは説明されても理解を示していないことを意味するものではありません。彼らは、あらゆる自然的価値観や倫理規範から意図的に疎外され、すべては相対的であると教えられてきた世界で育ってきました。真実と嘘の境界線は存在せず、絶対的なものは存在せず、すべては自分の見方次第であると教えられてきたのです。この価値観のない世界では、人々は精神的に真空状態にあり、現実世界、容赦ない生物学的法則、そして絶対的な道徳的•社会的義務とは全く無縁です。そして、そのような政治的•哲学的世界において、国家社会主義の思想が理解しがたい異質な要素として感じられるのは避けられないのです。

あらゆる考えが、少なくとも原則的には、同じように受け入れられ、有効であるとする今日の気楽な相対主義とは対照的に、国家社会主義は絶対的な真実を見つけ、その真実を人類社会の基盤とするための不断の努力を表しています。
しかし、無意味な机上の空論哲学者や東洋神秘主義の漠然とした戯言とは異なり、国家社会主義は常識に基づいており、真実と嘘、善と悪の違いが希望的観測や理論的な空想ではなく事実によって決定される現実の世界にその論拠を求めている。

この観点から、国家社会主義はあらゆる支配的イデオロギーの概念と道徳規範を拒絶しなければならないことは明らかであり、当然のことながら、これは理解の隔たりを埋めることの困難な溝につながる。なぜなら、国家社会主義者と、現体制の思想によって思考が規定されている人々との間には、共通の基準が存在しないからである。国家社会主義とは、支配的世界秩序全体の哲学的基盤そのものに対する、絶対的、不可逆的、かつ妥協のない闘争を意味するに過ぎない。次ページ以降では、現体制と生物学的世界観の価値体系とのこの衝突がもたらす意味合いを説明していく。

前のページで既に明らかにされているように、国家社会主義の理念は、通常の意味での政治とはほとんど関係がありません。国家社会主義運動は、多かれ少なかれ物質主義的な性質を持つ集団の利益を代表するだけの、一般的な政治組織とは一線を画しています。彼らの目的は、議会の綱領に必要な票を集めるのに十分なほど漠然とした、中身のない政治綱領をまとめ上げることだけです。その綱領によって、「国民の選出された代表者」は、社会全体の犠牲を払って、自分たち、そしておそらくは党員が、可能な限り多くの利益を独占することができるのです。

国家社会主義は、それ以上のものです。それは世界観であり、人間存在のあらゆる側面を網羅する完全な人生哲学です。このような世界観の信奉者は、社会におけるあらゆる現象を一つの、そして同じ角度から捉え、あらゆる側面が統一された全体の一部となるように見ます。それは、あらゆる分野におけるあなたの意見が、人生のあらゆる側面とその神秘を理解し、説明することを可能にする、同じ統一原理によって規定されているのと同じです。このように、世界観は、その信奉者の宗教、倫理、政治、経済に対する態度、そして私生活のあり方の基礎となるのです。

もちろん、国家社会主義だけが、存在のあらゆる側面を網羅すると主張する人生哲学ではありません。例えば、あらゆる宗教が挙げられます。宗教は、原理的には、信仰するすべての人に、人生のあらゆる状況における行動と態度の指針を与えます。しかし今日、宗教は、急速に広がる宗教的教義と現実の溝を埋めようと必死になり、妥協を余儀なくされてきました。この500年間、この溝は旧世界のキリスト教諸国の着実な世俗化を招き、また、多くのイスラム諸国の西洋化された政府が、社会の厳格な宗教的構造を放棄し、資本主義的あるいは共産主義的な唯物論へと傾倒する原因となりました。

反対の方向に進み、政治と宗教の一体性を根本的に重視した社会の例としては、ホメイニのイランが挙げられます。今日では、イスラム世界とその周辺地域に、コーランの文字に基づいた中世社会の確立を目指して闘う原理主義グループが存在します。もう一つの例はイスラエルで、イスラエルは「神」という宗教的信念に基づいています。

ユダヤ人は「神に選ばれた民」であり、アラブ人から領有権を主張する領土に対する神聖な権利を有しています。そのため、特に最も正統派のグループは、タルムードの法からのわずかな逸脱も拒絶します。この法は古代遊牧社会の産物であり、現代の工業国家には適用不可能です。そのため、厳格な宗教的規則を回避するための、典型的なセム人による様々な解釈が生まれています。例えば、安息日やシュミッタ年などです。シュミッタ年では、すべての土地は休耕状態であるべきなのに、実際には休耕状態になっていません。

同様の手法はアラブ諸国にも見られ、貧困との「戦い」を強いられているため、ラマダンはしばしば恒久的に廃止されている。こうした「ごまかし」の試みは、西洋の技術が発達した現代世界において、こうした世界観が指針として全く不十分であることを如実に示している。

そして、彼らは信者たちがこの新しい人生を望むのを阻止するのに十分な強さを持っていなかった。それは彼らの文化の一部ではなく、寄生の成功の結果である。この失敗の理由は、これらの宗教が現実ではなく盲信に基づいているということに他ならない。

当然のことながら、敬虔なキリスト教徒は、聖書を究極の権威として、またすべての思考の中心として保存したいという同じ願いを持っています。
このように、カトリック教会は、ポーランド、アイルランド、イタリア、スペイン、ラテンアメリカといった伝統的カトリック諸国における社会の発展への影響力を高めようと絶えず努めている。そのためには、政治的権力を獲得する必要がある。しかし、その最大の弱点は、
この目標をどのように達成すべきか、キリスト教の教義のどの部分を重視すべきかについて、多くの内部対立が生じています。北米においても、キリスト教は衰退傾向にあるとはいえ、決して過小評価されるべきではない非常に重要な政治的影響力を有しています。また、ヨーロッパのほとんどの国には、いわゆるキリスト教的価値観を政治綱領の一部として強化しようとするキリスト教政党があります。しかし、これらの政党において宗教そのものが果たす役割はごくわずかです。それは単に、キリスト教が人々を（かつては)支配していた力を失ったからです。どういうわけか、北の人たちの間ではキリスト教は常に異質な概念と感じられ、彼らの解釈はしばしば非常に非キリスト教的でした。今日では、キリスト教は時代錯誤的な遺物と化しています。例えばデンマークでは、住民の約95%がルーテル派国教会の信者です。しかしながら、

教会に行く人はわずか2%で、その教義を信じていると主張する人はさらに少ない。人々にとっての精神的な力としてのキリスト教は死んでいる。

しかし、マルクス主義は人生哲学でもあり、人間生活のあらゆる側面を統制する世界観を表しています。一方、この地域における他のすべての政治思想は、主に些細な行政問題や経済問題に焦点を当てています。これらの思想は、人生全般や個人と社会の関係に対するある種の根本的な態度と緩く結びついていますが、人間の精神的欲求に関しては、原則として全く中立的です。いかなる宗教的所属も排除しません。むしろ、常に完全な宗教の自由を強調し、宗教と政治は互いに無関係であり、切り離すべきだと主張します。まるで宗教が政治に比べて取るに足らないものであるかのように。したがって、これらのリベラル政党や保守政党の党員は、キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒、無神論者、仏教徒である可能性があります。彼らの宗教的信条は、彼らの政治活動にとって全く無関係であると考えられています。彼らは国家機構におけるかなり明確に定義されたいくつかの実際的問題を解決するために団結していますが、彼らの精神的な目標は全く異なる可能性があります。上で述べたように、この断片化は宗教の本質とはまったく相容れないものですが、宗教コミュニティが社会に何らかの影響を与えたいのであれば、多かれ少なかれ不本意ながら受け入れなければなりません。

国家社会主義のような真の人生哲学には、人生を互いに無関係な別々の区画に原子論的に分割する余地は全くありません。国家社会主義は、その根本哲学の原則を適用することで、社会におけるあらゆる実際的な問題を解決することができ、その信奉者は精神的な欲求を満たすためにいかなる外部の要素も必要としません。国家社会主義自体が、人間が問うあらゆる問いに完全な答えを与えているのです。

宗教は信仰のみに基づいているというのはよく知られた事実である。
彼らが誇りを持って認めているもの !したがって、神の存在、無原罪懐胎、復活、再臨などは、すべて証明できないものなのです。もちろん、聖書の著者として神を認めない限りは。聖書もまた、たとえ反対の証拠があったとしても、ただ信じなければならないものです。証拠なしに信じないなら、あなたは疑わしいのです。弟子たちの中で最も聡明だったと思われるトマスが、聖書の中の男が…

彼の前で実際に磔刑にされた者がいた。こうした無知への誇りとは対照的に、マルクス主義と国家社会主義はどちらも科学的真実に基づいていると主張している。しかし、マルクス主義は、学識豊かな哲学書が山積みの机の向こうで、現実や科学とは一切触れ合うことなく発明された。よく見ると、マルクス主義は他の宗教と同様に信仰に基づいている。つまり、二足歩行で羽毛を持たないすべての生物は平等に創造されたという、全く非科学的な信念と、個体の発達を決定づけるのは遺伝子ではなく環境であると主張するのと同様に、生産条件が歴史を決定づけたという、同様に不合理な考えに基づいているのだ。もちろん、これは本末転倒である。実際には、人間が環境を形成し、生産条件を含む社会秩序を確立したのであり、その逆ではないことを理解するのに、それほどの知性は必要ない。

これらすべての哲学とは異なり、国家社会主義は決して発明されたものではない。それは、宇宙の誕生以来存在し、最初の原始的生物の誕生以来、あらゆる生命を支配してきた永遠の自然法則から導き出されたものである。これは、故サヴィトリ•デーヴィという著名な国家社会主義哲学者が、著書『稲妻と太陽』の中で美しく明確に表現している。[4]

> 「国家社会主義の思想は、その本質において、ドイツと現代だけでなく、アーリア人種と人類自身、そしてあらゆる時代をも超越している。それは究極的には、
>
> 自然は生き、創造する。原始の森、深海、そして宇宙の暗い野原の球体の非個人的な知恵。そして、アドルフ•ヒトラーの栄光は、単にその神の知恵に立ち返っただけでなく、それを世界規模の実践的な再生政策にしたことである。

言い換えれば、国家社会主義はアドルフ•ヒトラーによって発明されたものではない。それは、

[4] サヴィトリ•デヴィ『稲妻と太陽』 （ヴェヴェルスブルク文書館版）、168ページ

私たちの生活を支配しているのは自然です。それは、あらゆる多様性を持つ創造物への限りない愛、自然の叡智への深く無条件の敬意、そしてこの叡智から生まれた生命を守りたいという熱烈な意志に基づいています。それを実現する唯一の方法は、これらの基本法則に従って人間社会を組織することです。したがって、国家社会主義に反対することは、重力の法則や地球が丸いという事実に反対することと同じくらい不合理で非論理的です。国家社会主義とは、今日の技術に適用されているのと同じように、物理的および生物学的法則を人間生活の政治、経済、社会、そして宗教の領域に適用すること以外にありません。この観点から見ると、国家社会主義は真に科学的であり、他のいかなる世界観とも異なります。国家社会主義は現実を既成の理論に当てはめようとするのではなく、理論を現実に当てはめようとします。したがって、画期的な科学的成果は、国家社会主義共同体の実際の生活に即座に反映されるでしょう。

もちろん、これらの法則のいくつかがもう少し違っていたらよかったのにと思うこともあるでしょう。しかし、それらを変えることは不可能だということを、私たちは必然的に受け入れなければなりません。自然法則は、国連総会、米国議会、あるいは他のいかなる国の議会における投票によっても廃止したり改正したりすることはできません。すべての人間、すべての人種が平等に創造され、個人の発展の可能性を規定し制限するような遺伝的要因がなかったら、おそらくすべてはもっと容易だったでしょう。しかし、現実はそうではなく、希望的観測、つまりこれらの法則が存在しないかのように行動することで、この事実を変えることは絶対に不可能です。そのような夢に基づいて社会を築くことは、破滅的な結果をもたらすだけの大罪です。

これらの結果は、東西の敵によって築かれた社会を見れば、あまりにも明白に明らかです。彼らは口を揃えて国家社会主義を「悪の福音」と呼んでいます。一方で、彼ら自身は経済的、道徳的破滅の瀬戸際にある世界を支配しています。インフレ、失業、犯罪、無分別な暴力、麻薬乱用、汚染、ポルノ、腐敗、飢餓、そして環境破壊に苦しむ世界です。1945年以降、わずか16日間しか平和を経験できず、同じ期間に数え切れないほどの人々が虐殺された世界です。そして、この陰鬱な世界に

地球上のすべての高等生命体を滅ぼす核戦争の恐ろしい脅威が漂っています。

人間が明日の自分に何が待ち受けているのか､常に不安に怯えているのも無理はありません｡残念ながら､この恐怖と絶望は､堕落と道徳の退廃が最も進んでいるアーリア人社会で最も蔓延しています｡人々はあらゆる健全で自然な価値観から完全に疎外され､無知なゾンビと化しています｡彼らは物質的な豊かさによって不安を紛らわせ､経済の混乱との絶え間ない競争に身を投じています｡現代社会のあらゆる物質的な豊かさにもかかわらず､彼らは幸福でも満足でもありません｡彼らは理想と情熱を全く欠き､未来への希望を全く失っています｡アーリア人は､子供をこの世に生み出すことを全く望んでいません｡未来が見えないため､自らの民族と文化の保存よりも､目先の贅沢を優先します｡この汚水溜めの中で､できるだけ快適な生活を確保しようと努め､唯一の希望は､避けられない大惨事が生きている間に起こらないことです｡こうして彼は､祖先の土地がゆっくりと､しかし着実に異星人によって占領されていくのをただ傍観している｡異星人は白人の終焉が､私たちが知っているすべての文明の終焉を意味することをまだ理解していない｡

これは､1945年に敵が世界に約束した黄金時代であり､彼らが絶対的な権力を握った70年間で築き上げてきたものなのです｡このような状況下では､将来の見通しは確かに暗いものです｡しかし､必ずしもそうである必要はありません｡世界がこれほどまでに不吉な状況にあるのは､ひとえに人間が自然の法則を完全に無視した結果なのです｡

国家社会主義者として､現在の秩序の本質を一度理解すると､自分がまるで別の惑星から来た人間のように感じざるを得なくなります｡この体制に加担することはできず､この社会の枠組みの中で生き延びるための日々の闘いは､時間の無駄に思えるに違いありません｡国家社会主義者として､私たちは「自然が生き､創造する揺るぎない叡智」に基づく､全く新しい世界秩序を構想しています｡このような新しい世界秩序の中でのみ､生命はこの惑星で長期的に生き残ることができるのです｡しかし､この新しい秩序を確立するためには､人間は次のことを受け入れなければなりません｡

人間は自然よりも高位に位置づけられているわけではない。人間は創造の主人ではなく、自然全体と一体化した一部であり、他のすべての生物と全く同じ法則に従う。同様に、人間は科学的に証明された事実、すなわち人種が外見だけでなく精神的•知的特性においても異なるという事実を受け入れなければならない。そして最後に、すべての人間は不平等な存在として創造され、その人生は自然環境ではなく、主に遺伝的要因によって決定されるという事実も受け入れなければならない。

もちろん、これは「不公平」に思えるかもしれないが、人間が認識しなければならないことの一つは、自然界には私たちが通常この言葉に当てはめる意味での正義という概念は存在しないということだ。人間は、法と社会正義に基づく社会を構築することができるし、また構築すべきである。なぜなら、社会のすべての構成員は有用な役割を担っており、したがって法の下での平等な保護と経済的搾取からの安全を主張できるからだ。これは、組織化された社会において必要かつ自然な安全保障の一部であり、実際、人間が安定した社会構造の構築に取り組んだ理由の一つは、まさにこの安全保障を求めたからである。

しかし、生物学的な平等を創造できないのと同じように、生物学的な正義も創造できません。人間の視点から見れば、ある人々が若くして恐ろしく、苦痛に満ちた不治の病に襲われる一方で、他の人々が100歳まで健康を享受できるというのは、常に極めて不公平に映るでしょう。

また、たとえ25歳で亡くなる人が、老齢に達した人よりもはるかに優れた知性を持ち、人類に多くのものを与えることができたとしても、それは変わりません。私たちがどう感じようとも、これが現実なのです ― あらゆる医学的技術をもってしても ― そして人間は、自然が私たちの正義の概念を認めないことを受け入れることを学ばなければなりません。そして、来世に神の正義のようなものを持ち込もうとする試みは、現実逃避の不条理な試みとして拒絶されなければなりません。

この点に関して、ナチズムの敵対者たちはしばしば、ナチズムの根底にある人間の生物学的概念が「非倫理的」であると主張する。これに対して我々は、これらの敵対者たちのいわゆる「倫理」こそが不道徳であるとしか言いようがない。なぜなら、それらは自然に基づいていない規範や価値観に基づいているからだ。ナチズムにとって真実はただ一つである。

自然の法則であり、この真実に完全に従わないものはすべて 100% 間違っています。

これはもちろん、キリスト教の完全な拒絶を意味します。キリスト教の不自然な二元論こそが、支配的な「道徳」規範の根底にあり、この規範がリベラル／ヒューマニズムやマルクス主義というレッテルの下に隠されているからです。キリスト教によれば、人間は神の魂を持つことにより、すべての生き物の中で非常に特別な地位を享受しています。この魂は普遍的かつ非生物学的です。人種や個人によって差はなく、個人の知性やその他の精神的•肉体的資質に左右されることもなく、遺伝的でもなければ、自然によって何らかの影響を受けることもありません。この魂こそが、神を信じる限り、何をしていようと、どのような人間であろうと、神の目にすべての人を平等にするのです。キリスト教徒にとって、人間を生物学的要因の産物として語ることは「軽蔑」にあたります。キリスト教によれば、人間の生涯は神聖な魂（精神)と「物質」、すなわち自然、あるいは個人的なレベルでは肉体との絶え間ない闘争である。肉体は悪を象徴し、雲の上の（あるいはハルマゲドン後の地上の)漠然とした楽園で永遠の命を得るためには、肉体を打ち負かさなければならない。地上での人生は、来世への準備に過ぎない。アブラハムの懐で過ごすか地獄で過ごすかは、人間が自らの生物学的本性にどれほど打ち勝ったかにかかっている。地上での人生自体には何の価値もなく、ただ涙の谷に過ぎない。

このように、キリスト教は生命と自然に対する明確な軽蔑を特徴としています。キリスト教は、人生の課題に対処できず、「最後の者が最初になり、最初の者が最後になる」と信じて、ただ惰性で生きていく敗者や夢想家のための宗教です。キリスト教は、犯罪者で役立たずで精神的に欠陥のある愚か者を、勤勉で創造的な市民よりも価値のある人間と見なします。キリスト教は、処女を母親より、修道士を家族の父親より、弱者や苦しむ者を強く勝利した者より、そして死者を生者より優先する規範と価値観を表しています。キリスト教は人生のあらゆる喜びを軽蔑し、自虐と自虐を、人間が肉と戦い、完全に霊的ではないため罪の器として生まれたことを受け入れる肯定的な兆候として称賛します。

どのような角度から見ても、キリスト教は
人生に対する倒錯した厭世的な態度を表しており、

健全な社会において、いかなる状況下でも容認されるべきではない。率直に言って、キリスト教は一種の精神的なエイズであり、非生物学的思考に対する私たちの自然免疫を破壊した。これは精神を汚染する病であり、全力で闘わなければならない。

手段。

キリスト教徒とは異なり、国家社会主義者は生きるべきだ。彼は、生物学的性質の限界内で、肉体的にも精神的にも、可能な限り能力を伸ばし、人格を開花させるべきだ。彼はそうではない。

中東の神の前でひざまずき、自然の中に生まれたという「罪」に対する慈悲と赦しを乞いながら、一生を過ごすはずだった。私たちは、自分自身と人生の使命に自信を持ち、誇り高く調和のとれた人々を見たいのだ。

国家社会主義者は無神論者ではない。我々は神を信じているが、我々の神はユダヤ教-キリスト教のヤハウェとは全く対照的である。国家社会主義にとって真の神は一つ、すなわち自然のあらゆるところに表れている計り知れない創造力である。我々は自然の法則の知恵に崇拝と敬意を示すことでこの神に敬意を表する。国家社会主義者として我々は自然の声以外の声には従わず、自然の倫理以外の倫理にも従わない。そして我々が知る大罪はただ一つ、この倫理に反抗しようとすることだけだ。これは一部の人が主張するような神秘主義ではなく、汎神論、すなわち神は自然を通してのみ表現されるという考えです。汎神論の起源ははるか昔に遡り、 19世紀のドイツ観念論とロマン主義の基盤の一つとなりました。汎神論とは、私たちの存在は、単なる化学的な構成要素の総和ではない生命原理に負っているという認識です。したがって、国家社会主義は、人生を最大限の消費と自己満足を求める物質主義的な争奪戦以上のものと捉えています。人生には、私たちが属する神聖な原理を守る義務が伴うのです。これを宗教と呼ぶ人もいるかもしれませんが、迷信に基づく物語を成立させる必要はありません。そして、これは確かに「信仰」ではありません。汎神論は信念ではなく、事実に基づいています。

人間は自然の一部ではあるものの、ナチス•ドイツは、人間が他のすべての生物とある特定の点において異なることを当然のことながら十分に認識している。それは、抽象的な思考を可能にする独自の脳である。この能力により、人間は他の生物が受けなければならない自然の残酷さの一部を回避あるいは軽減することが可能になった。私たちの脳は、そうでなければ死に至る病気を治癒し、多くの自然法則の根底にある原理を発見することを可能にした。その結果、私たちはこれらの原理の一部を自らの利益のために利用し、良くも悪くも、地球を探索しその豊かさを活用するために必要な技術を開発することができた。

残念ながら、私たちの脳は、自然の法則に従うよりも無視する方が楽だと感じる場合、意識的にそれを無視することも可能にしてしまっています。原始的な社会では、そのような違反の代償をすぐに感じるでしょう。しかし、高度に発達した技術社会では、自然の法則に違反しても、避けられない報復を感じることなく、かなり長い間生き延びることができます。しかし、遅かれ早かれ、報復は容赦ない力で襲い掛かり、そうなれば、間違いを正すことは不可能ではないにせよ、少なくとも極めて困難になるでしょう。

最後に、私たちの独特な脳は、他の動物にはほとんど見られない感情も私たちに与えています。それは、未知への恐怖、死の確実性、そしてそれゆえに、人間に精神的な安心感を与え、物質的な豊かさを求める闘いを超えた人生の意味を見出させてくれる何かへの切実な欲求です。これは宗教の背後にある欲求ですが、ナチズムは宗教とは異なり、これらの欲求を地上で満たすことに注力しています。この点に関して注目すべきは、脳も感情も孤立した非生物学的な要素ではなく、生体の不可分な一部であり、人間の身体的特徴と同様に、「精神」もまた遺伝に関する自然法則の影響を受けるということです。ナチズム主義者として、私たちは社会全体が自然法則のあらゆる側面を考慮して組織されなければならないという確固たる信念を持っています。したがって、健全な経済生活を確立することによって人々の物質的欲求を満たすだけでは不十分です。精神的欲求も満たされるように配慮する必要があるのです。

人類の敵はしばしば、国家社会主義の精神世界は強制と操作の領域であり、個人の自由と個性を奪い、無知な大衆の一部に押し込めるだけだと主張する。もちろん、これは真実とは程遠い。

実際、これは民主主義の描写に非常に近い。民主主義者は国民を巨大な灰色の塊とみなし、個々の個人間の違いは、社会が人々を民主主義的な方法で「社会化」するために「修正」しなければならない偶発的な環境の影響の結果であると説明する。一方、国家社会主義は個人を尊重する。私たちは、すべての人間が生物学的にユニークであり、それぞれ異なる才能と能力を持っていることを認識している。これらの個々の才能を社会の枠組みの中で統合することが、国家社会主義国家の最も重要な課題の一つである。

このようにして初めて、国民の持つ精神的資源の総量を、個人と社会の両方の利益のために活用することが可能になるのです。

しかし、天才と進歩は決して大衆から生まれるものではなく、常に傑出した個人から生まれるものであることも我々は知っています。組織化された社会において、個人が可能な限り自由に自己発見と発展の機会を保障することによってのみ、人類はより高次の完成へと向かって前進することができるのです。民主主義の70年間を経て世界が直面する膨大な問題を解決したいのであれば、これは不可欠です。人々を生来の発展の可能性を超えるレベルに引き上げることは明らかに不可能であるため、あらゆる点ですべての人々を平等にしようとする愚かな試みは、必然的に最低レベルの統一、すなわち知性やその他の面で平均を超えるすべての個人の抑圧につながります。このような傾向は国家社会主義ではなく民主主義の産物であり、地球上の生活条件の改善にはつながらないでしょう。

しかし、エリート層を育成しようとするあらゆる試みは、当然のことながら、民主主義体制の根幹を脅かすものと見なされる。民主主義体制では、必要な資質の有無に関わらず、誰もが平等な法的権利を持つだけでなく、公共政策にも平等な影響力を持つべきだと考えられている。このような体制は、国を奈落の底へと導くだけだ。国家社会主義国家では、指導部は国内の精鋭によって構成される。彼らだけが、

発生する問題を解決し、責任を負えるようになるでしょう。民主的な議会では、個々の議員が自らの行動に責任を負うことはできません。なぜなら、すべての決定は投票によって行われ、全員が賛成か否かに関わらず多数決に従わなければならないからです。明らかに、このようなフォーラムは社会の最も堕落した者たちに十分な余地を与えています。

巨大企業が社内の指導的地位に就く最適な人材を探し出し、教育するために莫大な時間と費用を費やしている一方で、政治のペテン師では全く教育を受けていない人物が自国の首相や大統領になれるというのは皮肉なことです。必要なのは適切なコネを持ち、あまり知性を誇示しすぎないことです。そうしないと、様々な利益団体の支援なしには選挙に勝てないような団体に簡単に操られることはないと思わせる可能性があります。民主主義の政治家にとって最も重要な資質は、有権者に恥知らずに嘘をつき、決して守るつもりのない約束をする能力です。これは実に情けないことです！

　人間同士の個性や生物学的差異の否定は、「遺伝的衛生」という概念の完全な抑圧にもつながりました。今日、衛生とは手を洗うことや歯を磨くことだけを指すようになりました。

しかし、人間は「遺伝衛生」の原理を確かに知っている。馬、牛、犬、鳩、インコなどの繁殖には膨大な時間と労力を費やし、すべて最良の遺伝原理に従っている。しかし、自らの同族の繁殖となると、これらの原理を完全に放棄する。まるでそれが動物界にのみ有効であるかのように。こうして、人間は自ら進んで、人間の生物学的退化に加担しているのだ。

　自然の状態では、あらゆる集団は生物学的淘汰の対象となります。つまり、与えられた状況に最も適応した個体が社会の頂点に上り詰め、現状の生活に適応できない個体は滅びるということです。これは、人間が社会を築くことで緩和してきた、鉄のように容赦のない自然の法則の一つです。人間は、人口のより弱い層にも居場所と保護を与え、彼らも発展した社会において重要な役割を果たすことができるようにしてきました。しかし、もし私たちが

この自然の法則の存在に完全に目を閉じれば、私たちもまた破滅に向かうことになるでしょう。なぜなら、そうなると、弱者を守るのにも十分強いシステムを維持するために必要な生物学的資質を人口の中に確保することができなくなるからです。

生命の生物学的現実を無視すれば、最終的には最も弱い個体が最初に死ぬ無差別状態に陥ることになるだろう。

したがって、国家社会主義は、しばしば主張されるように、弱者を見捨て、運命に任せることを意味するものではありません。むしろその逆です！
国家社会主義は、弱者が確実な破滅から逃れられる唯一の保証である。しかし、ここで強調しなければならないのは、
弱さは理想ではなく、闘わなければならないものであり、それは結果としての遺伝的衛生を通してのみ可能となる。国家社会主義国家は、人々に生物学的メカニズムについて啓蒙し、人間がこの分野における自然な本能を取り戻し、生物学的に進歩できるようにすることを保証する。人間は既に発達の最高峰に達したと信じるのは愚か者だけだ。しかし、人間がさらに進歩するためには、社会は病気や弱さが遺伝によって制御不能に蓄積され、永続化されることがないようにしなければならない。故意に子供たちに苦しみを伝え、人口を遺伝的に衰弱させる自由は、未来の世代に対する犯罪である！

同時に、社会は健全な環境を確保し、外的要因によって引き起こされる疾病が永久に消滅するようにしなければなりません。ここで私たちが考えるのは、社会環境や職場環境だけでなく、生態学的環境も含みます。国家社会主義社会において、利益追求と貪欲な物質主義によって、食品や衣類に病原性の人工添加物が混入したり、家庭や公共施設に不健康な合成素材が使われたり、土壌、空気、水質の汚染が進んだりすることは、決して容認できるものではありません。

数十万年も続く致死的な放射能汚染は言うまでもありません。これらすべては、この末期的な病に冒された社会において見られる、生命の真の価値の完全な歪曲の必然的な帰結です。遺伝的衛生と一般的な汚染制御は、同じ目的、すなわち人間の精神的•肉体的健康を継続的に確保するための自然保護と生態系のバランスという、二つの側面に過ぎません。健全な環境がなければ、

最も優れた遺伝子は破壊され、十分な量の遺伝子がなければ、健全な環境を作り出すことができる人は誰もいなくなってしまいます。

生命が育まれる健全な環境を創り出すには、子供たちが調和の中で幸せに育つことができる健全な家庭も必要です。現代社会のもう一つの弊害は、こうした家庭が、常軌を逸した常套的な思考と女性解放論者の愚行によって破壊されつつあることです。人種が異なるように、性別も異なります。男女が生物学的に平等であるという考えは、人類の生存にとって深刻な脅威です。男女間の差異は、社会が作り上げた「性役割」ではなく、生物学的役割の結果なのです !女性が子供を産むのは偶然ではありません。女性は生物学的にだけでなく、精神的にもこの役割に適しており、新世代の母として、社会において最も重要な役割を担っています。女性が労働力に加わり、組立ラインの仕事に就くことで「自己実現」を図り、子供は他人に任せなければならないという考えは、犯罪です！

女性は母親という生物学的役割の中でのみ自己実現できる。母親がいなければ、家庭は崩壊する。子供たちは自分たちだけで、あるいは公教育に頼らざるを得ない。家に帰っても、誰も子供たちに時間を割いてくれない。彼女たちはいかなる理想も教えられず、テレビや質の悪い音楽、そしてさらにひどい文学から偶像を得る。彼女たちはファストフードで暮らし、最悪の商業的物質主義の犠牲者となる。つまり、女性が子供を一切持たないことを選ばない限り、つまり何らかの「避妊」器具を使うか、妊娠したら子供を殺すか、どちらかの方法で子供を産まないという選択をしない限り、である。もちろん、フェミニストたちは、男性が子供の世話をし、女性が仕事に行くのも同じくらい自然なことだと主張する。実際、もしそれが同じくらい自然なことだったなら、男性も子供を産んでいただろう。

むしろ、女性の生物学的特性は、女性が男性に比べて不安定であるため、常に労働市場において弱い立場に置かれることを意味する。一定の体力を必要とする仕事は言うまでもない。ユダヤ系フランス人フェミニストのエリザベート•バダンテルが著書『L'un est l'autre（一方は他方である）』(O. Jacob (!) 社、パリ、1986年出版、そして当然のことながらほぼすべての西ヨーロッパ言語に翻訳されている) の中で、子宮と卵巣を女性に移植することを主張しているのも不思議ではない。

男性に平等を保障させるなんて !こんな本が読まれる社会は、まさに末期症状だ!

人間は単なる孤立した個人ではなく、社会的な存在であり、その社会本能は核家族にとどまりません。人類は太古の昔から、原始的な生活に伴う危険に抵抗するために集団で生活してきました。そうでなければ、人類が種として生き残ることはほとんど不可能だったでしょう。言い換えれば、組織化された社会での生活は人間の生存条件であり、組織化への衝動は人間の本性の一部です。組織化された社会がなければ、すべての個人は日々の生活必需品を集めるだけで精一杯だったでしょう。芸術、科学、教育、そしてあらゆる医療サービスのための余剰はなかったでしょう。高度な組織化は、文化と技術の発展の前提条件に他なりません。したがって、最高の文化が常に最も優れた組織能力を持つ人々によって創造されてきたことは、決して偶然ではありません。ちなみに、これらのほとんどはアーリア人でした。

しかし、どのような組織化された社会においても、個人がそのコミュニティの他のメンバーと共有する規範に適応し、その才能の発達を可能にしたコミュニティ自体に害を及ぼすような方法で自分の知性や才能を誤用しないことが絶対に必要です。

しかし、集団内で必要な忠誠心は、物質的な考慮のみに基づくものではありません。共通の福祉事務所を持つだけでは不十分です。共通の運命を持ち、共通の背景、共通の規範、価値観、そして共通の人生目的を持つ人々で構成される共同体においては、個人の自由の一部を放棄することが理にかなっているのです。

先祖が何世代にもわたって同じ領土を勝ち取り、守ってきた人々。彼らは、自分たちの固有の言語的、文化的、生物学的特徴を保存したいと望んでいたからです。

この願いこそが、私たちの文化を、私たちの人々の才能、概念、理想、価値観、つまり私たちの魂と呼べるものと密接に結び付けて生み出してきたのです。他の民族は異なる才能、概念、理想、価値観を持ち、それゆえに異なる文化を生み出してきました。それらは私たちの文化と同じくらい「良い」ものかもしれませんが、私たちにとっては異質であり、私たちの文化が他の民族にとって異質であるのと同じです。

人類共通の普遍的な「世界文化」が到来するなどと語るのはナンセンスである。人々の魂の鏡として自然に現れたのではない「文化」は、「文化」という言葉の意味そのものを否定するものであり、歴史が如実に示しているように、もはや自らの文化を守り発展させることができず、偶然出会ったあらゆる外国の文化的要素を輸入し統合してきた文明は、必然的に崩壊の瀬戸際に立たされている。

人種、宗教、哲学が無秩序に混在する社会は、今日よく言われるように、精神的•文化的豊かさの表れなどではない。それはいかなる根拠によっても存在を正当化できない、不条理な寄せ集めである。

これは、国家の崩壊とあらゆる規範や価値観の完全な崩壊が差し迫っていることを示す確かな兆候です。このような社会は真の共同体の退廃的なパロディであり、永続することはできません。なぜなら、一時的に同じ土地に住む様々な集団間の社会的忠誠心は、国家そのものやその歴史に根拠を持たない宗教的•哲学的思想への、はるかに強い——精神的な——忠誠心に取って代わられるからです。

社会の一体性に対する最も深刻な脅威は、比類なき生物学的人種混合です。これは常に文化の混合と密接に関連し、あるいは文化の混合の前提条件となってきました。文化の崩壊自体はいつでも止めることができ、人々は自らの文化的規範と価値観へと回帰することができます。ただし、人種の血統が損なわれていない限りは。しかし、人種の混合は取り返しがつかず、その結果は計り知れず、悲惨です。自然は常に人種の多様性を高める方向に発展し、人種は最終的に種へと変化してきたのは事実です。不自然な人種混合によって、私たちは今、人種によって決定される様々な自然の才能の均質化を目の当たりにしています。ある人種が特定の方向に発展し、自らが培った資質に基づいて共同体を築き、文化を創造したのに対し、他の人種との混合は、数世代後には、その雑種子孫が祖先が創造したものを理解するためのあらゆる条件を失ってしまうことを意味します。

残念ながら、勉強する機会はあまりにも多くあります
人種の混合の結果として私たちが持つ社会の種類。

ラテンアメリカ、インド、エジプトはいずれも優れた例であり、ギリシャとローマ帝国も同様です。インド、ペルシャ、エジプトの文化と同様に、ギリシャ•ローマ文明も、主に北欧民族からなる移住した少数民族によって創造され、維持されました。この高度に発達した少数民族は、当初は元々の多数派とその文化を抑圧しましたが、後には被征服民族の数的優位に徐々に屈服していきました。数え切れないほどの戦争で貴重な血を流し、アジアの偽りの人道主義思想に翻弄された彼らは、徐々に被征服民族に市民権を与え、アフリカやアジアの植民地から新たな奴隷や労働者を連れてきて、彼らは次の世代に統合され、市民権を獲得しました。これは確かによく知られた光景ではないでしょうか。そして、この北欧民族の崩壊こそが、誇り高きギリシャ国家を現在のギリシャ、ローマをイタリアへと変貌させたのです。言い換えれば、文明を混沌へと変えたのです。学校では今でも子供たちに古代文化について少なくともいくらかの時間を割いて教えていますが、それらの文化を創り出した人々については一言も触れられていません。国家を組織する能力がこれほどまでに完全に失われてしまうことに、誰も驚かないようです。真実は、今日「ローマ人」を装っている人々のほとんどは、人種的に偉大な先人たちとほとんど共通点がないということです。彼らの祖先の多くは、地中海の南に住んでいたのです！

今日、人種生物学について語ろうとすると、すぐに多くのタブーに直面する。人種生物学の研究は、いわば「いけないこと」と化している。つまり、人種について研究したいのであれば、医師やいわゆる人類学者でさえ、この問題について何も知らないはずだ。そのような知識を求めることさえ、キャリアに悪影響を与えるのだから、なぜ気にする必要があるのだろうか？

こうして、常に軽蔑的な冷笑とともに、「純粋な」白人種など存在しないとか、「アーリア人」は純粋に言語学的な用語であるなどと主張され、人種科学がナンセンスであることを証明しようとしている。もちろん、これらの議論は完全に間違っているわけではないが、結論は間違っている !ヨーロッパの様々な人種の混血は確かに存在したが、これはいわゆる白人種と呼ばれる同じ主要人種内の近縁人種の混血であり、あなたが何について話しているのか定義する限り、あなたはそれをアーリア人種と呼ぶこともできるだろう !さらに、

この混血は決して完全とは言えず、それがヨーロッパ人にとって絶対的に有利であったと主張する根拠は全くない！おそらくその逆であり、さらなる混血によって分裂のプロセスを続ける正当な理由は全くない。

無知な人たちは、「近親交配」を避けるために人種の混合が必要だと主張する。もちろん、これは生物学的に全く根拠のないナンセンスだ。
近親交配とは、生物学的観点から必然的に互いに類似する近縁個体間の交配のみを指します。近親交配によって、様々な遺伝的要因（良いものも悪いものも）が蓄積されます。父親と母親の両方が同じ遺伝子を持っている場合、子孫にこれらの遺伝子が蓄積される可能性、あるいはリスクが高くなります。そして、私たちはほぼ皆、不幸な遺伝子を持っているので、これらの遺伝子が蓄積されないことが望ましいのは明らかです。ここでは、良い遺伝子も蓄積されるかどうかは重要ではありません。精神異常を発症する傾向が高いからといって、他の良い性質によって良くなるわけではありません。

しかし、近親交配が危険となるのは、非常に小さな島やいわゆる「王族」や「貴族」といったごく小さな集団においてのみであり、数百万の個体からなる集団では、通常の状況では全く存在しません。

いずれにせよ、人種的に異質な遺伝的要素を加えることは、近親交配を避ける良い方法ではありません。両親があまりにも異なるため、不調和な個体を生み出すだけです。これに対して、無知な人は、動物界、そして植物界では、異なる人種を交配させると非常に良い結果が得られるようだ、と反論するでしょう。もちろん、これは非常に真実ですが、ここでは科学者が事前にどのような具体的な特性を交配させたいかを定義した、厳密に管理された交配について話しています。

したがって、交配の目的を念頭に置いて親を選び、交配させたい特性のうち最も優れたものを持つ個体を選びます。子孫が生まれたら、再び、望む特性を最も多く備えている個体を選びます。

彼らは更なる繁殖に利用されます。残りは避けられない廃棄物として、ただ屠殺されます。これらの個体との繁殖を続けると、望まれる結果とは逆の結果をもたらすでしょう。決して安易な繁殖は許されません。例えば犬の場合のように、誤って繁殖させてしまったら、子孫を殺処分することになります。

各国が外来植物や動物の自国への侵入を阻止しようとするのには、十分な理由があります。それらは自然の秩序を乱し、既存の生態系を脅かす可能性があるからです。交配がどれほど危険であるかは、いわゆる「キラービー」によって実証されています。キラービーは、高い収量能力を持つ強健な品種を作出しようとする試みによって生み出された人工的な産物です。その結果、全く異なる受粉パターンを持つ攻撃的な蜂の群れが生まれました。偶然にも、これらの一部が実験室から逃げ出し、現在ではラテンアメリカ全域とアメリカ合衆国南部で深刻な脅威となっています。その習性から、キラービーは商業養蜂には適しておらず、アメリカ大陸でヨーロッパミツバチに取って代わることで、果樹園の商業受粉に深刻な問題を引き起こしています。これは、必要な管理が不十分な場合に人種の混合がどのような結果をもたらすかを示す好例です。そして、人類の人種混合が全く管理されていないとしたらどうなるでしょうか。

動物の交配と同じ手法を人間の種族の交配にも導入すべきだと主張する人はおそらくいないでしょう。これは、私たちが動物よりもはるかに複雑な要素を扱っているという事実を別にすればの話ですが。人間が社会の要求に応えられるかどうかを決定づけるのは、身長、肉質、乳生産能力といった簡単に定義できるものではなく、性格、知性、創造性、そして内面の調和といった要素です。これらはすべて、人種を混ぜ合わせると大きく損なわれることが知られています。

これに関連して、無制限の人種混合を支持する人々が全員、現在アーリア世界に流入している異人種的要素がどのような望ましい性質で白人種を豊かにすることができるのかについて、まったく説明できていないことも注目に値する。

いずれにせよ、社会のあらゆる分野における現在の崩壊傾向は、人々を不安と不幸に陥れるに違いありません。同じ文化的、歴史的、生物学的背景を持ち、未来への同じ精神的志向を持つ人々からなる、真に調和のとれた共同体においてのみ、個人は必要な心の平安と内なる安心感を見出すことができます。そこでのみ、人間は自分がより大きな全体、つまり個人自身よりも強大な何かの自然な一部であり、個人が消滅した後も、これまでと同じように存在し続ける何かの自然な一部であることを実感できるのです。

個人が生まれる前から存在していた。そのような運命共同体においてのみ、人は求め続けてきた永遠の命を見出すことができる。私たちの子供たち、そして私たちの国民の中で、私たちは永遠に生きるだろうが、それは私たちが持つ永遠の唯一の分け前だ。それがなければ、私たちは生まれてこなかったも同然だ！

一方で、もし人間が自らのアイデンティティと人生の目的を国家共同体の外で探さなければならないとしたら、この共同体は意味を失い、配偶者が住所以外何も共有していない結婚のように必然的に崩壊するだろう。

これは根本的な国家主義の見解です。

しかし、集団内の忠誠心は相互的でなければなりません。市民が社会に忠誠を尽くすだけでなく、社会も市民に忠誠を尽くさなければなりません。したがって、忠誠心は、誰も搾取されず、誰もが共通の価値を守り、市民の生命と幸福を保証し、各個人に人民の永遠の命の分け前を与える秩序を維持するために、公共の利益のために全力を尽くす、公正な社会条件と経済システムを前提としています。

これは根本的な社会主義の見解です。

社会主義のないナショナリズムは馬鹿げている。そしてその逆もまた同じだ。明確に定義された共同体のない社会主義には意味がない。

今日、国家社会主義的な態度は戦争や他国への抑圧につながるとよく言われます。これは全くのナンセンスです。真実は全くの逆です。他者の文化的•生物学的アイデンティティを尊重できるのは、人種的•文化的差異の存在とその必要性を認識した時だけです。そして、自らのアイデンティティを尊重できなければ、他者のアイデンティティを尊重することはまず不可能です。人種的差異の存在を否定するなら、他者の個性を全く考慮することなく、常に自分が最善と考えるものを押し付けようとするのは明らかです。このような態度こそが、まさに人種差別です。

キリスト教、イスラム教、マルクス主義に共通する、人種に関係なくすべての人々にとって正しい唯一の文明があるという悲惨な考えは、前世紀のヨーロッパの植民地帝国と、現代の工業化世界の不毛な物質主義的生活様式を、ただ単に

輝きは見えるが、その代償を計算できない。これが彼らの破滅であり、私たちも破滅するだろう！ 消費社会は市場と消費者しか見ていない。そこでは均一性がキーワードとなる。均一な顧客は特別な要求を持たず、生産はより単純かつ安価になり、結果として売上と利益が増える。国民性や文化様式、言語の違いはここでは厄介者であり、貿易の技術的障壁となる。だからこそ、彼らは争うのだ。多国籍企業や多国籍チェーンにとって、消費さえできれば、すべての人々は平等なのだ。彼らは人間の価値を全く尊重しない。彼らはそれを踏みにじるのだ。

国家社会主義にとって、差異は自然秩序の一部であり、人種、民族、そして個人間のあらゆる差異を含め、この秩序を維持したいと願う。黒人部族に我々の宗教を実践させ、我々の食べ物を食べさせ、我々の法律を適用させようとは全く思っていない。我々は、他の民族が自らの未来への道を見つけてほしいと願っている。

もちろん、双方にとって利益となるのであれば喜んで協力すべきですが、彼らを邪魔してはなりません。もし彼らが道を見つけられないのであれば、それは彼らの問題であり、私たちの問題ではありません。私たちは誰とも争いを望んでいません。ただ平和を望んでいるだけです。しかし、私たちは平和主義者ではありません。国家として生き残るためには、すべての民族が時に戦わなければならないことを知っています。戦わなければ、国家は滅び、私たちはただ傍観して自らの民族が滅ぼされるのを待つことはできません。私たちの存在が脅かされるならば、私たちは自らを守らなければなりません。そして、互いに尊重し合う独立国家からなる新たな国家社会主義の世界秩序だけが、永続的な平和を確保し、差し迫った破滅から世界を救うことができることを私たちは知っています。

もし世界が国家社会主義を唯一の未来への希望として受け入れなければ、人類は破滅に直面するだろう。これは、人類が自然法則を絶えず侵害してきたことの必然的な帰結である。
しかし、宇宙の終わりではない。そこから見れば、地球とそこに生きる人類は、巨大な機械の小さく、全く不要な一部に過ぎない。もし人類が消滅すれば、過去1万年間の様々な文明は、無限で時間のない空間における取るに足らないエピソード、失敗した実験に過ぎなくなるだろう。全面核戦争の後でも、地球上のいくつかの場所にはおそらく生物の基盤が残り、より高度な形態への進化が再び始まるだろう。たとえそのような戦争で地球が完全に破壊されたとしても、

あるいは他の理由であっても、はるか遠くの太陽系のどこか、宇宙のどこか、もしかしたら数千光年も離れた別の惑星に生命が存在する可能性は極めて高い。いずれにせよ、自然は常に存在する。人間も地球も存在しないとしても。たとえ生命がいなくても、宇宙には自然の秩序が依然として存在する。この宇宙は人間に特別な法則を認めず、もし人間がそのことに気づかなければ、やがて滅びる運命にあることになり、それを変えることは誰にもできない。

しかし、私たちはそのようなことが起こるのを許すのは残念だと考えています。だからこそ、私たちはこんな遅い時間に、人々に理性に耳を傾けてもらおうとしているのです。一刻の猶予もありません。あなたも参加しませんか ?私たちのためではなく、皆さんの子供たちのために。

白人と

彼らが築き上げた文明を ?私たちも守ることはできない！

確かにこれは政治の問題ではありません。私たちの存在そのものが危機に瀕しています。これ以上時間を無駄にできるでしょうか？

国家社会主義左翼運動ポウル•H•リース

=クヌーセン

長年にわたり、国家社会主義者は極右派であると広く認識されており、彼ら自身も自らをそう呼ぶことを躊躇したことは稀であった。しかし、ある時点から、世界国家社会主義者連合は「右派」という用語を避けることを公式方針とし、国家社会主義は「右」と「左」というパターンには当てはまらず、むしろこの区別を超えた存在であると主張した。これは確かに正しい方向への一歩であったが、しかしながら、この時期、そして現在の闘争の文脈において、政治勢力に関する問題全体を再考し、「右」と「左」という用語の意味と、それらが今日の政治情勢にどのように適用されるかについて、いくつかの点を明確にしておくことは賢明なことかもしれない。

歴史的に、政治的見解を示す「右」と「左」という言葉は、革命前のフランスに由来しています。当時の国民議会では、現状の統治体制をほぼ維持しようとする人々が右派に、より急進的な改革を望む人々が左派に席を置いていました。そのため、「右」は反動派、「左」は革命派を指す言葉となり、その後、これらの言葉は広く知られるようになりました。

しかしながら、「反動主義」という言葉も「革命主義」という言葉も、問題となっている特定の見解について普遍的な意味を持つものではない。どちらも相対的であり、特定の歴史的文脈の中でのみ特定の意味を持つ。例えば19世紀のヨーロッパ国民自由主義者のような過去の革命家たちは、今日ではあまり革命的とは思われない。むしろその逆だ！ 今日の反動家たちが200年前であれば、非常に革命的と見なされていたであろうのと同じように。1917年に共産党がロシアを制圧した時、彼らは非効率的で腐敗した体制を打倒しようとする革命家として行動した。しかし今日、彼らは新たな革命的挑戦に直面する反動体制を象徴している。

現代において、伝統的な左翼は主にマルクス主義である。「左翼」という言葉自体が「マルクス主義」という言葉と同義語だと考えられているほどだ。もちろん、これは現実には根拠がない。どんな革命家も左翼なのだ。ただ、マルクス主義者には競争相手がほとんどいなかったため、左翼とみなされてきただけなのだ。

用語を適切に使用できる。

政治的スペクトルの反対側には右翼があり、物質主義と資本主義を伴う西洋のいわゆるキリスト教文明、つまり現代社会を守ろうとする反動主義者たちで構成されています。右翼は伝統的な愛国的価値観を掲げ、良きキリスト教徒であり良き市民として憲法を擁護し、祖国と君主（もし君主がいるならば)に忠誠を誓います。彼らは自国の偉大さを主張するためなら、どんな国に対しても戦争をいといません。たとえ、その国の統治システムがいかに腐敗し堕落していても、自国の秩序を脅かすと判断すれば、白人国家との核戦争さえ辞さないのです。彼らは結果を顧みず、無制限の自由企業に基づく経済を支持しますが、政治におけるリベラルな傾向、移民、人種統合には憤慨しています。なぜなら、彼らは慣れ親しんだ秩序を覆す可能性のあるあらゆる変化を恐れているからです。

このスペクトルの中で国家社会主義者がどこに位置づけられるかは、極めて明白です。我々は左翼です。疑いの余地はありません。我々は現在の体制、あるいはその一部を維持することを望んでいません。我々は、国民を現代の悲惨さへと導いた体制の根幹を信じていません。白人国家間の二度の世界大戦、無数の小規模戦争、核再軍備、環境汚染、失業、未来への希望を失った若者の完全な幻滅、麻薬乱用、ポルノグラフィー、そして今日見られるその他あらゆる堕落の原因となったいかなる制度も支持したくありません。我々国家社会主義者は、あらゆるものの中で最も根本的な変化を望んでいます。我々は、旧体制全体の完全な打倒を望んでいます。

マルクス主義は、旧秩序と基本的な平等主義哲学を共有し、物質的財産の単なる再分配を目的とする唯物論的運動であると自らを定義するのに対し、国家社会主義は、理想主義と生活のあらゆる側面における自然法則への深い敬意に基づいた完全に新しい秩序の構築を目指しています。

これは間違いなく今世紀で最も革命的なアイデアです。
したがって非常に左翼的です! - そしてそれは決してマルクス主義ではありません!

国家社会主義と比較すると、マルクス主義はキリスト教によって発明され、自由民主主義によって支持された、偽りの革命思想に過ぎない。「もしすべての人間が平等に創造されたのなら、なぜすべての富がすべての人々に平等に分配されないのか？」という問いである。この観点から見ると、マルクス主義は私たちが破壊しようとしている旧秩序の一部に過ぎない。

もし国家社会主義が本質的に左翼運動であるならば、国家社会主義者が伝統的な右翼的態度に迎合することに多大な時間と労力を費やしてきた一方で、左翼への道筋を一切拒絶してきたというのは、当然ながら矛盾している。このような基盤の上に国家社会主義運動を創設しようとする試みがことごとく完全に失敗に終わったのも不思議ではない。

この世で何かを創造するための最初の前提条件は、自分が何を達成したいのか、そしてそれをどのように実現できるのかを明確に理解することです。
おそらく、それを達成できるでしょう。芸術作品を創りたい彫刻家は、まず心の中で構想を描き、それから選んだ素材でそれを実現しようと試みます。彫刻家は、最終的な結果がどうなるかを考えながら、ただ大理石にノミを当てて無造作に何かをするわけではありません。

したがって、国家社会主義は単なる極右主義の一形態ではないことを認識することが重要です。私たちの陣営内でそのような考えを未だ抱いている者は、国家社会主義の真の意味と意義を探るために、その思想を深く研究すべきです。あるいは、そうするだけのエネルギーや能力がないのであれば、別の活動の場を見つけるべきです。この運動には、不満を抱えた憎しみの持ち主や宗教的な夢想家はいません。献身的な国家社会主義革命家だけがいるのです！

現実的に考えてみましょう。右翼は大部分が、非常に曖昧な考えを持つ哀れな集団です。彼らは何かが間違っていることに気づいています。しかし、彼らは旧体制から離脱することを拒否しています。
彼らは全力でそれに固執し、75年前、あるいは100年前の状況に戻ろうとし、それがすべての問題を解決してくれると考えている。彼らは、今日の混乱が100年前のシステムの論理的な帰結であることを全く理解していない。

そのシステムの基盤は、現在の発展から私たちを守るほど健全で安定していなかった、ということです。私たちの問題の大部分の根源は、まさにあのキリスト教思想にあります。その平等主義哲学と異質で不自然な教えは、私たちの魂を奪い去りましたが、彼らはそれを、周囲で目にする衰退に対する盾として今もなお称賛し続けています。発展を阻止しようとする無駄な試みがすべて失敗すると、彼らは挫折し、単なる憎しみの持ち主と化します。なぜなら、彼らには真のビジョンもイデオロギーもないからです。

右翼から良いものは何も生まれていないというのは歴史的事実です。コペルニクス、ケプラー、ジョルダーノ•ブルーノ、ガリレオといった革命家たちがいなかったら、私たちは今でも地球が平面で宇宙の中心だと信じていたでしょう。資本主義が発展すると、体制側は産業革命によって生じた社会問題を解決しようとせず、むしろ新たな労働者階級を容赦なく搾取し続けました。こうしてマルクス主義思想に象徴されるような革命思想が生まれたのです。

そして、過去 100 年間に私たちが目にしてきたすべての必要かつ正当な社会的改善は、左翼からの強い圧力の後でのみ導入され、右翼保守派は常に後退し、哀れにもできるだけ自分たちの利益のために残そうとしてきたのです。

もちろん、これは既存のシステムを覆そうとするあらゆる努力がそれ自体善であるという意味ではありません。もし人間が、時代遅れの概念に固執することなく、生命の本質に関する新たな科学的•哲学的洞察を取り入れ、化石化することなく生命体として存続し、自然法の境界内で発展する新たな自然秩序を創造することに成功したならば、その秩序を根こそぎにし、利己的な唯物論、キリスト教、あるいはその他の非自然的な哲学に回帰しようとすることは、実に重大な犯罪となるでしょう。善悪は、自然法に基づいてのみ判断され得るものであり、自然法に近ければ近いほど良いのです。

国家社会主義とマルクス主義の間には大きな隔たりがあることは、ほぼ普遍的に認められている。しかし、同様に、国家社会主義者は決して右翼ではない。国家社会主義と右翼の唯一の共通点は人種問題にあるように思われる。しかし、ここでも極端な違いがある。

右翼は、白人であること自体が絶対的な価値を持ち、それがアーリア人種を他のすべての生物よりも優位に置き、世界に対して望むままの行動をとる権利を与えていると信じている。しかし、国家社会主義者である私たちは、自らの人種の生命と目先の幸福だけを気にしているのではない。私たちは白人種を宇宙全体の自然秩序の一部と見なし、それを守りたいという願いは、自然の計り知れない叡智への深い敬意から、他の人類を含む自然環境全体を守りたいという願いと結びついている。

私たち人類がその知的能力において大きな可能性を秘めていることは疑いようがありません。しかし、その能力は、自然の法則に従って正しく用いられなければ、それ自体として全く価値を持ちません。私たちはあまりにも長い間、「白人の力」を唱える合唱に加わり、少なくとも2000年の間、私たち人類が絶対的な権力を握ってきたという悲しい事実を無視してきました。そして、まさにこの力こそが、今日の社会をもたらしたのです。

したがって、私たちは、右翼が信じるような継続的な技術•経済拡大は受け入れません。この拡大はすでに大気と水の汚染を招き、世界の広大な地域をあらゆる生物にとって住めない場所にしています。この発展は、大気中のオゾン層が体系的に破壊され、未来の世代が生命を脅かす放射線にさらされることを意味し、かつて私たちに酸素を供給してくれた熱帯林は産業発展のために伐採され、砂漠は灌漑によって肥沃な地域の地下水位が低下し、その結果、砂漠化が進むことになります。これらはすべてアーリア人の天才の賜物であり、それがなければ存在し得なかったでしょう。その天才は、私たちの子供や孫のためにより良い世界を築くためにではなく、未来を顧みず、今この瞬間の人間の欲望を満たすため、快適な生活を確保するためだけに使われてきました。この致命的な傾向は、自然法の基準から見て、西洋の白人工業化国家を第三世界のいわゆる原始社会よりもはるかに堕落した国家へと確実に変貌させており、右翼によって激しく支持されている。彼らは、黒人、ユダヤ人、そしてボートピープルさえ追放すれば全てがうまくいくと考えているようだ。しかし、それ自体では何も変わらないことは分かっている。

全然。

私たちの目標は完全な精神的再生であり、この再生の基盤を明確化し、築くことが当面の目標です。人種闘争に意味を与えるのは、この再生だけです。そして、この闘争は他の人種との闘争としてではなく、私たち自身の人種の堕落との容赦ない闘いとして理解されるべきです。新しい社会の基盤として人種に孤立して訴えることは、この堕落を克服し、自然的価値観への回帰を見出さない限り、無意味です。もし私たちの人種が現在の体制の中でしか生き残れないのであれば、私たちはそれを望みません。なぜなら、もしそうであれば、それは反自然的な退廃の最も甚だしい形態に他ならないからです。「ホワイトパワー」の主張は、白人の天才に潜在する自然の力を再び活性化させたいという願いを意味する場合にのみ、意味を持ちます。そして、その力を生命の原理そのものを守るために活用することが、白人の義務なのです。

もちろん、これは私たちがいかなる種類の多民族主義も支持するという意味ではありません。人種は自然秩序の礎石の一つであり、したがって他のすべての自然原理と同様に守られなければなりません。

肌の色が白いことが必ずしも人間の質を示す証ではないことは確かだ。白人種は世界を破滅の淵に追いやってきた。マルクス主義と自由主義の究極の目標である物質主義的な消費社会を、自然的•精神的な価値観に置き換えることで生活の質を向上できるという認識を人々に植え付けない限り、世界は破滅の道を辿り、地球全体を完全な衰退へと導くことになるだろう。

もちろん、国家社会主義者は石器時代の洞窟に戻るべきだとは考えていません。しかし、自然から奪うものは、自然に戻すものよりも決して多くあってはならないと考えています。私たちにとって、物質的な豊かさよりも、生活の質こそが重要になるはずです。

今日の幻滅した社会では、このことに気づき、さらには支配体制に抗議する人が増えています。

しかし、彼らが国家社会主義者にならないのは、単純な理由からだ。彼らは、国家社会主義——そして国家社会主義だけが——が今日の重大な問題を解決できるということに気づいていない。彼らは、抗議運動が国家社会主義に乗っ取られることを許しているのだ。

マルクス主義者は、私たちよりも自らの製品を売り込むのが上手い。しかし、マルクス主義政権はこれまでこれらの問題に少しでも取り組もうとしたことがない。それは、マルクス主義の概念そのものが唯物論的であり、自然的価値とは全く無関係だからだ。マルクス主義者は、体制に対する民衆の不満を利用してマルクス主義を推進しているだけだ。不満を抱える個人は、そもそもマルクス主義者ではない。

国家社会主義者が、政治的•宗教的こだわり、悪名高い誇大妄想、そして大義への献身の欠如（常に守備的になり、失われるべきものを守ろうとする姿勢に起因する)を露呈しながら、伝統的右翼の少数派グループを味方につけようと奔走する一方で、マルクス主義者は、地球の未来に対する理想主義的な懸念から無制限の物質主義を放棄する、問題意識を持つ市民の間に足場を築いている。これらの人々は、自然秩序の保全には、汚染の抑制や原子力•原子爆弾の廃絶といった、より広範な対策が必要であることに気づいていない。彼らは、人種の分離と、人類を生命の源泉へと導くような、全体的な精神的復興も必要であることを理解していない。しかし、必要な情報と洞察力を与えられ、愚かなマルクス主義の教えにのみ支配されなければ、彼らはこのことを学ぶことができる — というより、理解せずにはいられない — のだ。これらの人々は理想主義的で自然を擁護しており、それゆえ真に私たちの味方です。そして、彼らは一般的に、幻滅した多くの若者たちよりも、はるかに価値のある戦士です。彼らは、自称国家社会主義者を名乗り、自尊心を高め、個人的な問題や不安を自称制服や滑稽な階級や称号の背後に隠そうとしています。しかし、環境保護主義者たちは、突撃隊や憎悪プロパガンダに惹かれるわけではありません。これらはすべて、国家社会主義に対する彼らの否定的な印象を強めるだけです。また、彼らに人種の重要性について話しても役に立ちません。なぜなら、彼らはまだ人種問題の関連性を理解できるほど十分に成長していないからです。彼らには、彼らが今ここで直面している問題に向き合う必要があります。そのためには、環境保護に関する良質な資料を作成することが不可欠です。

国家社会主義の観点から見た問題を理解し、核、汚染、核戦争に抗議する人々が集まるグループに入り込むべきです。環境保護主義者が私たちのところに来ることは期待できません。なぜなら、彼らは国家社会主義が何であるかを全く理解していないからです。もし私たちが彼らと接触を取らなければ、彼らはマルクス主義者の手に落ちてしまうでしょう。彼らは、自らの態度の真価を決して理解できないでしょう。

　これらの新しい抗議者たちが我々に敵対しているのは、何十年にもわたる敵のプロパガンダのせいにほかなりません。このプロパガンダは、健全で知的な人々を、国家社会主義の思想を公然と表明するあらゆる運動から遠ざけただけでなく、このプロパガンダによる国家社会主義のイメージにぴったりと合う、そしてただそのイメージにふさわしい生き方をしたいという理由で我々の運動に加わる人々を大量に引き寄せることにも成功しました。彼らは、ハリウッド映画やイエローメディアによる恐るべき「ナチス」の描写で彼らが知るようになった、残忍で血に飢えた獣のような存在になりたいのです。

　あまりにも長い間、私たちはそのようなサイコパスを組織に迎え入れ、そしてあまりにも長い間、同じようなことをする他の組織との関係を断つことを怠ってきました。国家社会主義者を自称し、スワスティカを振り回すからといって、彼らが私たちの同志になるわけではありません！多くの組織は未だにこのことに気づいていません。そして、そうしない限り、彼らは破滅する運命にあるのです。

残念ながら、私たちも、公の場で彼らを非難する機会を逃さなければ、同じことになる。敵の前で「汚れた下着を洗う」べきではない、そして「内部抗争」はすべて内部に留めておくべきだとよく言われる。

自分たちの壁。しかし、これは私たちのリネンではなく、ましてや「内部抗争」などではありません。これは必要な清掃作業であり、公の場で行われなければなりません。

　我々の最悪の敵は、ユダヤ人でも共産主義者でもなく、自らを国家社会主義者と称しながら、その行動によって国家社会主義哲学の基本概念を貶め、敵によって大衆に伝えられた我々の思想の歪んだ印象を確証する人々そのものである。

実際、私たちはそのような人々に対して忠誠心を感じることはできず、

友情とは、むしろ、彼らとのあらゆる繋がりを断ち切り、彼らが私たちのものではないことを示さなければなりません。何よりも、私たちは、自分たちに期待されていないことを、まさにそのために全力を尽くすべきです。
スワスティカを振りかざす右翼なら誰でも受け入れると思われている。そして、私たちが左翼に近い存在になることは絶対に期待されていない。なぜなら、私たちは何度も何度も右翼だと教え込まれてきたからだ。だからこそ、私たちは意図的に、彼らが誤った情報に惑わされてきたことを示すべきだ。驚きの効果によって、少なくとも何人かは私たちの言うことに耳を傾けるだろう。さらに、ナチズムに関して一度嘘をつかれたことに気づいた人々は、ナチズムについてこれまで聞かされてきたことを改めて考えるようになるだろう。

ᛉ

この点に関して、我々は歴史的な団体ではないことを指摘しておくべきだろう。多くの国家社会主義者は、我々が国家社会主義ドイツを復活させ、世界の他の地域に移植しようとしていると考えているようだ。これは我々の敵が我々をそう見せかけようとしている姿だが、事実はそうではない !国家社会主義ドイツは、ある試みであり、しかも完全に成功したわけではない！
特定の時代、特定の歴史的文脈において、国家社会主義共同体を組織すること。それは私たちにインスピレーションを与え、学ぶことはできる。しかし、それを復活させることはできないし、試みるべきでもない。それは、当時のドイツ国民にとって大きな懸念事項であったものの、今日の人々が必ずしも同等の重要性を感じていない一連の問題に対処するために設計された実験だった。
　約60年前、ヒトラーがドイツ再編という歴史的使命に着手した時、ドイツ国民全体は経済的、軍事的、そして政治的に屈服していました。第一次世界大戦の敗戦後、ドイツは植民地を失っただけでなく、ヨーロッパ領土の大部分を失いました。数百万人のドイツ人は母国から切り離され、彼らを抹殺しようとする外国で少数民族として悲惨な生活を送っていました。ドイツに残されたものは完全に

非武装化され、征服者たちが突きつけた法外な賠償請求の重圧は、世界史上最悪のインフレを引き起こし、経済回復の可能性を根絶しました。こうした状況下で、東から来た少数のユダヤ人移民が、徐々に壊滅した経済のみならず、国の文化と政治生活全体を掌握していきました。

この状況に比べれば、現在の経済危機に関する議論はどれも滑稽だ。物質的には、西側諸国やほとんどの共産主義国は、1920年代のドイツよりもはるかに恵まれている。今日では、自家用車を売却し、もしかしたらもっと安いアパートに引っ越すくらいの問題だ。ドイツでは、ただ生き延びることだけが問題だった。

ᛉ

しかし、道徳的には、私たちはヒトラーよりもはるかに深刻な脅威に直面しています。彼のドイツは依然としてかなり均質的な国家であり、ほとんどの国民が共通の価値観と規範、そして国家の文化的伝統に対する共通の信念を共有していました。人々はかつての力を取り戻したいと考えていました。強くなり、他国から尊敬されることを望んでいたのです。ヒトラーは人々に自らの国民と民族を愛するように言う必要はありませんでした。彼らがそうしていることを当然のことと見なすことができたのです。彼らの価値観と規範は必ずしも国家社会主義の哲学と完全に一致していたわけではありませんが、それほど困難なく国家社会主義国家を築くための確固たる基盤であり、だからこそヒトラーはより日常的な事柄に政治宣伝を集中させることができたのです。

　彼は、仕事と食料が最も重要であった、完全に革命的な時代に生きており、これらを確保できる計画があれば有権者の支持を得て権力を獲得し、当然のことながら、物質的な目先の必要性をはるかに超えた彼の政治的ビジョンを実現できると分かっていた。

しかし、周知の通り、当時のドイツにおける革命勢力は国家社会主義だけではなかった。共産主義者たちはヒトラーと全く同じ強みを持っていた。飢えた国民は生き残るために何でもする覚悟だった。さらに、

ヒトラーに対して彼らが優位に立ったのは、ロシア革命の成功を例に挙げることができた点だった。ヒトラーには、自らの闘争を結びつけられるような類のものは何一つなかった。そして注目すべきは、彼が自らの運動を、君主制や教会といった過去の強力な右翼イデオロギーと結びつけなかったことだ。彼のアプローチは徹底的に左翼的であり、体制と共産党に等しく反対していた。彼がついに共産主義者たちの支持を得たのは、彼らを黙らせることによってではなく、共産主義者たちと同じ問題を取り上げ、より良い解決策を提示することで彼らの支持を奪ったからだった。

ドイツ人労働者に、彼はより良く、より

ドイツ共産党党首だったテールマンほど有能な指導者はいなかっただろう。彼は当時の言葉で人々の関心事について語り、軍隊的なスタイルを採用した。これは、政府に裏切られたと感じざるを得ない退役軍人で溢れる国で人気があり、ヒトラーと酷似したスタイルと言葉遣いをする多数の共産主義殺人集団と戦わなければならない状況においても有効だった。

今日、ヒトラーのスタイルを真似しようとするのは政治的自殺行為だろう。
実際、これまでそれを試みたグループはすべて敗北しました。ヒトラーのプロパガンダ資料を奪うこともできません。
それを翻訳したり、転載したり、あるいは歴史研究の教材としてではなく、異なる文脈で模倣したりすることは愚かなことです。ヒトラーは1930年代のドイツ大衆の迎合に迎合していました。何よりもまず、現状では大衆を獲得する方法がないことを認識し、受け入れなければなりません。今日、私たちは少数の理想主義者を求めています。彼らを見つけるには、私たちの思考を転換しなければなりません。

まさに私たちが求めているタイプの人々に関係する問題、つまり汚染、核の脅威、多国籍資本主義の呪いなどに注目しなければなりません。これらの問題のほとんどはヒトラーの同時代人には知られていませんでしたが、だからといって取り組まない理由にはなりません。私たちの世界は50年前よりもはるかに複雑になっており、このことを考慮に入れない政治運動は時代錯誤の化石と化してしまうのです。

私たちは一般的に、話したり書いたりする傾向があることを認めなければなりません
ナチスドイツについてあまりにも多くのことを語っている。

ヒトラーがドイツに何をもたらしたかを示すことはできるかもしれませんが、今日私たちが求めているのは、50年前に何が起こったのかという点にはあまり関心がない人たちです。彼らは自分たちの時代、そして未来に関心があるのです。

私たちが過去に固執する理由の一つは、もちろん、国家社会主義ドイツが世界が目にした唯一の実践的な国家社会主義の例であり、あの短い12年間が私たちの運動が成し遂げた唯一の栄光と成功であるからです。これは理解できます。屈辱と迫害の困難な時代に、私たちはそれを必要としています。国家社会主義はかつてあらゆる逆境を乗り越えて勝利したのだということを、私たち自身に示さなければなりません。しかし、過去へのこの尊敬と称賛が、生産的なインスピレーションとなるのではなく、過ぎ去った時代へのノスタルジックな執着、NSDAPの装備品、制服、シンボル、階級章、髪型、さらには30年代の言語スタイルへの盲目的な愛着に変わってしまうのは、極めて危険です。重要なのは外見ではなく、その本質的な理念であり、私たちはそこから前進しなければなりません。ヒトラーのように、私たちは歴史に囚われないようにしなければなりません。言い換えれば、国家社会主義が今日の失業問題をいかに解決できるかを示す必要がある。

1933 年にヒトラーがそれをどう解決したかだけではありません。

国家社会主義の背後にある思想は、ヒトラーと国家社会主義そのものを超越する。ヒトラーはそれを過去の時代と場所に適用した。私たちはそれを現代に適用しなければならない。それは時代を超越する。なぜなら、それは自然が生き、創造する原理そのものを表しているからだ。それは時の始まりから存在し、宇宙が存在する限り永遠に存在し続ける。アーリア人種、あるいは人類そのものが存在するかどうかは関係ない。

人間はこの原則を放棄しており、罰を受けずに放棄することはできないこと、そして現在のすべての問題は人間が自然よりも優れているという狂気の信念によって引き起こされていることを人間に示すのが私たちの仕事です。
そうすることで、他の左翼勢力がソ連とあまり結びついていないのと同じように、我々は国家社会主義ドイツとあまり結びついていないことになる。

他の左翼団体の組織構造からも、私たちは多くのことを学ぶべきである。マルクス主義団体は人間の屑で構成されているとよく言われる。もちろん、一部の団体の信奉者層についてはそうかもしれないが、真摯なマルクス主義団体の中核は、質と献身を確実に確保できるような方針に沿って組織されている。メンバーはしばしば十分の一税を納め、毎週一定数の夜を思想訓練と実践活動に費やすことが義務付けられている。全体として、

マルクス主義者に課せられる要求は、私たちがこれまで会員に期待してきたものをはるかに超えています。これは質の高さを物語るものであり、また、マルクス主義者が私たちよりもはるかに優れた成果を上げている理由も説明しています。彼らの説く内容は全くのナンセンスであるにもかかわらずです。

しかし、国家社会主義者の間では、一般的にマルクス主義的とみなされる立場を取ったり、手法を採用したりすると、マルクス主義に「汚染」されるのではないかと強い恐怖を抱くようだ。彼らは、味方にも敵にも悪評を浴びると主張する。確かに、私たちはすでに悪評を買っている。正直に言って、これ以上悪くなることはまずないだろう。しかし、私たちは伝統的保守派の支持を獲得することにそれほど関心がないので、そんなことがどうだというのだ ?彼らが共産主義と国家社会主義の違いがわからないなら、それは彼らの問題であって、私たちの問題ではない！

もしそうなら、彼らは知性の欠如を示しており、いずれにせよ私たちにとって役に立たない。敵に国家社会主義の見解とそうでないものを決定させるわけにはいかないし、そもそも私たちにとって全く役に立たないことが証明された人々を喜ばせるために、すべての善行をマルクス主義者に委ねることもできない。私たちはすでにあまりにも長い間そうしてきた。そして、それがマルクス主義者がこれほど成功し、そして今もなお、

国家社会主義は私たちの文化と知的活動の広大な部分を掌握することができましたが、一方で国家社会主義者はNATO、欧州共同市場、核兵器、資本主義、無制限の「自由企業」などに「イエス」と言う義務を感じてきました。今こそ、この状況を変える時です !人々が私たちに期待するように仕向けられたことを続けるのはやめましょう。国家社会主義が私たちに教えていることをやろうではありませんか。人々が国家社会主義が私たちに教えるべきだと考えることをやろうではありませんか。

これに関連して、悲しい真実は、多くの国家社会主義者が伝統的な考え方によって最悪の犠牲者になったということである。

右翼の反共産主義プロパガンダ。人類に対する主な脅威は、モスクワ、北京、ハバナから発生するものでは決してありません。今日の世界の悲惨な状態 ― 薬物乱用、犯罪、ポルノ、核再軍備、人種統合、汚染など ― を共産主義者のせいにすることは絶対にできません。責められるべきは、共産主義者でもユダヤ人でもなく、私たち自身の現在の政治体制です。これらの悪は、私たち自身の腐敗し道徳的に堕落した政治家や株式仲買人によって生み出され、私たち世界のアーリア民族自身が、それをここまで悪化させてしまったのだということを認識しなければなりません。地球の存在を脅かしているのは外国政府ではなく、この現在の体制であり、この体制がなければ、今日のソ連も他の共産主義国家も存在しなかったでしょう。もし西側諸国がソ連に必要な武器と技術を与えていなかったら、共産主義は第二次世界大戦中に消滅していたでしょう。今日でさえ、共産主義国家はすべて、西側諸国の政府や銀行家たちの継続的な支援がなければ、たちまち崩壊してしまうだろう。彼らはこれらの国々との貿易、そしてそれら諸国への融資で巨額の富を築いている。共産主義者たちはこのことを確かに知っており、東欧諸国を統制し、アフガニスタンの共産主義政権を西側諸国にとって深刻な脅威とするために、彼らにはやるべきことが山ほどある。興味深いことに、共産圏との貿易で莫大な利益を上げている同じ多国籍企業が、共産主義者から自国を守るために必要だと政治家たちが説得しようとする兵器の製造でも、また巨額の富を築いている。まるで核戦争ですべての生命を滅ぼすことで何かを守ることができるかのように。もちろん、これは全く馬鹿げた話だが、それでもなお、右翼によってこれほど熱心に支援されている政治•金融システムなのである。

疑いの余地はない。共産主義は確かに非常に不快なものではあるが、世界の終わりではないだろう。
キリスト教自由民主主義なら、おそらくそうなるだろう !東ヨーロッパは西ヨーロッパのどこよりも人種的純粋さがはるかに高い。
彼らの非効率的な経済システムが大規模な第三世界の移民を引きつけないというだけの理由、そして、世界を支配する国民であるロシア人の人種意識。

ソビエト連邦は、アメリカのリベラル派や保守派の政治家が描くビジョンよりも、アーリア人種の存続にとって間違いなくより良い展望を約束している。もちろん、共産主義は理論上は人種主義的原則を支持していないのは事実だが、共産主義においては理論と実践は全く異なるものだ。西側諸国が提供する物質主義は確かに今この瞬間に魅力的だが、この快適な生活は、地球上のすべての生命を絶滅させるほどの大惨事に見舞われる可能性が高い。しかし、西側諸国に健全な政治体制がなければ、共産主義国家は存在し得なかっただろう。

彼らは自力で生き延びることは不可能で、飢えた国民は反乱を起こすだろう。共産主義が西側諸国を支配したとしても、全く同じことが起こるだろう。彼らの政権は長くは続かないだろう。

ここまで来ると、ナチズムやスワスティカに関する議論はすべてやめ、別の名前で簡単に人々に売り込める新しい思想を持つ「真の」左翼に変装すべきではないかと疑問に思う人もいるかもしれない。もちろん、それは不可能だ。そのようなアプローチを試みるのは、敵を過小評価することだ。彼らは名前やシンボルを全く気にしないのだ。

彼らが気にしているのはその考えであり、それを見分けがつかないほど隠すことはできません。私たちの敵は、どんな良いことにも常に反対します。
国民のために、そして彼らは当然のことながら、私たちを「ナチス」と呼ぶでしょう。
そうなると、私たちは「ナチスではない」と「証明」するために多大な労力を費やさなければなりません。これは馬鹿げた話です。多くの組織がそれを試みましたが、成功した組織はありません。

困難な道しかない。国家社会主義は人々が考えているようなものではなく、この惑星における生命の生存を保障する唯一の道であることを証明することだ。我々は弱い立場にあることは承知しているが、率直に言って、今ここで権力を掌握する心配をする必要がないことをむしろ喜ぶべきだろう。我々には到底対処できないだろう。これは、多くの国家社会主義者、そして自らを国家社会主義者と呼ぶ人々が完全に見落としている不愉快な事実の一つだ。明日、大衆の支持を獲得しようとしても、我々にとってほとんど役に立たない。

国家社会主義国家を機能させるのに必要な数の国家社会主義の専門家が不足しています。経済学者、法学者、行政学者、生物学者など、国家社会主義者でもある人材が必要です。権力自体が目的であってはなりません。私たちはより良い世界を望んでいるからこそ新秩序を創造したいのです。しかし、より良い世界は突然創造できるものではありません。この任務を遂行するには、徹底的な教育を受けた多くの献身的な人々が必要です。そして今、重要なのは、路上で多数の偏屈者や敗者に感銘を与えるために負け戦を戦うよりも、こうした人々の支持を得ることです。

国家社会主義ドイツは、再び我々に非常に示唆に富む例を示している。最初から国家社会主義体制を築こうとする実験が完了せず、新国家が外界からの圧力に耐えられなかった理由の一つは、アドルフ•ヒトラーが国家社会主義を軽蔑するだけの多数の専門家に頼らざるを得なかったことにある。共産党が政権を握る前に国民の支持を獲得することに集中しなければならなかったため、十分な数の国家社会主義者を育成•教育する時間がなかったのだ。我々はそのような心配をする必要がないことに感謝すべきである。現状ではいずれにせよ革命的な勝利を収めることはできない。だからこそ、将来の大衆運動のための確固たる基盤を築くことに集中すべきなのである。

しかし、現実を見ましょう。これもまた、負け戦になる可能性があるのです。
勝利の保証などありません。正直に言って、勝利できるという信念を支えているのは、ごく漠然とした希望だけです。しかし、自然自身が宇宙の法則を無視したために、人類を地球上から消し去ってしまうかもしれません。それが私たちの運命なのかもしれません。しかし、私たち国家社会主義者は、そのような展開を、たとえどんな困難に直面しても、闘うことなく受け入れるつもりはありません。しかし、私たちは敗北の道のために殉教者になるつもりはありません。そして、もし私たちが古いやり方に固執するならば、まさにそうなるでしょう。運動として、私たちはこれまで著しく失敗してきました。今こそ目を覚まし、私たちの思想の真の意義を認識する時です。第一歩は、革命のプロになることです。私たちは、生半可な右翼的態度をすべて捨て去り、自分たちが左翼であることを自覚しなければなりません。

ウィンガーズ。さらに、私たちは自分たちの不幸を他人のせいにするのをやめるべきです。私たちはあらゆる面で自分自身の最大の敵であり、スケープゴートなど必要ありません !私たちが望むどんな変化も、まずは私たち自身の国民の基本的な姿勢を変えることから始めなければなりません。これは大変な課題ですが、もし私たちが勝利しなかったらどうなるかを考えると、挑戦してみる価値はあるのです！